

石岡市男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

平成29年1月

石岡市

目次

I 調査の概要.....	1
II 調査結果の分析.....	2
【あなたご自身について】.....	2
【1 男女の地位の平等に関する意識について】.....	10
【2 男女の生き方や家庭生活などに関する考え, 役割分担などについて】.....	21
【3 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について】.....	33
【4 就業について】.....	38
【5 地域活動・社会参画について】.....	55
【6 ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人などからの暴力)について】.....	62
【7 男女共同参画社会について】.....	66
III その他記述・自由記述.....	71
資料編.....	84

I 調査の概要

1 調査の目的

石岡市では、平成 20 年 3 月に「石岡市男女共同参画基本計画」を作成し、男女がともにいきいきと個性や能力を発揮することができるまちづくりに向けた取り組みを進めており、平成 29 年度には新たな、第 2 次石岡市男女共同参画基本計画を策定することとなっています。

それにともない、男女共同参画に関する市民の意見や意識を把握し、新たな計画策定の基礎資料とするためアンケート調査を実施し、市の現状を分析評価することを目的としています。

2 調査方法

項目	一般市民
調査地域	石岡市全域
調査対象	市内在住の 18 歳以上の男女 3,000 人
調査の方法	調査用紙を使い、郵送による配布・回収
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査時期	平成 28 年 7 月 1 日(金)～平成 28 年 7 月 31 日(日)

3 回収結果

回収状況は、回答数 852 件、回収率 28.4%となっています。

対象	発送数	回収数	回収率
市民	3,000 件	852 件	28.4%

※調査精度：今回調査は、3.41%です。

調査精度とは、同じアンケートを 100 回実施した場合、統計学上 95 回までは調査結果(回答比率)の誤差が最大でも±3.41%(今回調査の場合)以内に収まるという精度の比率で、また、調査精度は、調査全体の精度で、男女別や年齢別での集計では精度が下がります。

4 集計について

- ・回答は質問ごとに各項目の回答者数を回答数で除し、百分率(%)で表示しています。
- ・算出された回答率は少数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 まで表示しています。そのため、質問によっては、1 人の回答者が 1 つだけ回答する場合(単数回答)でも回答率の合計が 100% ちょうどにならないものもあります。
- ・1 人の回答者が 2 つ以上の回答をしてもよい場合(複数回答)では回答者数を基数としているため回答率の合計は 100%を上回ります。

5 表記について

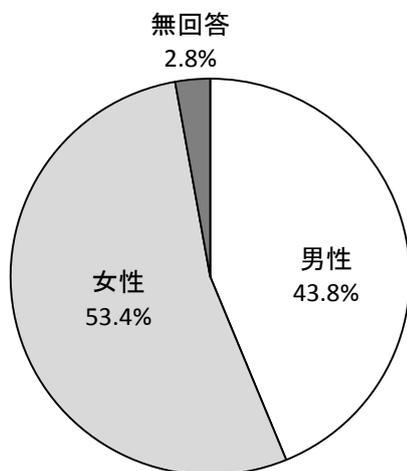
- ・表、グラフ中では、回答率(%)とともに、その設問に回答すべき数(回答者総数)も表示しています。ただし、スペースの都合により省略している場合もあります。
- ・表、グラフ、本文中において、回答選択肢の表記は、スペースの都合により簡略化している場合があります。

Ⅱ 調査結果の分析

【あなたご自身について】

F 1 性別はどちらですか。(〇は1つ)

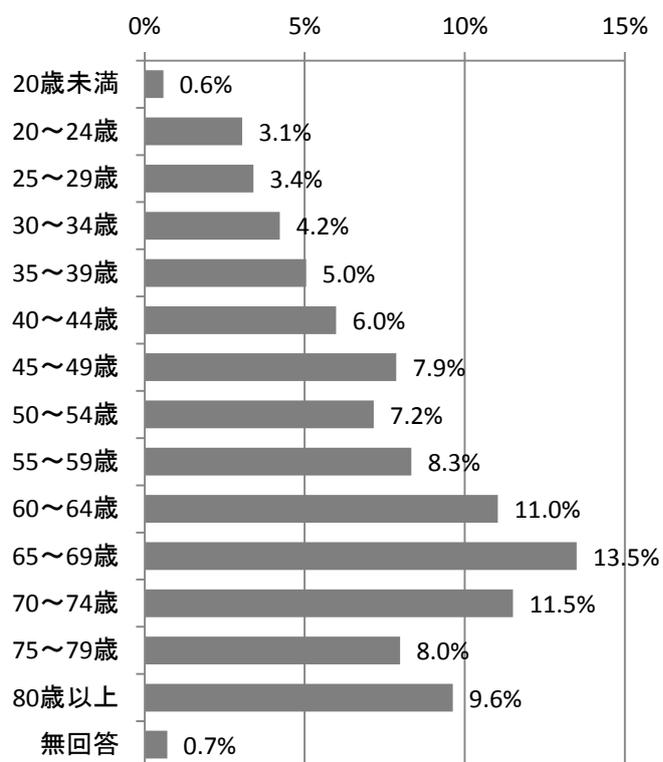
「男性」が43.8%、「女性」が53.4%となっています。



項目	回答数	構成比
男性	373	43.8%
女性	455	53.4%
無回答	24	2.8%
合計	852	100.0%

F 2 あなたの年齢(平成28年7月1日現在)は次のどれに該当しますか。

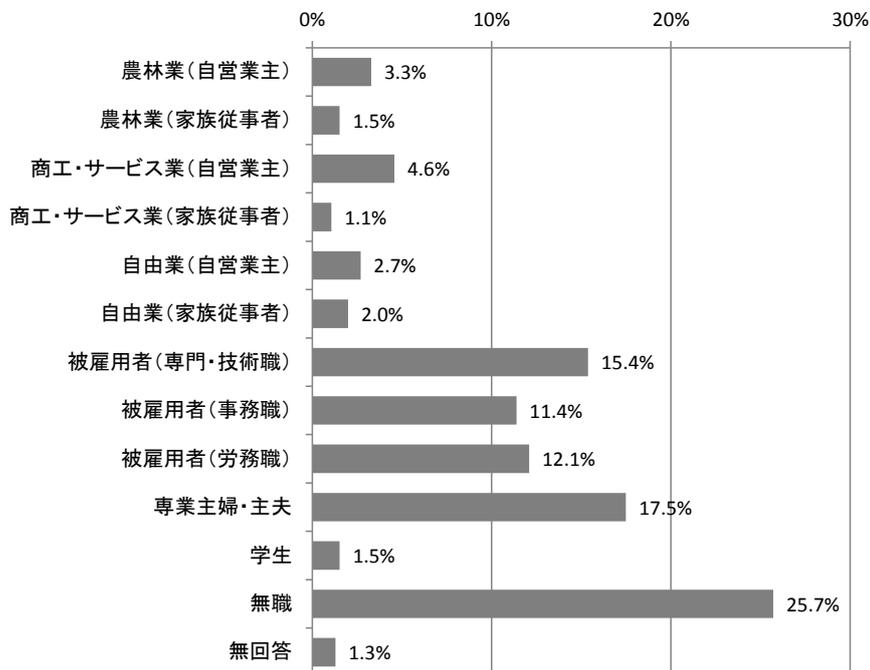
「60歳代」が24.5%と最も多く、次いで「70歳代」19.5%、「50歳代」15.5%、「40歳」13.9%と年代が下がるにつれ少なくなっています。



項目	回答数	構成比
20歳未満	5	0.6%
20～24歳	26	3.1%
25～29歳	29	3.4%
30～34歳	36	4.2%
35～39歳	43	5.0%
40～44歳	51	6.0%
45～49歳	67	7.9%
50～54歳	61	7.2%
55～59歳	71	8.3%
60～64歳	94	11.0%
65～69歳	115	13.5%
70～74歳	98	11.5%
75～79歳	68	8.0%
80歳以上	82	9.6%
無回答	6	0.7%
合計	852	100.0%

F 3 - 1 あなたの職業はどのような内容ですか。
(2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ)

「無職」が25.7%と最も多く、次いで「専業主婦・主夫」が17.5%、「被雇用者(専門・技術職)」15.4%となっています。

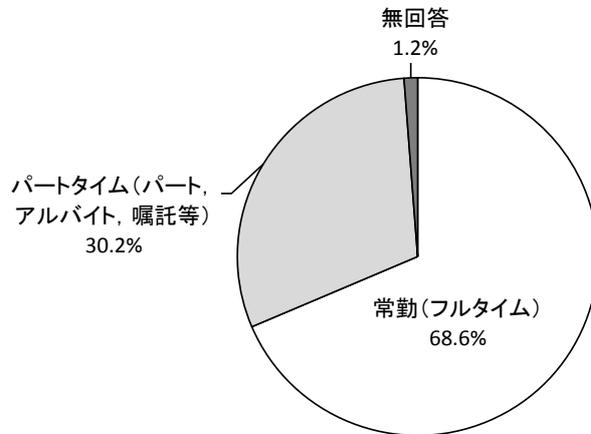


項目	回答数	構成比
農林業(自営業主)	28	3.3%
農林業(家族従事者)	13	1.5%
商工・サービス業(自営業主)	39	4.6%
商工・サービス業(家族従事者)	9	1.1%
自由業(自営業主)	23	2.7%
自由業(家族従事者)	17	2.0%
被雇用者(専門・技術職)	131	15.4%
被雇用者(事務職)	97	11.4%
被雇用者(労務職)	103	12.1%
専業主婦・主夫	149	17.5%
学生	13	1.5%
無職	219	25.7%
無回答	11	1.3%
合計	852	100.0%

F3-2 上記F3-1で、7、8、9とお答えいただいた方にお伺いします。

(1) そのお仕事は常勤ですか。パートタイムですか。(○は1つ)

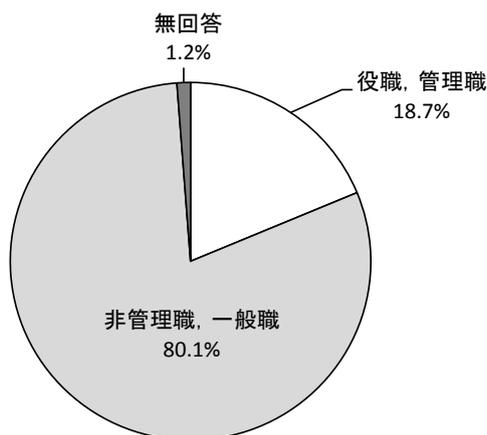
「常勤(フルタイム)」が68.6%、「パートタイム(パート, アルバイト, 嘱託等)」が30.2%となっています。



項目	回答数	構成比
常勤(フルタイム)	227	68.6%
パートタイム(パート, アルバイト, 嘱託等)	100	30.2%
無回答	4	1.2%
回答者数	331	100.0%
非該当	521	
合計	852	

(2) あなたの職名は何ですか。(○は1つ)

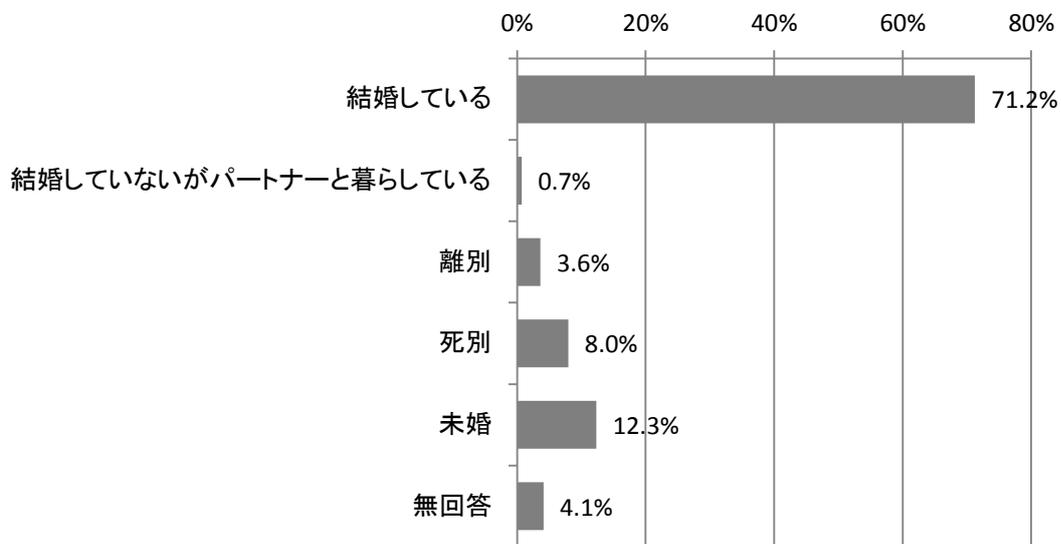
「非管理職, 一般職」が80.1%、「役職, 管理職」が18.7%となっています。



項目	回答数	構成比
役職, 管理職	62	18.7%
非管理職, 一般職	265	80.1%
無回答	4	1.2%
回答者数	331	100.0%
非該当	521	
合計	852	

F 4 - 1 あなたは結婚されていますか。

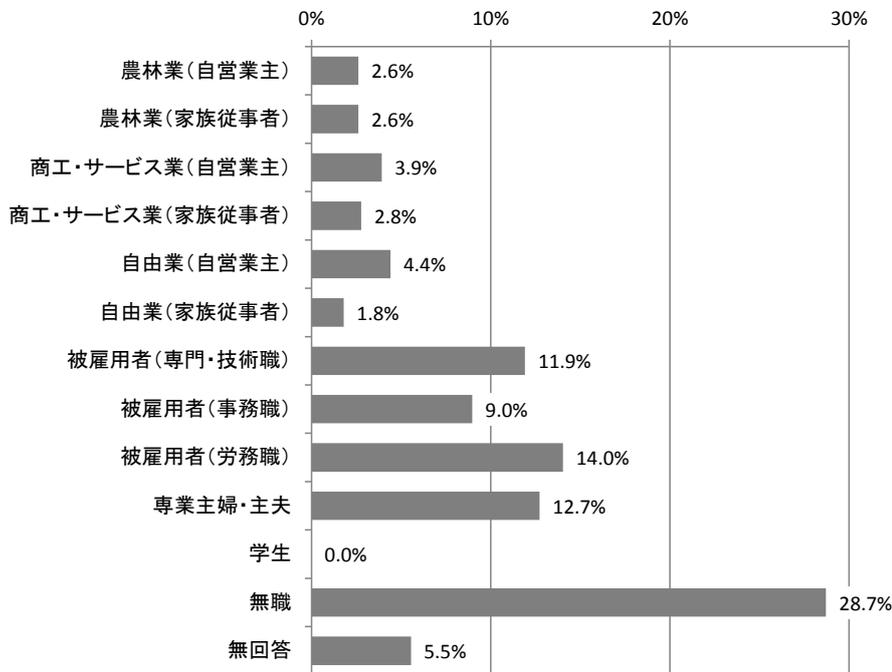
「結婚している」が70%以上となっています。
また、「未婚」は、12.3%となっています。



項目	回答数	構成比
結婚している	607	71.2%
結婚していないがパートナーと暮らしている	6	0.7%
離別	31	3.6%
死別	68	8.0%
未婚	105	12.3%
無回答	35	4.1%
合計	852	100.0%

F 4 - 2 上記 F 4 - 1 で 1 と 2 に お 答 え い た だ い た 方 に お 伺 い し ま す 。 あ な た の 配 偶 者 又 は パ ー ト ナ ー の 方 の 職 業 は ど の よ う な 内 容 で す か 。 (○ は 1 つ)
(2 つ 以 上 仕 事 を お 持 ち の 方 は 主 な も の を 1 つ)

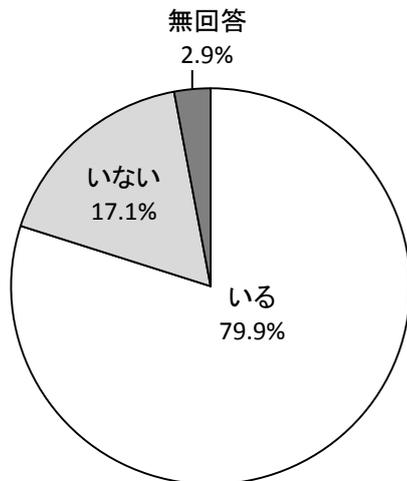
「無職」が 28.7%と最も多く、次いで「被雇用者（労務職）」14.0%、「専業主婦・主夫」12.7%、「被雇用者（専門・技術職）」11.9%、「被雇用者（事務職）」9.0%となっています。



項目	回答数	構成比
農林業(自営業主)	16	2.6%
農林業(家族従事者)	16	2.6%
商工・サービス業(自営業主)	24	3.9%
商工・サービス業(家族従事者)	17	2.8%
自由業(自営業主)	27	4.4%
自由業(家族従事者)	11	1.8%
被雇用者(専門・技術職)	73	11.9%
被雇用者(事務職)	55	9.0%
被雇用者(労務職)	86	14.0%
専業主婦・主夫	78	12.7%
学生	0	0.0%
無職	176	28.7%
無回答	34	5.5%
回答者数	613	100.0%
非該当	239	
合計	852	

F 5－1 あなたにはお子さんがいますか。

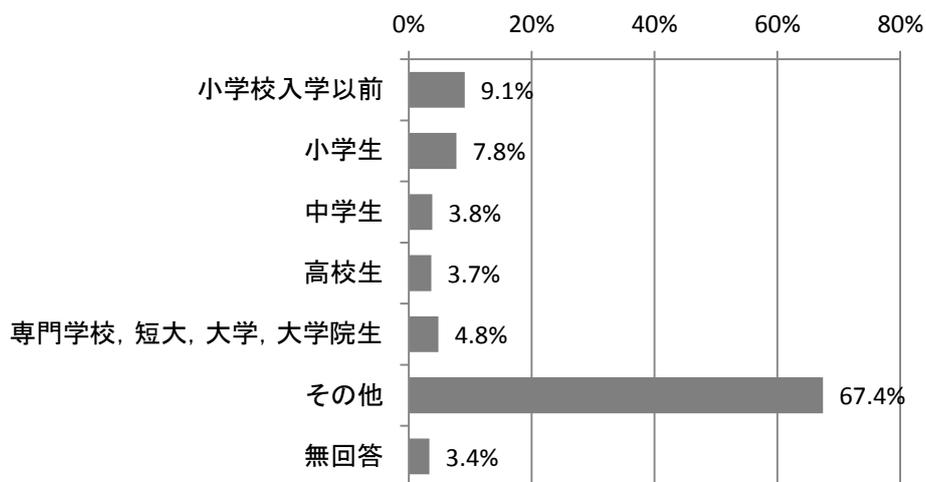
「いる」が79.9%、「いない」が17.1%となっています。



項目	回答数	構成比
いる	681	79.9%
いない	146	17.1%
無回答	25	2.9%
合計	852	100.0%

F 5－2 F 5－1で、1の「いる」にお答えいただいた方にお伺いします。 一番下のお子さんは、現在次のどれに該当しますか。（○は1つ）

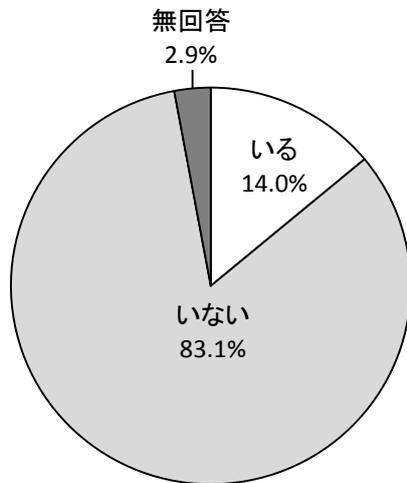
「小学校入学以前」が9.1%、「小学生」7.8%、「中学生」3.8%、「高校生」3.7%、「専門学校、短大、大学、大学院生」4.8%となっています。



項目	回答数	構成比
小学校入学以前	62	9.1%
小学生	53	7.8%
中学生	26	3.8%
高校生	25	3.7%
専門学校, 短大, 大学, 大学院生	33	4.8%
その他	459	67.4%
無回答	23	3.4%
回答者数	681	100.0%
非該当	171	
合計	852	

F 6 あなたのお宅には、現在介護を必要とする高齢者の方はいますか。

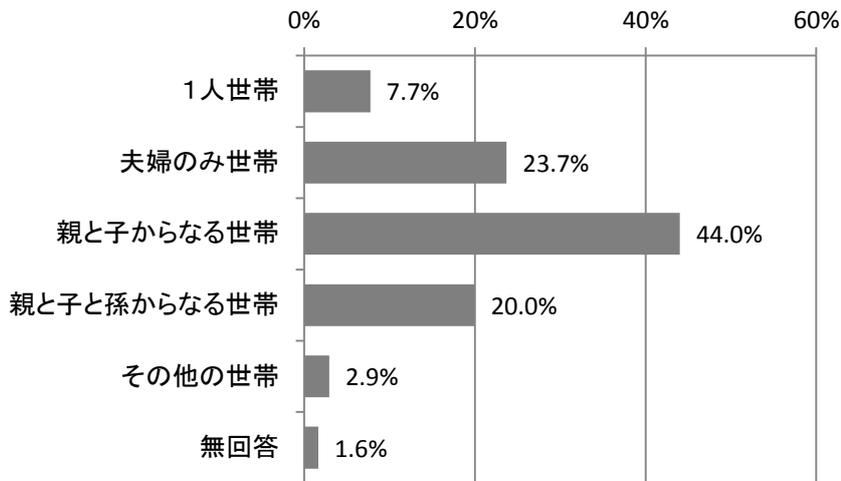
「いる」が14.0%、「いない」が83.1%となっています。



項目	回答数	構成比
いる	119	14.0%
いない	708	83.1%
無回答	25	2.9%
合計	852	100.0%

F 7 あなたが現在生活しているご家庭の家族構成は、次のどれに該当しますか。

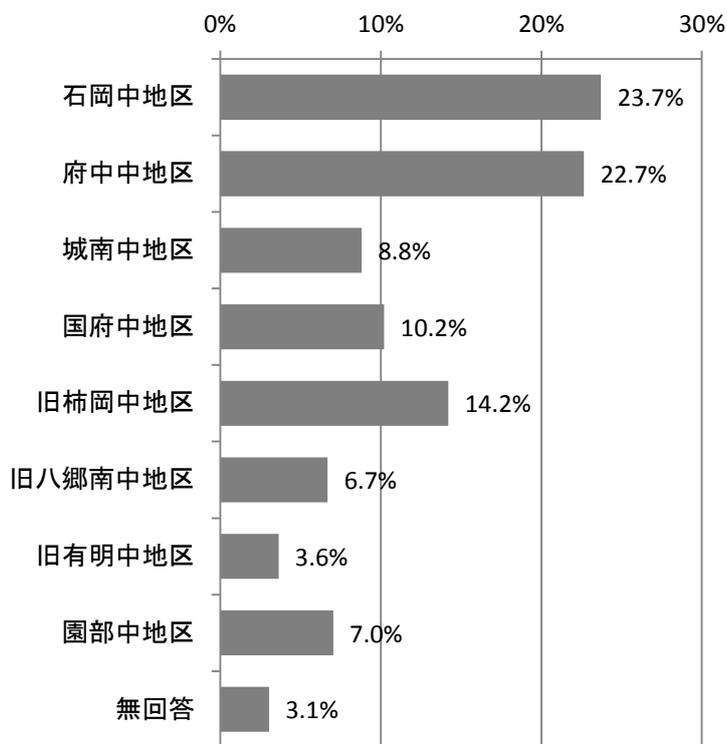
「親と子からなる世帯」が44.0%と最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」23.7%、「親と子と孫からなる世帯」20.0%となっています。



項目	回答数	構成比
1人世帯	66	7.7%
夫婦のみ世帯	202	23.7%
親と子からなる世帯	375	44.0%
親と子と孫からなる世帯	170	20.0%
その他の世帯	25	2.9%
無回答	14	1.6%
合計	852	100.0%

F 8 あなたが現在お住まいの地区はどの中学校区になりますか。

「石岡中地区」が 23.7%と最も多く，次いで「府中中地区」22.7%，「旧柿岡中地区」14.2%，「国府中地区」10.2%となっています。



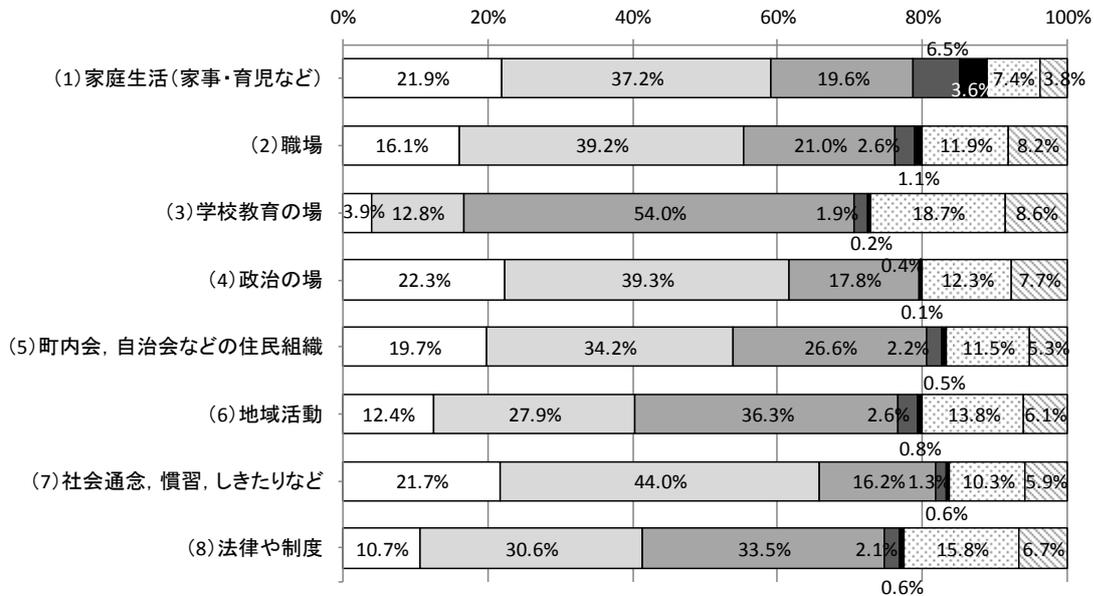
項目	回答数	構成比
石岡中地区	202	23.7%
府中中地区	193	22.7%
城南中地区	75	8.8%
国府中地区	87	10.2%
旧柿岡中地区	121	14.2%
旧八郷南中地区	57	6.7%
旧有明中地区	31	3.6%
園部中地区	60	7.0%
無回答	26	3.1%
合計	852	100.0%

【1 男女の地位の平等に関する意識について】

問1 あなたは、次にあげる8つの分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれについて該当する「1～6」に○を1つ)

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合わせた項目で最も多いのは、「(7) 社会通念、慣習、しきたりなど」次いで「政治の場」となっており、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の項目で最も多いのは、「(1) 家庭生活(家事・育児など)」となっています。

また「平等である」が多い項目は、「(3) 学校教育の場」となっています。



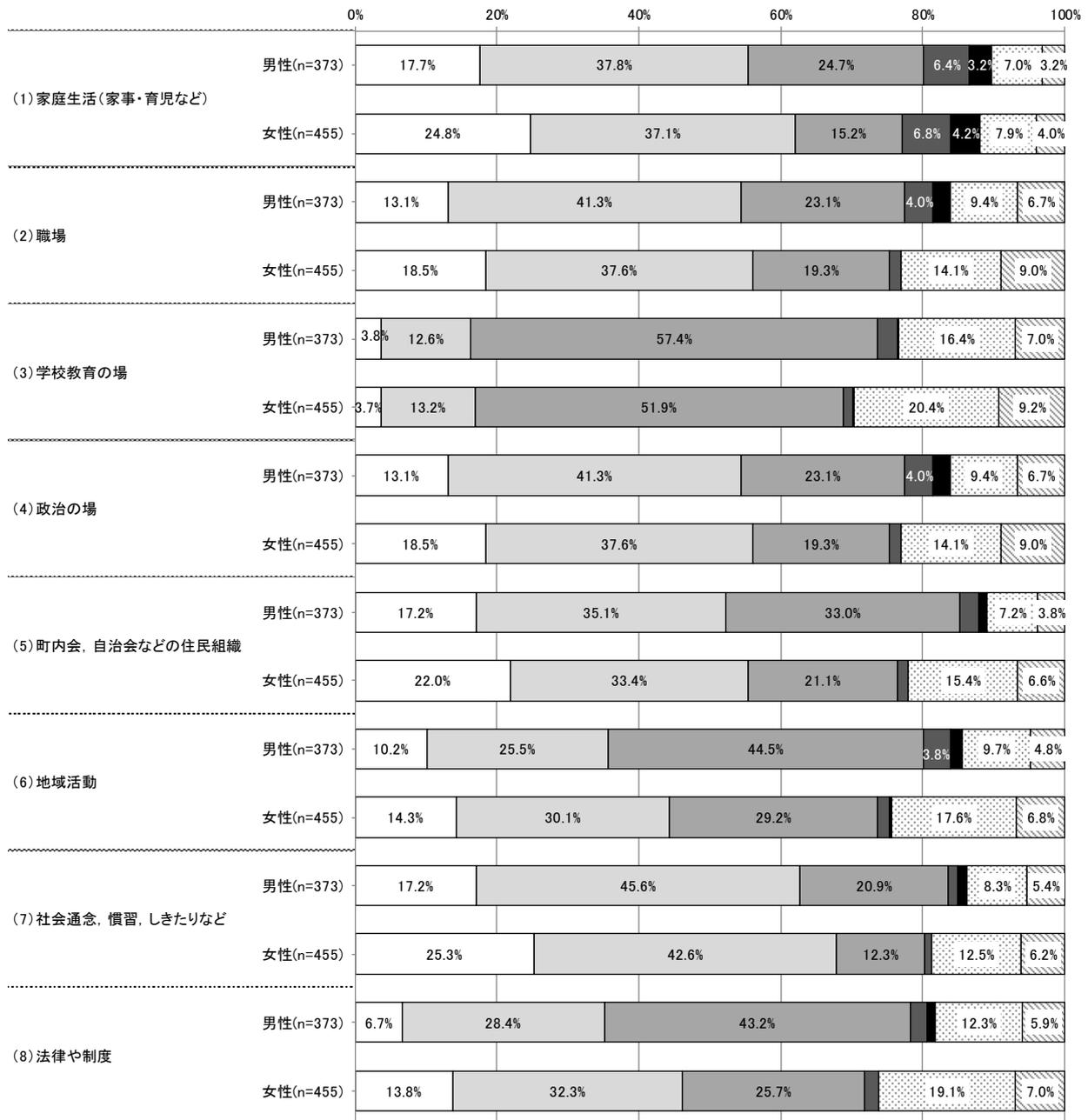
□男性の方が優遇されている □どちらかといえば男性の方が優遇されている ■平等である ■どちらかといえば女性の方が優遇されている ■女性の方が優遇されている □わからない □無回答

項目	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	合計
(1) 家庭生活(家事・育児など)	187	317	167	55	31	63	32	852
(2) 職場	137	334	179	22	9	101	70	852
(3) 学校教育の場	33	109	460	16	2	159	73	852
(4) 政治の場	190	335	152	3	1	105	66	852
(5) 町内会、自治会などの住民組織	168	291	227	19	4	98	45	852
(6) 地域活動	106	238	309	22	7	118	52	852
(7) 社会通念、慣習、しきたりなど	185	375	138	11	5	88	50	852
(8) 法律や制度	91	261	285	18	5	135	57	852

項目(構成比)	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	合計
(1) 家庭生活(家事・育児など)	21.9%	37.2%	19.6%	6.5%	3.6%	7.4%	3.8%	100.0%
(2) 職場	16.1%	39.2%	21.0%	2.6%	1.1%	11.9%	8.2%	100.0%
(3) 学校教育の場	3.9%	12.8%	54.0%	1.9%	0.2%	18.7%	8.6%	100.0%
(4) 政治の場	22.3%	39.3%	17.8%	0.4%	0.1%	12.3%	7.7%	100.0%
(5) 町内会、自治会などの住民組織	19.7%	34.2%	26.6%	2.2%	0.5%	11.5%	5.3%	100.0%
(6) 地域活動	12.4%	27.9%	36.3%	2.6%	0.8%	13.8%	6.1%	100.0%
(7) 社会通念、慣習、しきたりなど	21.7%	44.0%	16.2%	1.3%	0.6%	10.3%	5.9%	100.0%
(8) 法律や制度	10.7%	30.6%	33.5%	2.1%	0.6%	15.8%	6.7%	100.0%

【性別 クロス集計】

性別で比較するとすべての項目において、女性で「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた回答が多くなっています。「(どちらかといえば) 男性の方が優遇されている」が最も差のある回答は「法律や制度」11ポイント女性が多くなっています。

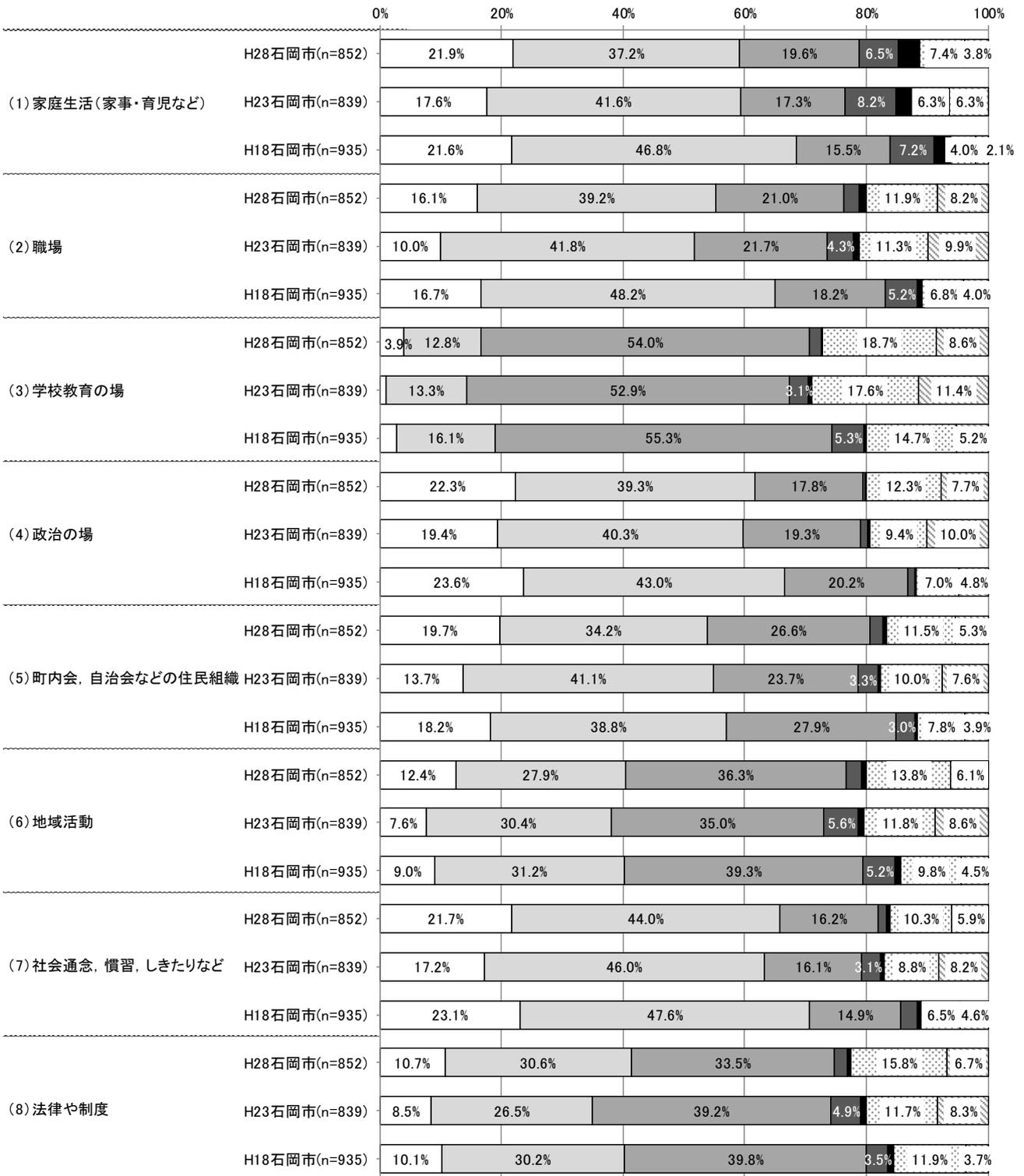


男性の方が優遇されている
 どちらかといえば男性の方が優遇されている
 平等である
 どちらかといえば女性の方が優遇されている
 女性の方が優遇されている
 わからない
 無回答

【経年 クロス集計】

経年で比較すると「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると全体的に平成18年から平成23年に減少し、平成28年に増加または横ばいとなっています。

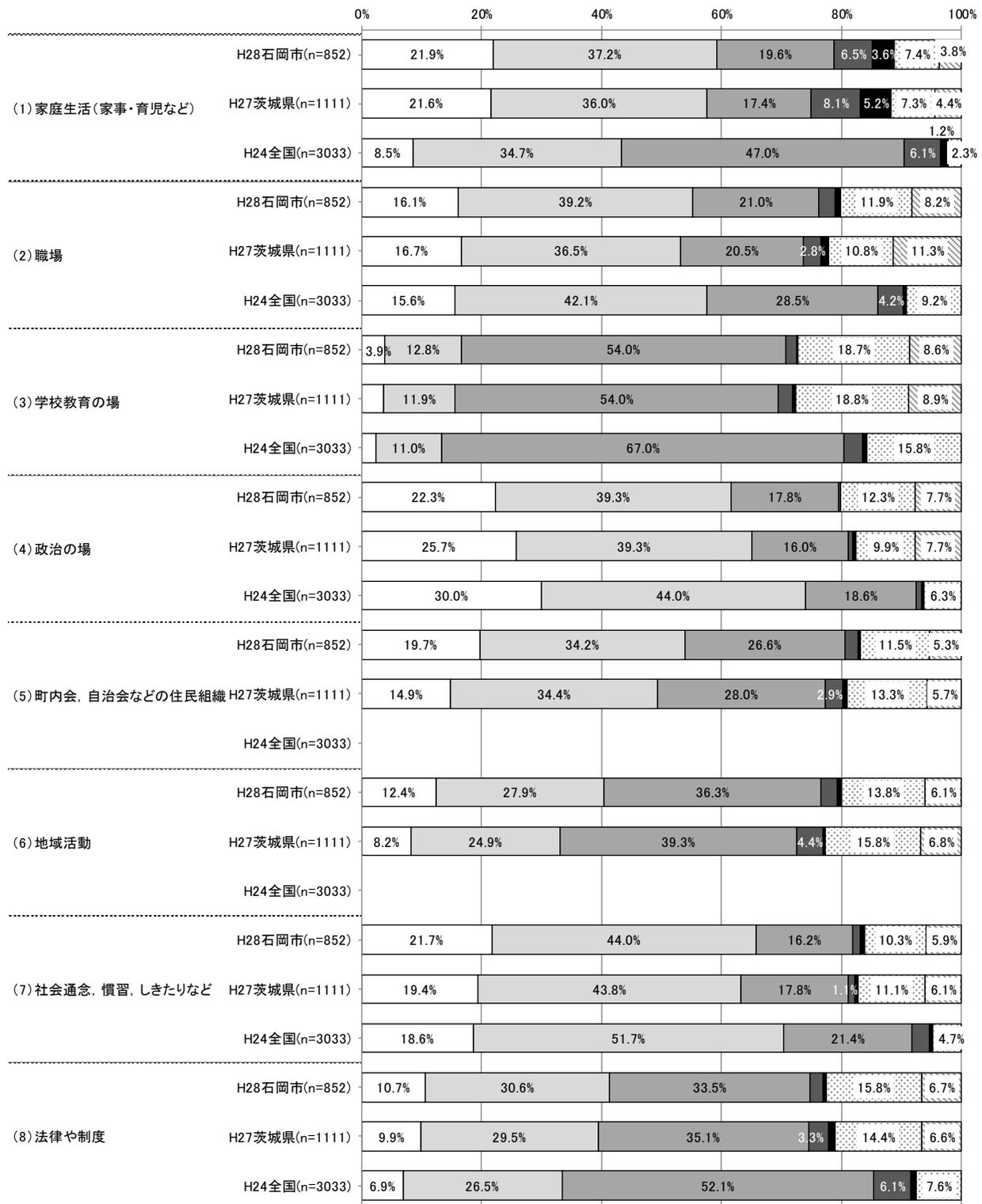
また、「平等である」が平成18年から増加している項目は、「(1) 家庭生活（家事・育児など）」、「(2) 職場」となっています。



男性の方が優遇されている
 どちらかといえば男性の方が優遇されている
 平等である
 どちらかといえば女性の方が優遇されている
 女性の方が優遇されている
 わからない
 無回答

【茨城県・全国 クロス集計】

茨城県・全国と比較すると「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると、石岡市が多い項目は、「(1) 家庭生活(家事・育児など)」、「(5) 町内会、自治会などの住民組織」、「(6) 地域活動」、「(8) 法律や制度」となっています。



男性の方が優遇されている
 どちらかといえば男性の方が優遇されている
 平等である
 どちらかといえば女性の方が優遇されている
 女性の方が優遇されている
 わからない
 無回答

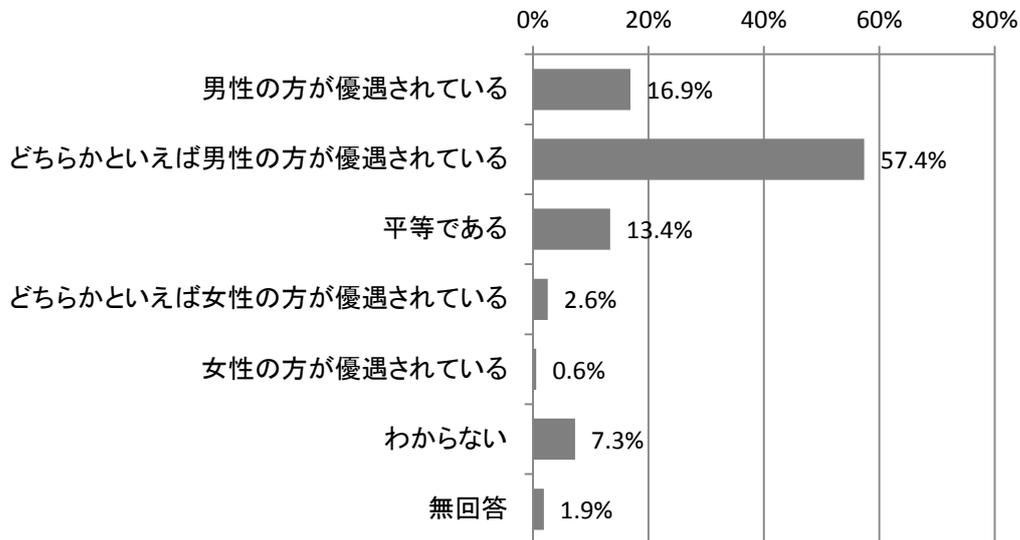
※(5) 町内会、自治会などの住民組織及び(6) 地域活動については、全国は項目が違うため未掲載。

問2 あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(○は1つ)

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が57.4%と最も多く「男性が優遇されている」と合わせると7割以上となっています。

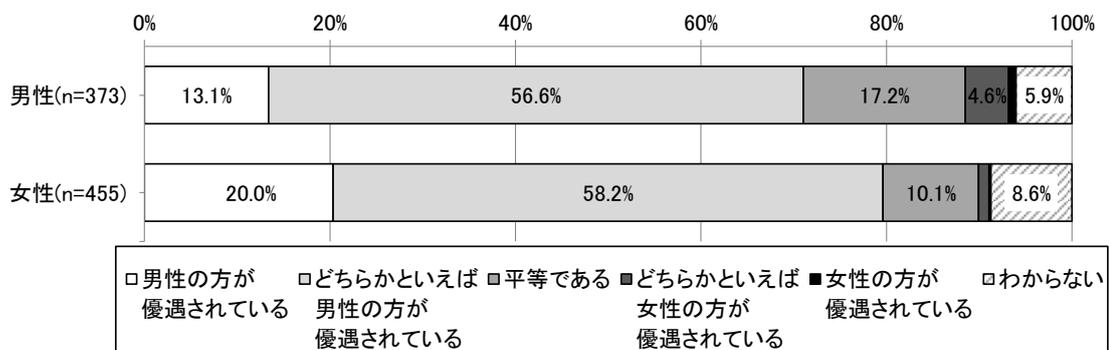
また、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせると3.2%となっています。



項目	回答数	構成比
男性の方が優遇されている	144	16.9%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	489	57.4%
平等である	114	13.4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	22	2.6%
女性の方が優遇されている	5	0.6%
わからない	62	7.3%
無回答	16	1.9%
合計	852	100.0%

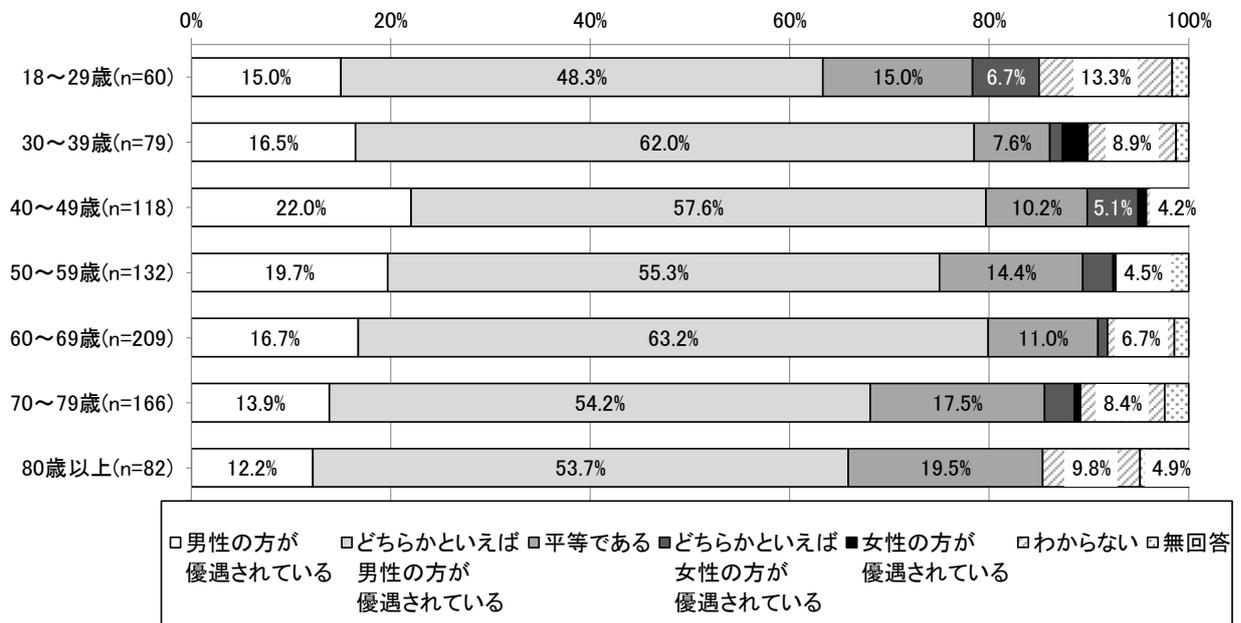
【性別 クロス集計】

性別で比較すると「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると女性の方が8.5ポイント多くなっています。



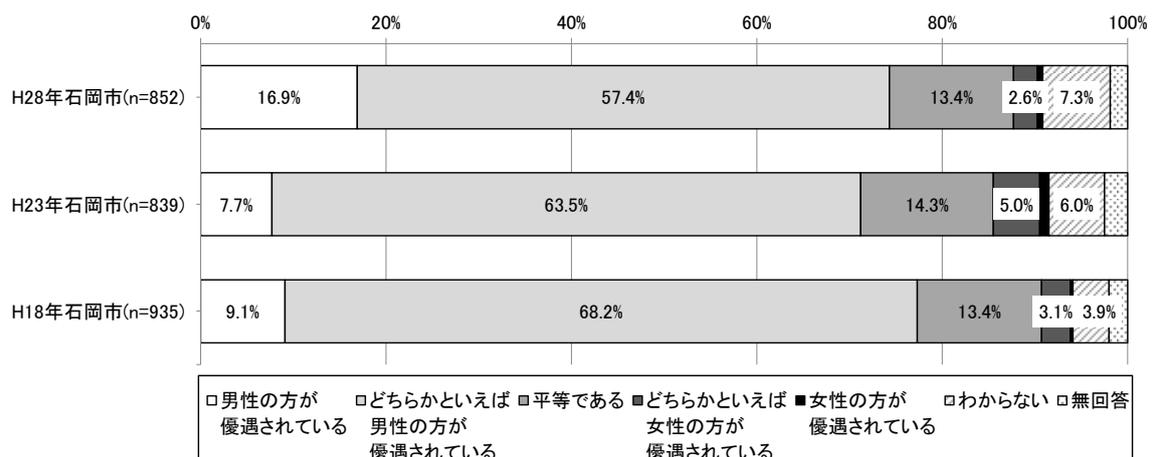
【年代 クロス集計】

年代で比較すると「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると 30代から 60代で比較的多くなっています。



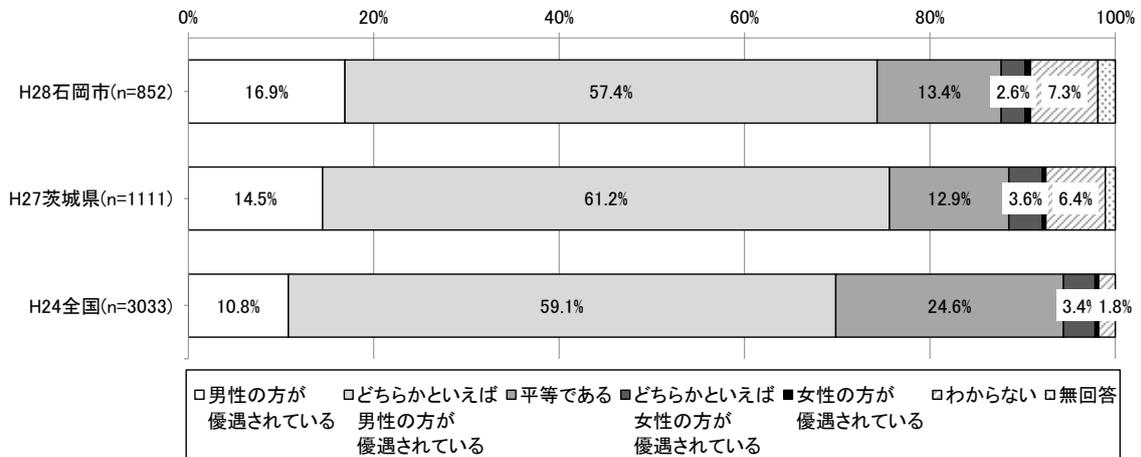
【経年 クロス集計】

経年で比較すると平成 28 年の「男性の方が優遇されている」が 16.9%と最も多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると 74.3%となり、平成 18 年から比較すると 3.0 ポイント少なくなっています。



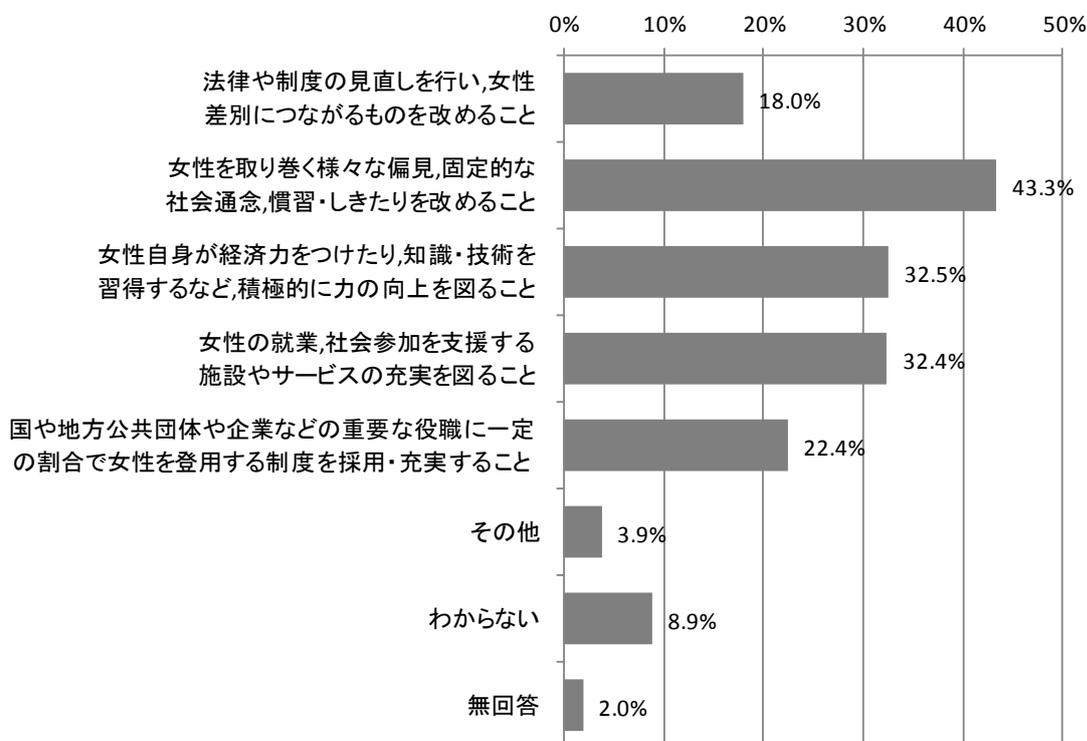
【茨城県・全国 クロス集計】

茨城県・全国と比較すると「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると石岡市が全国より 4.4 ポイント多く、茨城県とは、ほぼ同率となっています。



問3 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことは何でしょうか。(〇は2つまで)

「女性を取り巻く様々な偏見, 固定的な社会通念, 慣習・しきたりを改めること」が43.3%と最も多く, 次いで「女性自身が経済力をつけたり, 知識・技術を習得するなど, 積極的に力の向上を図ること」32.5%, 「女性の就業, 社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」32.4%となっています。

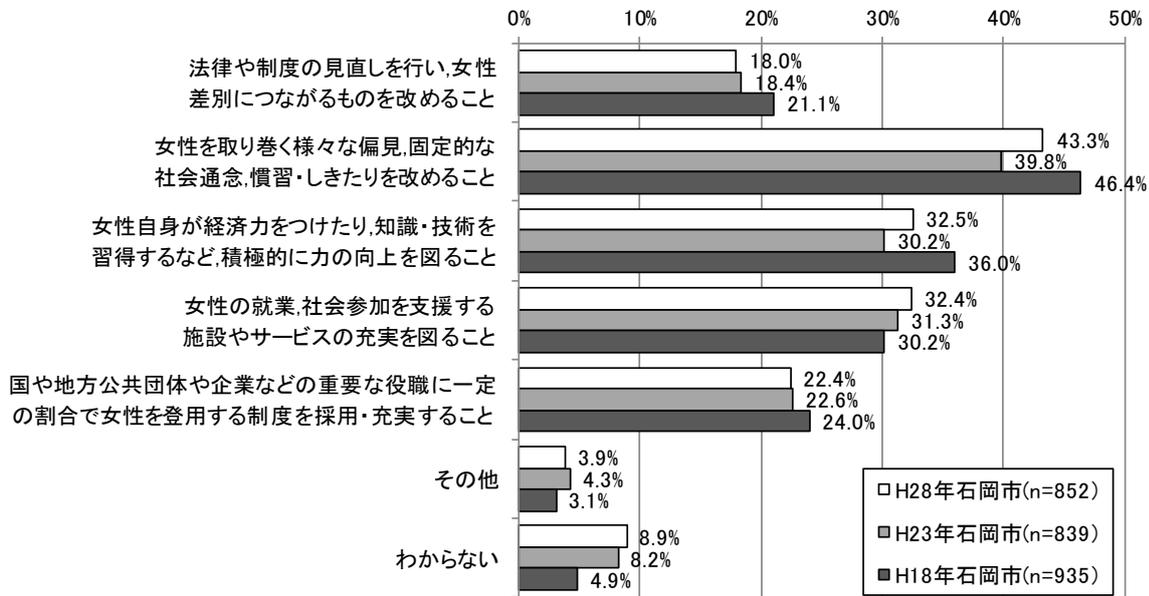


項目	回答数	構成比
法律や制度の見直しを行い, 女性差別につながるものを改めること	153	18.0%
女性を取り巻く様々な偏見, 固定的な社会通念, 慣習・しきたりを改めること	369	43.3%
女性自身が経済力をつけたり, 知識・技術を習得するなど, 積極的に力の向上を図ること	277	32.5%
女性の就業, 社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	276	32.4%
国や地方公共団体や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	191	22.4%
その他	33	3.9%
わからない	76	8.9%
無回答	17	2.0%
回答者数	852	

【経年 クロス集計】

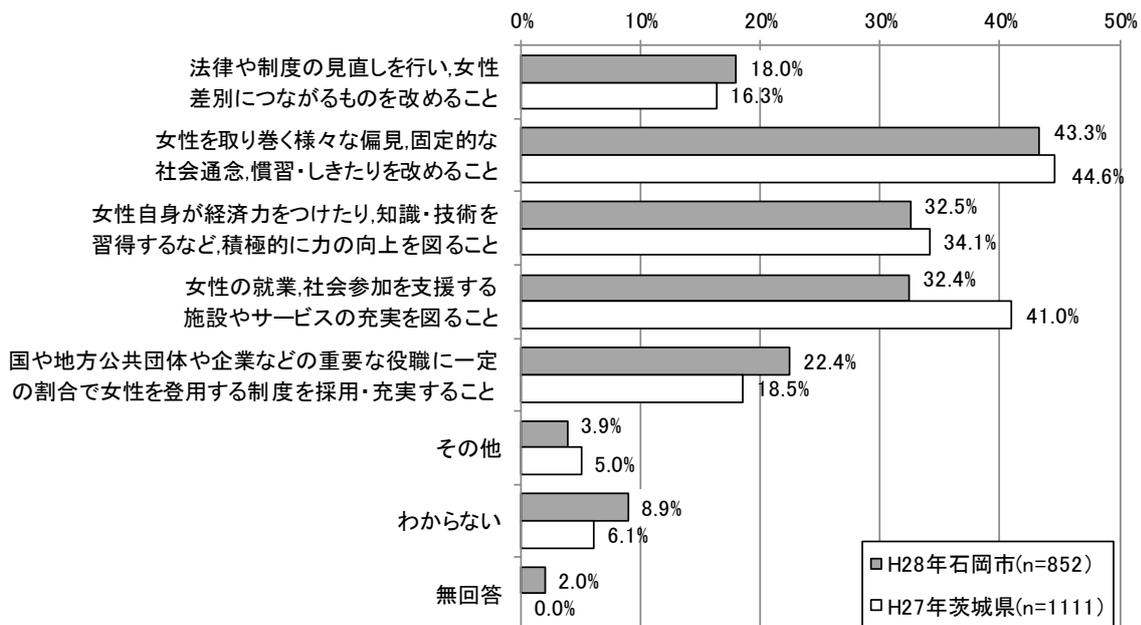
経年で比較すると「女性を取り巻く様々な偏見, 固定的な社会通念, 慣習・しきたりを改めること」, 「女性自身が経済力をつけたり, 知識・技術を習得するなど, 積極的に力の向上を図ること」で平成 18 年から平成 23 年で大きく減少し, 平成 28 年で増加に転じています。

また, 「女性の就業, 社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」では調査ごとに徐々に増加しています。



【茨城県 クロス集計】

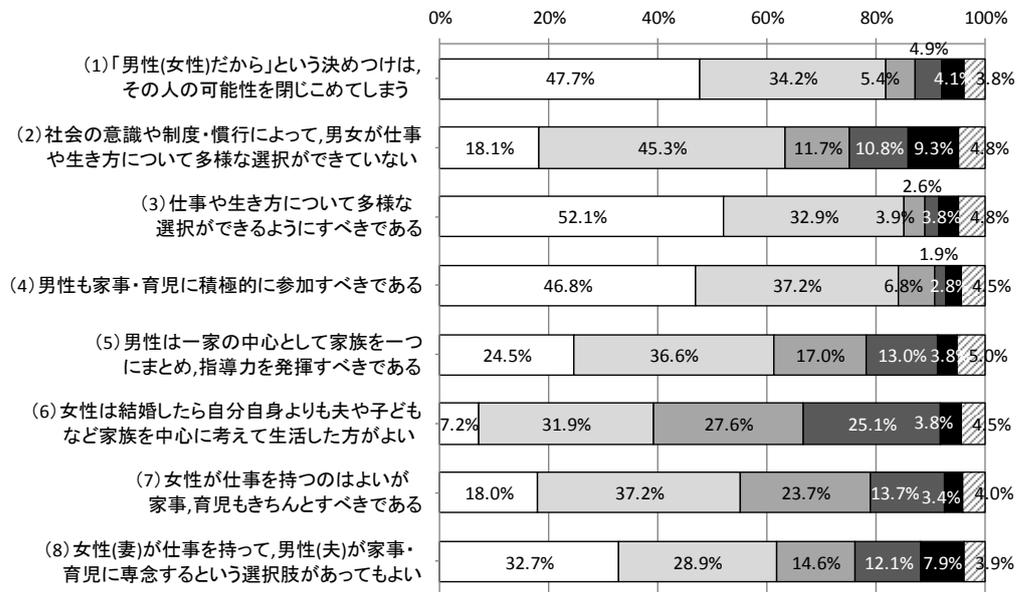
茨城県と比較すると「女性の就業, 社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」で石岡市が 8.6 ポイント少なくなっています。



問4 次にあげる男女の生き方や家庭生活などに関する考えについて、あなたの考えをお聞かせください。(それぞれについて該当する「1～6」に○を1つ)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の項目では、「(3) 仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」が最も多く、次いで「(4) 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」となっています。

一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の項目では、「(6) 女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」が最も多くなっています。



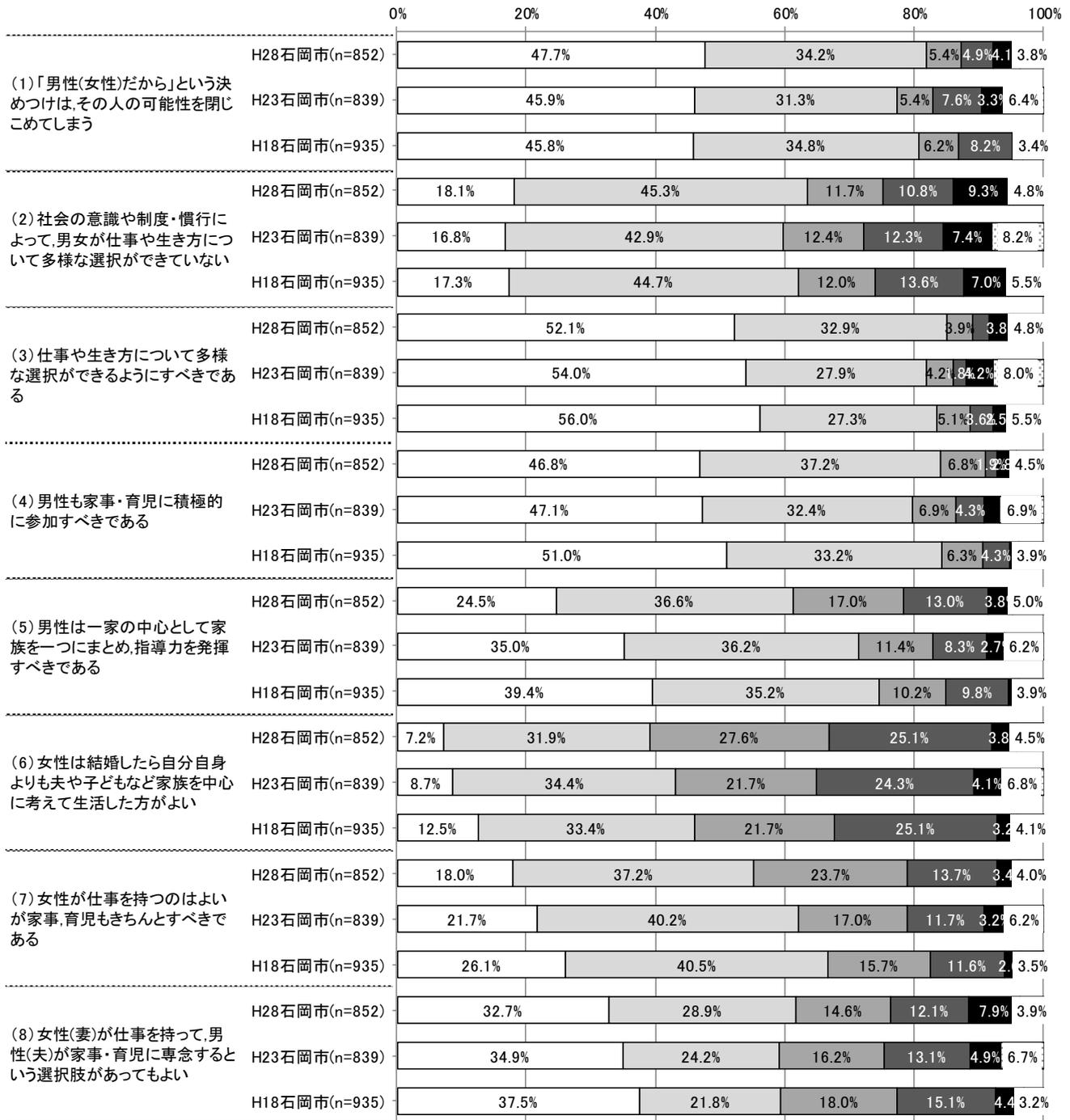
□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ わからない □ 無回答

項目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	合計
(1)「男性(女性)だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう	406	291	46	42	35	32	852
(2) 社会の意識や制度・慣行によって、男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない	154	386	100	92	79	41	852
(3) 仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである	444	280	33	22	32	41	852
(4) 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである	399	317	58	16	24	38	852
(5) 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである	209	312	145	111	32	43	852
(6) 女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	61	272	235	214	32	38	852
(7) 女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである	153	317	202	117	29	34	852
(8) 女性(妻)が仕事を持って、男性(夫)が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい	279	246	124	103	67	33	852

項目(構成比)	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	合計
(1)「男性(女性)だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう	47.7%	34.2%	5.4%	4.9%	4.1%	3.8%	100.0%
(2) 社会の意識や制度・慣行によって、男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない	18.1%	45.3%	11.7%	10.8%	9.3%	4.8%	100.0%
(3) 仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである	52.1%	32.9%	3.9%	2.6%	3.8%	4.8%	100.0%
(4) 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである	46.8%	37.2%	6.8%	1.9%	2.8%	4.5%	100.0%
(5) 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである	24.5%	36.6%	17.0%	13.0%	3.8%	5.0%	100.0%
(6) 女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	7.2%	31.9%	27.6%	25.1%	3.8%	4.5%	100.0%
(7) 女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである	18.0%	37.2%	23.7%	13.7%	3.4%	4.0%	100.0%
(8) 女性(妻)が仕事を持って、男性(夫)が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい	32.7%	28.9%	14.6%	12.1%	7.9%	3.9%	100.0%

【経年 クロス集計】

経年で比較すると「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると「(5) 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである」, 「(6) 女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」, 「(7) 女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」の項目で、調査ごとに減少し、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が増加傾向にあります。



□そう思う □どちらかといえ ばそう思う □どちらかといえ ばそう思わない □そう 思わない ■わからない □無回答

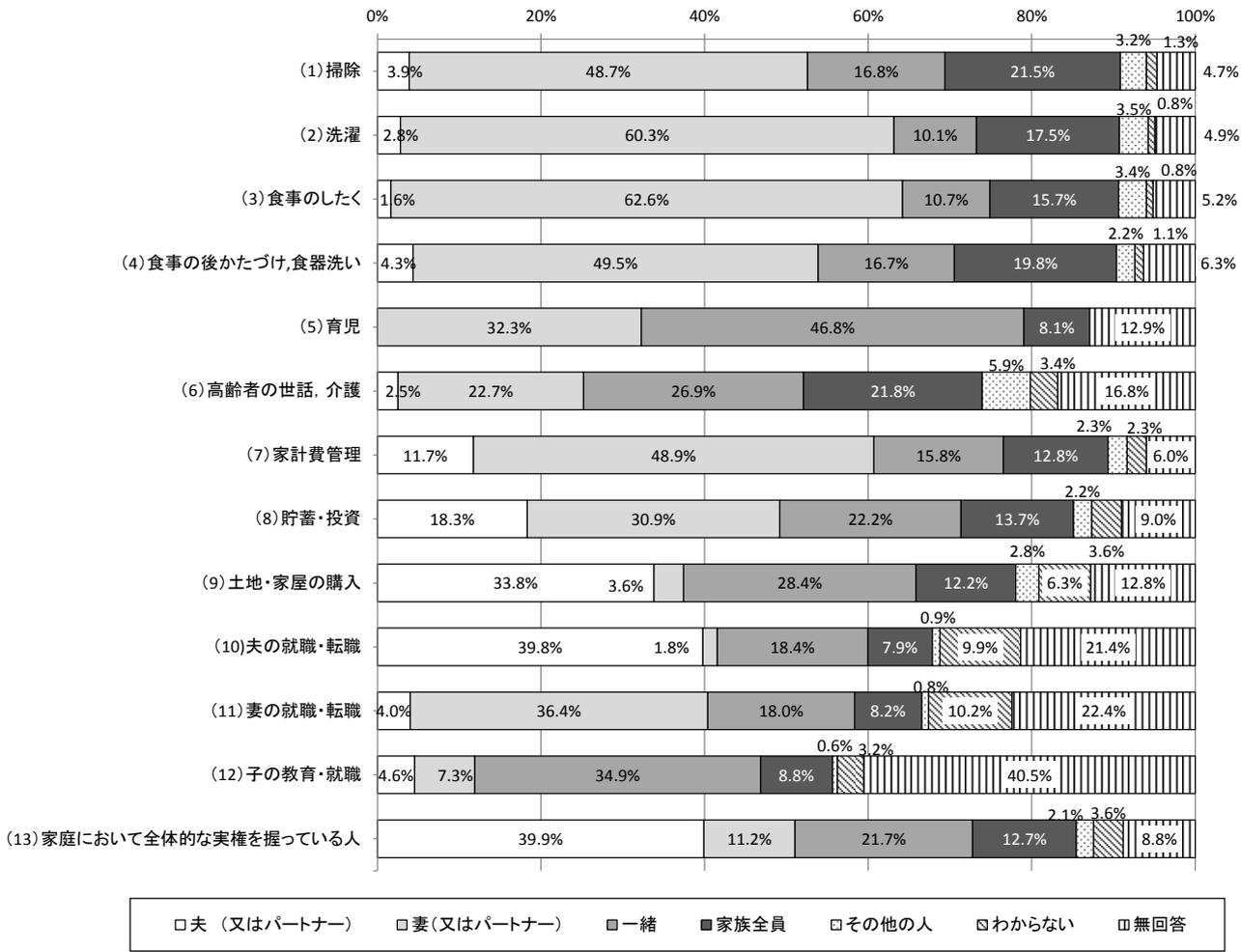
【2 男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担について】

問5 次にあげるような家事等を主に誰が分担していますか。また、家計費の管理等について最終的に決定しているのはどなたですか。
(それぞれについて該当する「1～6」に○を1つ)

※一人暮らしの方で、ご本人自身が該当する場合は、4の「家族全員」に○をつけてください。

家事の分担の中で、「妻(又はパートナー)」が多い項目は、「(3) 食事のしたく」、「(4) 洗濯」となっており、「一緒」が多い項目は、「(5) 育児(乳幼児がいる方のみ)」、「(6) 高齢者の世話、介護(対象者がいる方のみ)」となっています。

また、最終決定者の中で「夫(又はパートナー)」が多い項目は「(13) 家庭において全体的な実権を握っている人」、「(10) 夫の就職・転職」、「(9) 土地・家屋の購入」となっています。

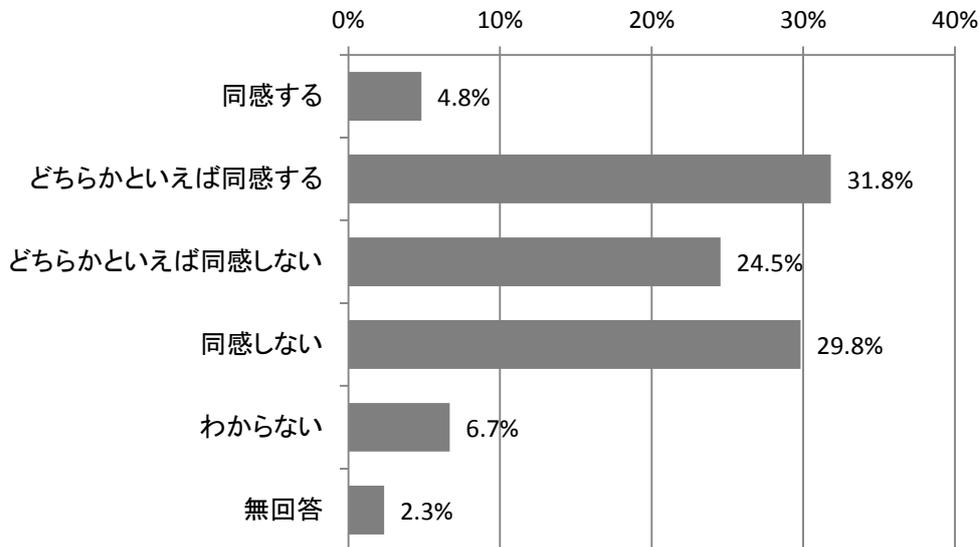


項目		夫(又はパートナー)	妻(又はパートナー)	一緒	家族全員	その他の人	わからない	無回答	回答者数	非該当	合計
家事等の分担	(1) 掃除	33	415	143	183	27	11	40	852		
	(2) 洗濯	24	514	86	149	30	7	42	852		
	(3) 食事のしたく	14	533	91	134	29	7	44	852		
	(4) 食事の後かたづけ、食器洗い	37	422	142	169	19	9	54	852		
	(5) 育児(乳幼児がいる方のみ)	0	20	29	5	0	0	8	62	790	852
	(6) 高齢者の世話、介護(対象者がいる方のみ)	3	27	32	26	7	4	20	119	733	852
最終決定者	(7) 家計費管理	100	417	135	109	20	20	51	852		
	(8) 貯蓄・投資	156	263	189	117	19	31	77	852		
	(9) 土地・家屋の購入	288	31	242	104	24	54	109	852		
	(10) 夫の就職・転職	339	15	157	67	8	84	182	852		
	(11) 妻の就職・転職	34	310	153	70	7	87	191	852		
	(12) 子の教育・就職(子どもがいる方のみ)	31	50	238	60	4	22	276	681	171	852
	(13) 家庭において全体的な実権を握っている人	340	95	185	108	18	31	75	852		

構成比(%)		夫(又はパートナー)	妻(又はパートナー)	一緒	家族全員	その他の人	わからない	無回答	回答者数	非該当	合計
家事等の分担	(1) 掃除	3.9%	48.7%	16.8%	21.5%	3.2%	1.3%	4.7%	100.0%		
	(2) 洗濯	2.8%	60.3%	10.1%	17.5%	3.5%	0.8%	4.9%	100.0%		
	(3) 食事のしたく	1.6%	62.6%	10.7%	15.7%	3.4%	0.8%	5.2%	100.0%		
	(4) 食事の後かたづけ、食器洗い	4.3%	49.5%	16.7%	19.8%	2.2%	1.1%	6.3%	100.0%		
	(5) 育児(乳幼児がいる方のみ)	0.0%	32.3%	46.8%	8.1%	0.0%	0.0%	12.9%	100.0%		
	(6) 高齢者の世話、介護(対象者がいる方のみ)	2.5%	22.7%	26.9%	21.8%	5.9%	3.4%	16.8%	100.0%		
最終決定者	(7) 家計費管理	11.7%	48.9%	15.8%	12.8%	2.3%	2.3%	6.0%	100.0%		
	(8) 貯蓄・投資	18.3%	30.9%	22.2%	13.7%	2.2%	3.6%	9.0%	100.0%		
	(9) 土地・家屋の購入	33.8%	3.6%	28.4%	12.2%	2.8%	6.3%	12.8%	100.0%		
	(10) 夫の就職・転職	39.8%	1.8%	18.4%	7.9%	0.9%	9.9%	21.4%	100.0%		
	(11) 妻の就職・転職	4.0%	36.4%	18.0%	8.2%	0.8%	10.2%	22.4%	100.0%		
	(12) 子の教育・就職(子どもがいる方のみ)	4.6%	7.3%	34.9%	8.8%	0.6%	3.2%	40.5%	100.0%		
	(13) 家庭において全体的な実権を握っている人	39.9%	11.2%	21.7%	12.7%	2.1%	3.6%	8.8%	100.0%		

問6 「男は仕事，女は家庭」という考え方がありますが，あなたはこの考え方をどう思いますか。（○は1つ）

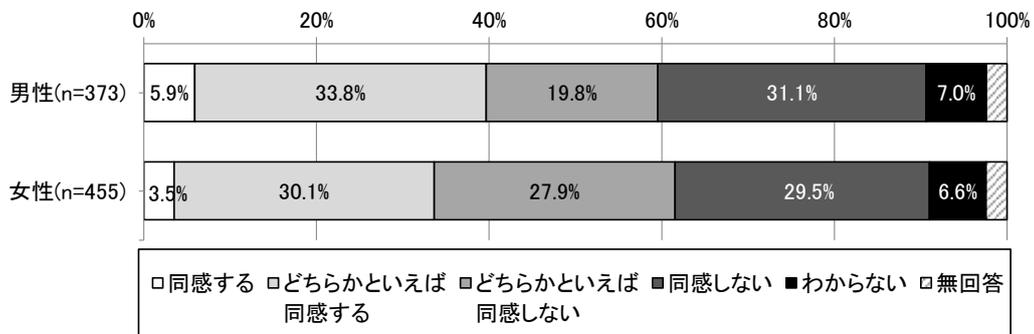
「同感しない」「どちらかといえば同感しない」を合わせると5割以上となっています。また、「どちらかといえば同感する」「同感する」と合わせると36.6%となっています。



項目	回答数	構成比
同感する	41	4.8%
どちらかといえば同感する	271	31.8%
どちらかといえば同感しない	209	24.5%
同感しない	254	29.8%
わからない	57	6.7%
無回答	20	2.3%
合計	852	100.0%

【性別 クロス集計】

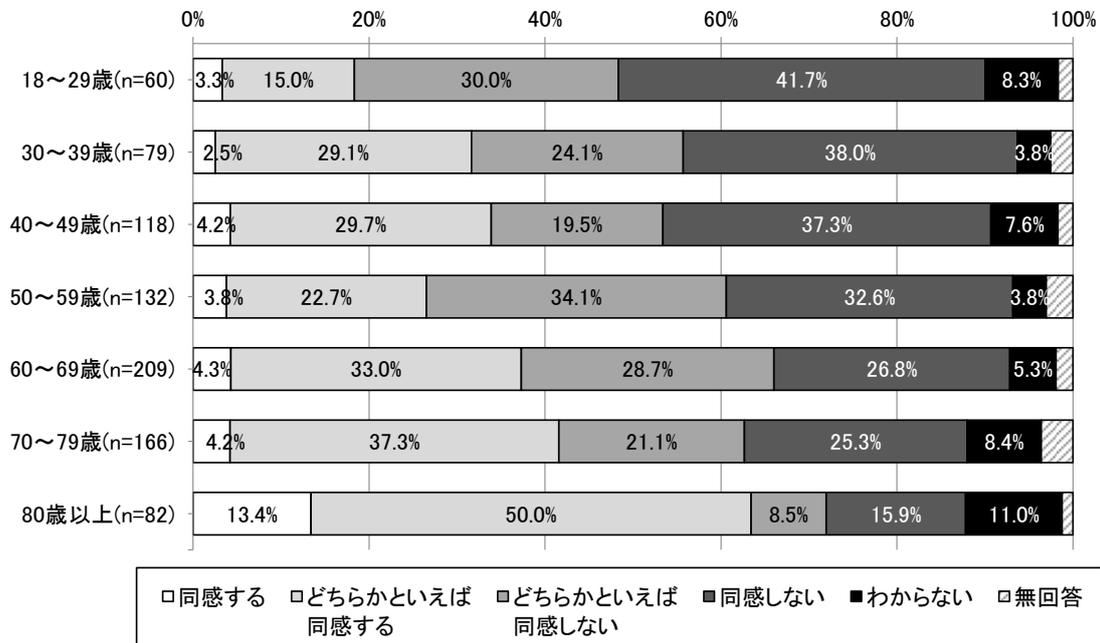
性別で比較すると「同感しない」「どちらかといえば同感しない」を合わせると，女性で6.5ポイント多くなっています。



【年代 クロス集計】

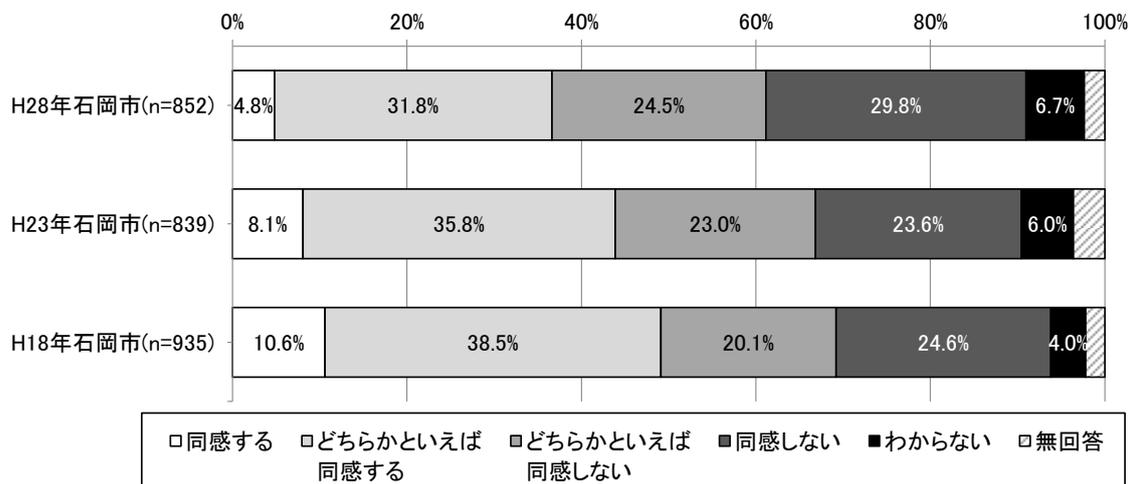
年代で比較すると「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせると年齢が上がると多くなる傾向にありますが、50代ではやや少なくなっています。

また、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」を合わせると、18歳～20代で約7割と多くなっています。



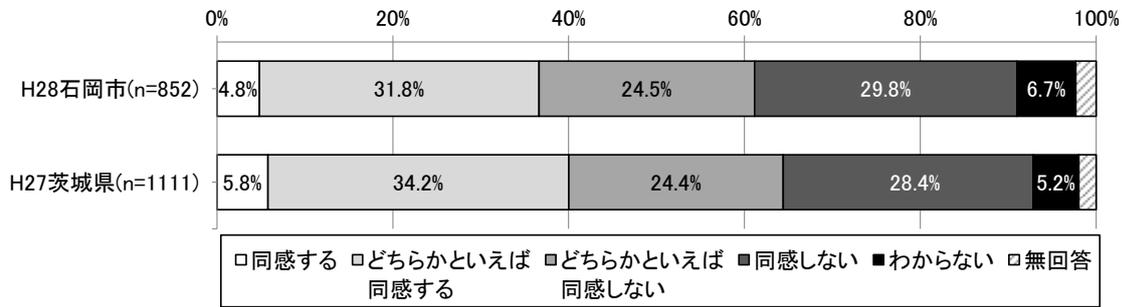
【経年 クロス集計】

経年で比較すると「同感する」「どちらかといえば同感する」が調査ごとに減少しています。



【茨城県 クロス集計】

茨城県と比較すると「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせると石岡市が 3.4 ポイント少なくなっています。



問7 次にあげるア～ウについて、あなたはどれくらい時間をかけていますか。平日、休日それぞれの1日あたり平均時間をご記入ください。

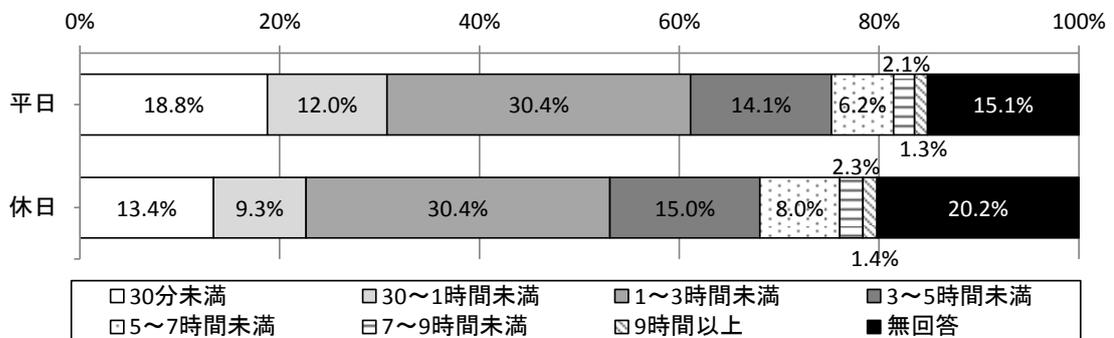
※時間をかけていない場合は0分としてください。

※次の①～④はア～ウに含めないでください。

- ①洗顔・入浴・トイレ・身じたくなど自分の為の時間、②食事・飲食の時間
- ③家族と団らんやお茶の時間などの休養時間、④ペットの世話

◆ア 家事

「平日」、「休日」とともに「1～3時間未満」が同数の30.4%と最も多くなっています。

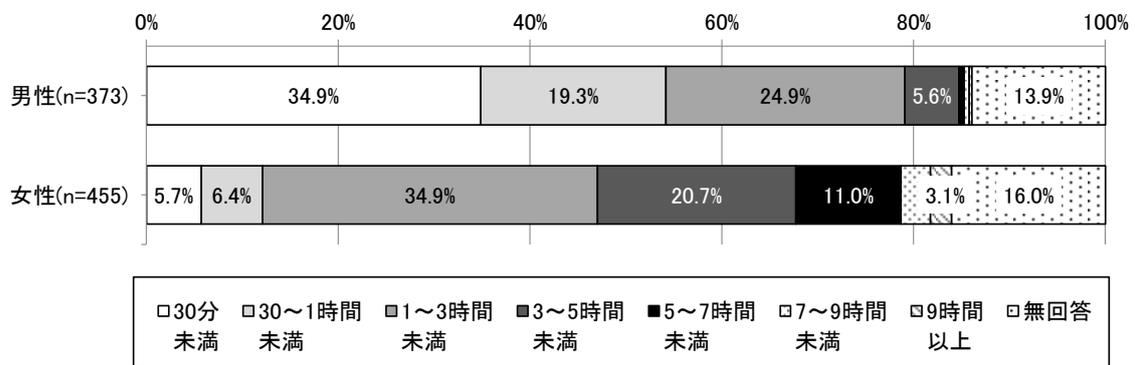


項目	30分未満	30～1時間未満	1～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	無回答	合計
平日	160	102	259	120	53	18	11	129	852
休日	114	79	259	128	68	20	12	172	852

項目(構成比)	30分未満	30～1時間未満	1～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9時間以上	無回答	合計
平日	18.8%	12.0%	30.4%	14.1%	6.2%	2.1%	1.3%	15.1%	100.0%
休日	13.4%	9.3%	30.4%	15.0%	8.0%	2.3%	1.4%	20.2%	100.0%

【性別（平日）クロス集計】

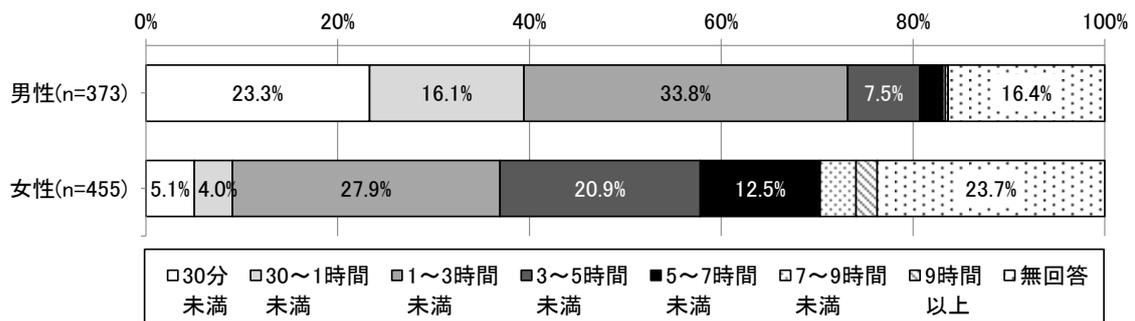
性別で比較すると、平日では「男性」の「30分未満」, 「女性」の「1~3時間未満」が最も多くなっています。



【性別（休日）クロス集計】

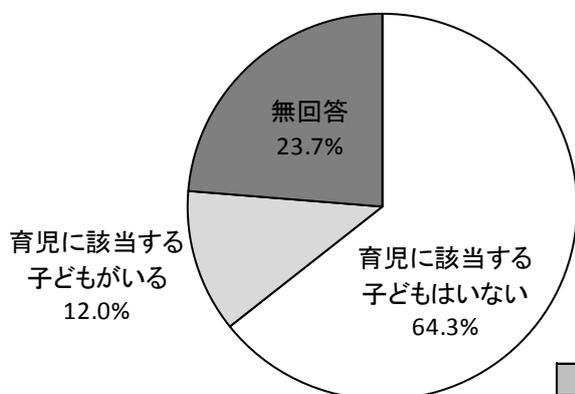
性別で比較すると、休日では男女ともに「1~3時間未満」が最も多くなっています。

また、平日と休日と比較すると、女性は割合に変化はあまりありませんが、男性は、時間が多くなっています。



◆イ 育児

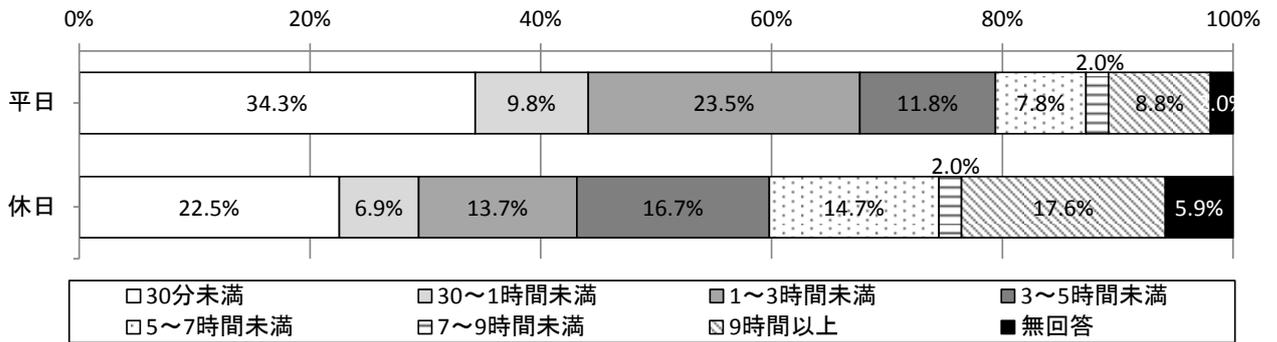
「育児に該当する子どもはいない」が 64.3%, 「育児に該当する子どもがいる」が 12.0%となっています。



項目	回答数	構成比
育児に該当する子どもはいない	548	64.3%
育児に該当する子どもがいる	102	12.0%
無回答	202	23.7%
合計	852	100.0%

● 「育児に該当する子どもがいる」と回答した方の育児時間

「平日」、「休日」ともに「30分未満」が最も多くなっています。

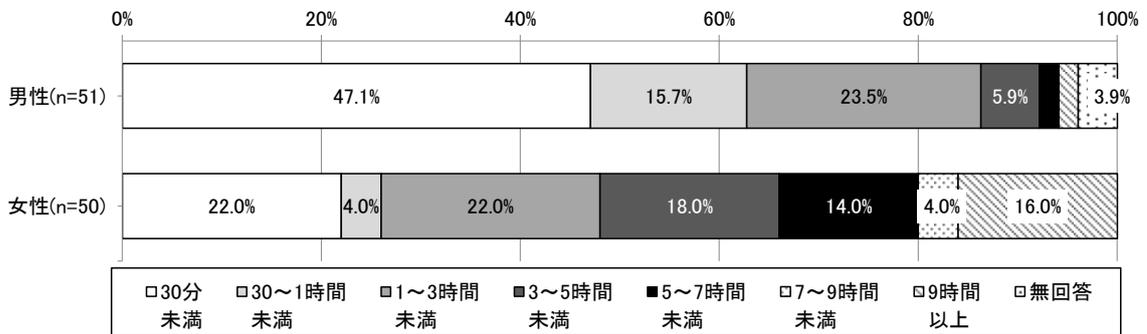


項目	30分未満	30~1時間未満	1~3時間未満	3~5時間未満	5~7時間未満	7~9時間未満	9時間以上	無回答	回答者数	非該当	合計
平日	35	10	24	12	8	2	9	2	102	750	852
休日	23	7	14	17	15	2	18	6	102	750	852

項目(構成比)	30分未満	30~1時間未満	1~3時間未満	3~5時間未満	5~7時間未満	7~9時間未満	9時間以上	無回答	回答者数	非該当	合計
平日	34.3%	9.8%	23.5%	11.8%	7.8%	2.0%	8.8%	2.0%	100.0%		
休日	22.5%	6.9%	13.7%	16.7%	14.7%	2.0%	17.6%	5.9%	100.0%		

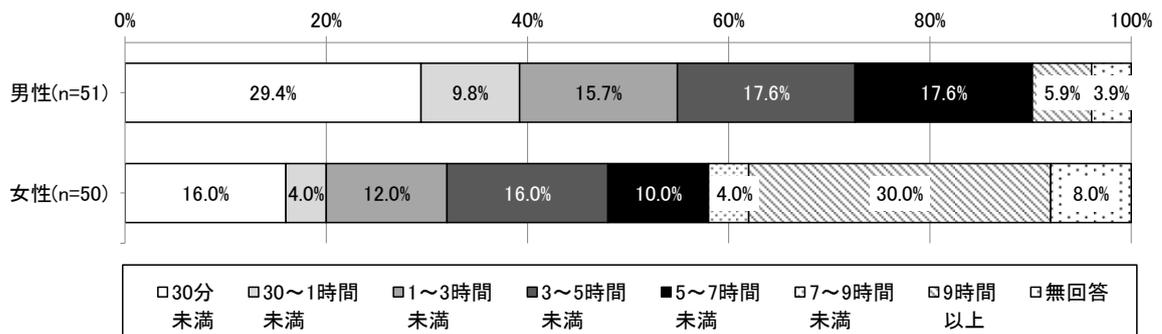
【性別（平日）クロス集計】

性別で比較すると、平日では「男性」の「30分未満」、「女性」は「30分未満」、「1~3時間未満」が多くなっています。



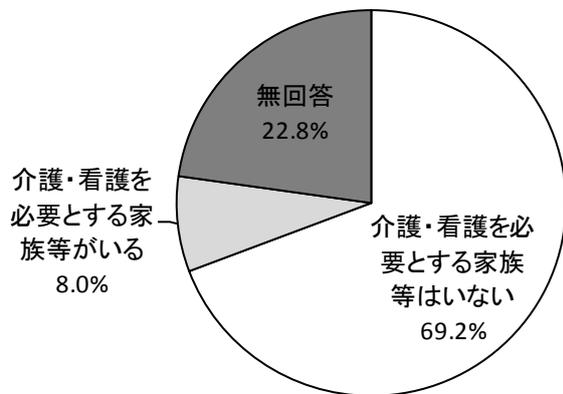
【性別（休日）クロス集計】

性別で比較すると休日では「男性」の「30分未満」、「女性」は「9時間以上」が最も多くなっています。



◆ウ 介護・看護

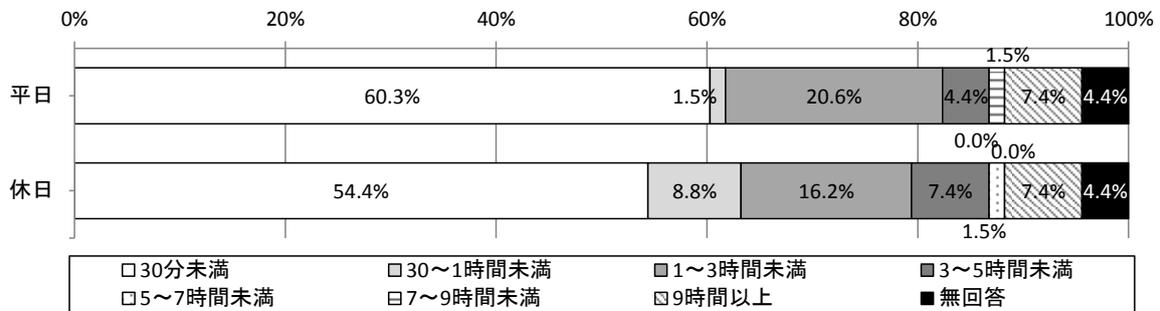
「介護・看護を必要とする家族等はいない」が 69.2%、「介護・看護を必要とする家族等がいる」が 8.0%となっています。



項目	回答数	構成比
介護・看護を必要とする家族等はいない	590	69.2%
介護・看護を必要とする家族等がいる	68	8.0%
無回答	194	22.8%
合計	852	100.0%

●「介護・看護を必要とする家族等がいる」と回答した方の介護時間

「平日」、「休日」とともに「30分未満」が最も多くなっています。

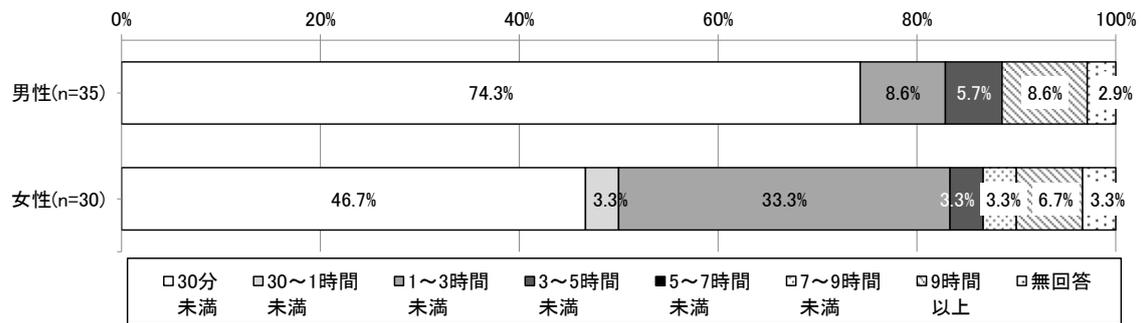


項目	30分未満	30~1時間未満	1~3時間未満	3~5時間未満	5~7時間未満	7~9時間未満	9時間以上	無回答	回答者数	非該当	合計
平日	41	1	14	3	0	1	5	3	68	784	852
休日	37	6	11	5	1	0	5	3	68	784	852

項目(構成比)	30分未満	30~1時間未満	1~3時間未満	3~5時間未満	5~7時間未満	7~9時間未満	9時間以上	無回答	回答者数	非該当	合計
平日	60.3%	1.5%	20.6%	4.4%	0.0%	1.5%	7.4%	4.4%	100.0%		
休日	54.4%	8.8%	16.2%	7.4%	1.5%	0.0%	7.4%	4.4%	100.0%		

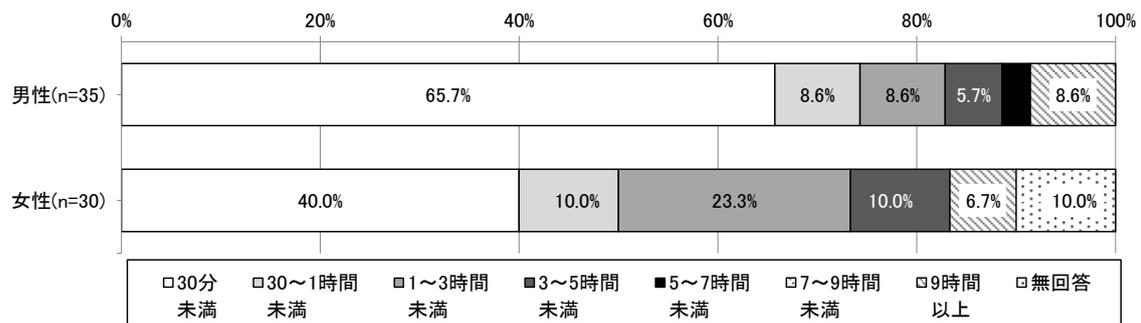
【性別（平日）クロス集計】

性別で比較すると平日では男女ともに「30分未満」が最も多く、男性は7割を超えています。



【性別（休日）クロス集計】

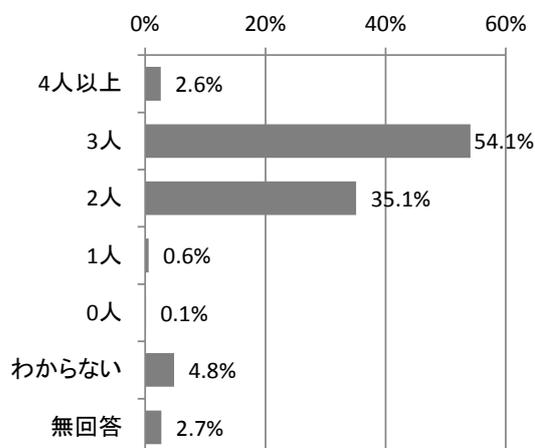
性別で比較すると休日では男女ともに「30分未満」が最も多く、男性は6割を超えています。



問8 近年、少子化が急速に進んでいますが、子どもの出生数のことでお伺いします。

(1) あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。(○は1つ)

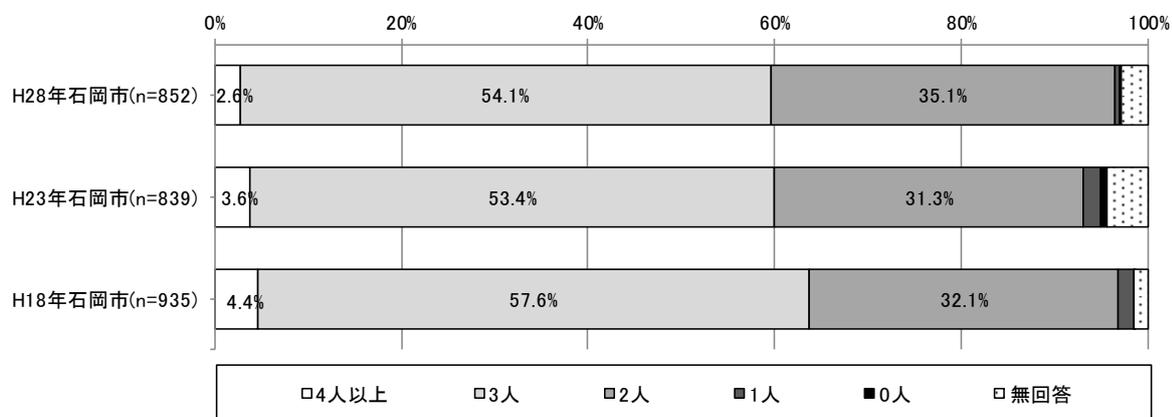
「3人」が54.1%と最も多く、次いで「2人」35.1%となっています。



項目	回答数	構成比
4人以上	22	2.6%
3人	461	54.1%
2人	299	35.1%
1人	5	0.6%
0人	1	0.1%
わからない	41	4.8%
無回答	23	2.7%
合計	852	100.0%

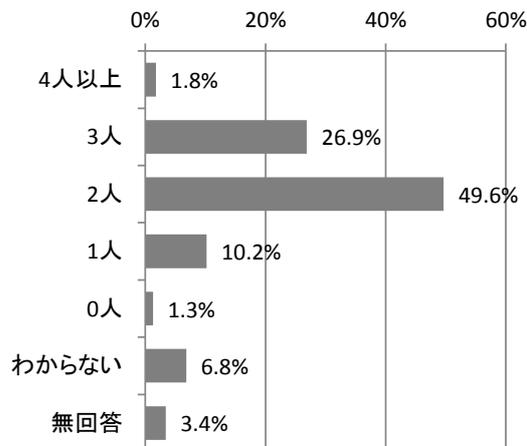
【経年(1) あなたの理想とする子どもの数 クロス集計】

経年で比較すると「4人以上」,「3人」が平成18年よりも減少しており,「2人」が3.0ポイント増加しています。



(2) 実際の子どもの数又は実際に子育てできると思う数は何人ですか。(〇は1つ)

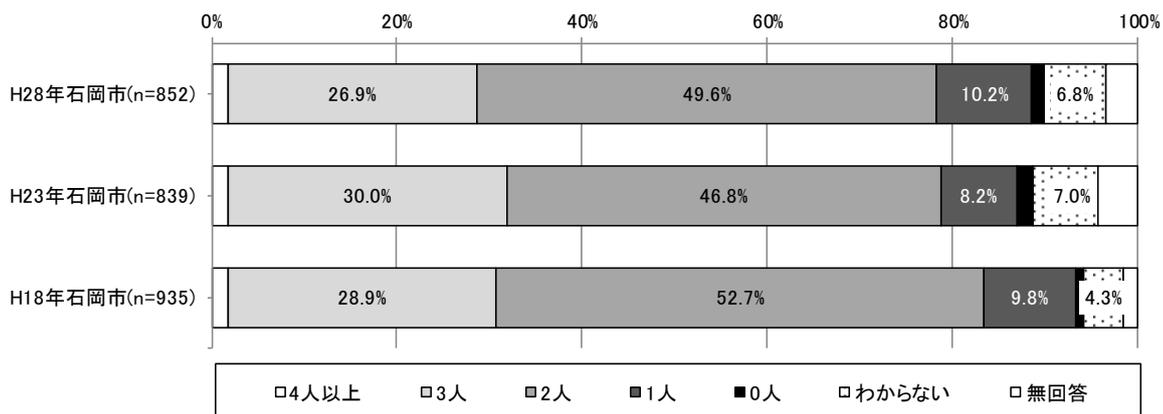
「2人」が49.6%と最も多く、次いで「3人」26.9%となっています。



項目	回答数	構成比
4人以上	15	1.8%
3人	229	26.9%
2人	423	49.6%
1人	87	10.2%
0人	11	1.3%
わからない	58	6.8%
無回答	29	3.4%
合計	852	100.0%

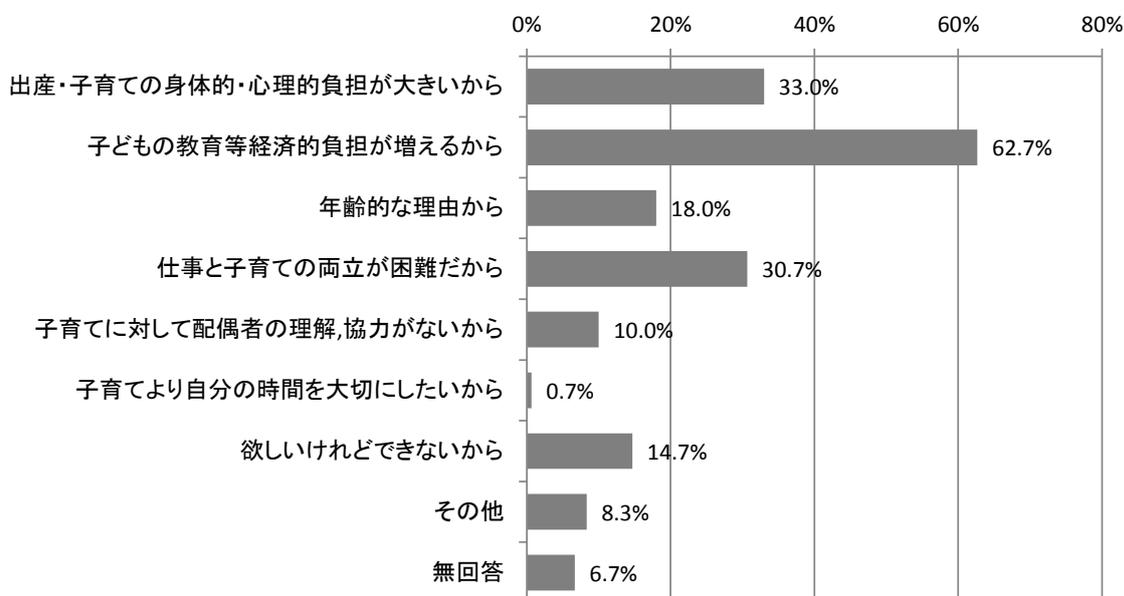
【経年（2）実際の子どもの数又は実際に子育てできると思う数 クロス集計】

経年で比較すると「3人」、「2人」が平成18年よりもやや減少しています。



(3) (2) の実際の数(1)の理想の数よりも少ない方にお伺いします。その理由は何ですか。(〇は3つまで)

「子どもの教育等経済的負担が増えるから」が62.7%と最も多く、次いで「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから」33.0%、「仕事と子育ての両立が困難だから」30.7%となっています。



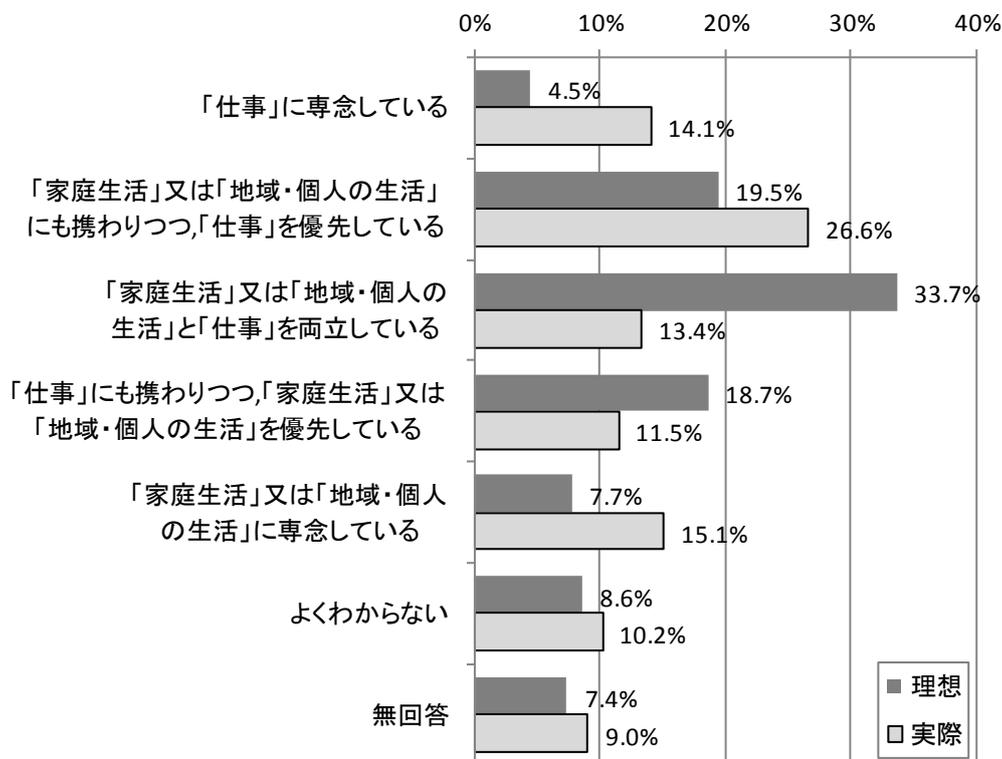
項目	回答数	構成比
出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいから	99	33.0%
子どもの教育等経済的負担が増えるから	188	62.7%
年齢的な理由から	54	18.0%
仕事と子育ての両立が困難だから	92	30.7%
子育てに対して配偶者の理解,協力がいないから	30	10.0%
子育てより自分の時間を大切にしたいから	2	0.7%
欲しいけれどできないから	44	14.7%
その他	25	8.3%
無回答	20	6.7%
回答者数	300	
非該当	552	
合計	852	

【3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について】

問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況において、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際はどうですか。（現在、仕事を行っていない方は今後のお考えをお答えください。○はそれぞれ1つ）

「理想」では、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している」が33.7%と最も多く、次いで「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している」19.5%、「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している」18.7%となっています。

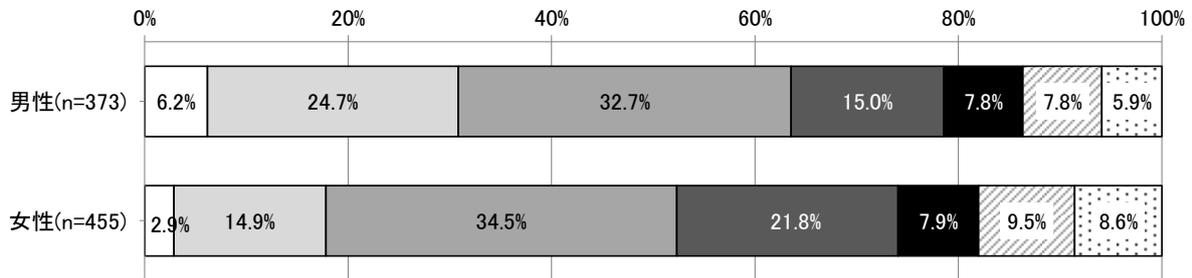
「実際」でも、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している」が26.6%と最も多く、次いで「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している」15.1%、「仕事」に専念している」4.5%、「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している」11.5%、「よくわからない」10.2%、「無回答」9.0%となっています。



項目	理想		実際	
	回答数	構成比	回答数	構成比
「仕事」に専念している	38	4.5%	120	14.1%
「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している	166	19.5%	227	26.6%
「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している	287	33.7%	114	13.4%
「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している	159	18.7%	98	11.5%
「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している	66	7.7%	129	15.1%
よくわからない	73	8.6%	87	10.2%
無回答	63	7.4%	77	9.0%
合計	852	100.0%	852	100.0%

【性別（理想） クロス集計】

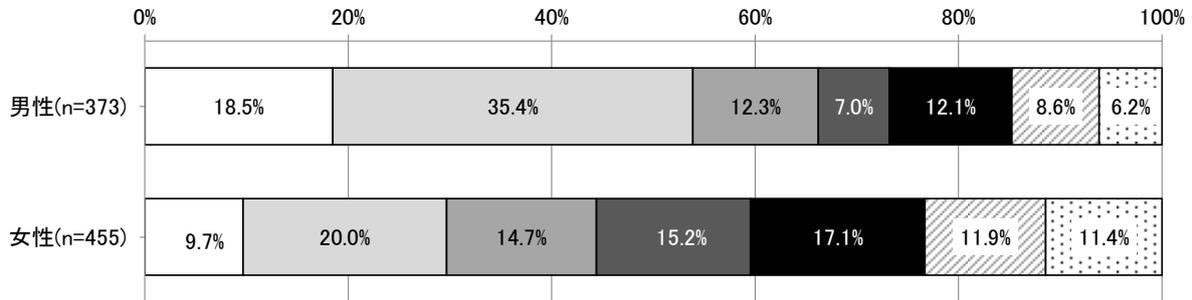
理想を性別で比較すると、男性で「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している」が9.8ポイント多く、女性では「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している」が6.8ポイント多くなっています。



- 「仕事」に専念している
- 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している
- 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している
- 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している
- 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している
- よくわからない
- 無回答

【性別（実際） クロス集計】

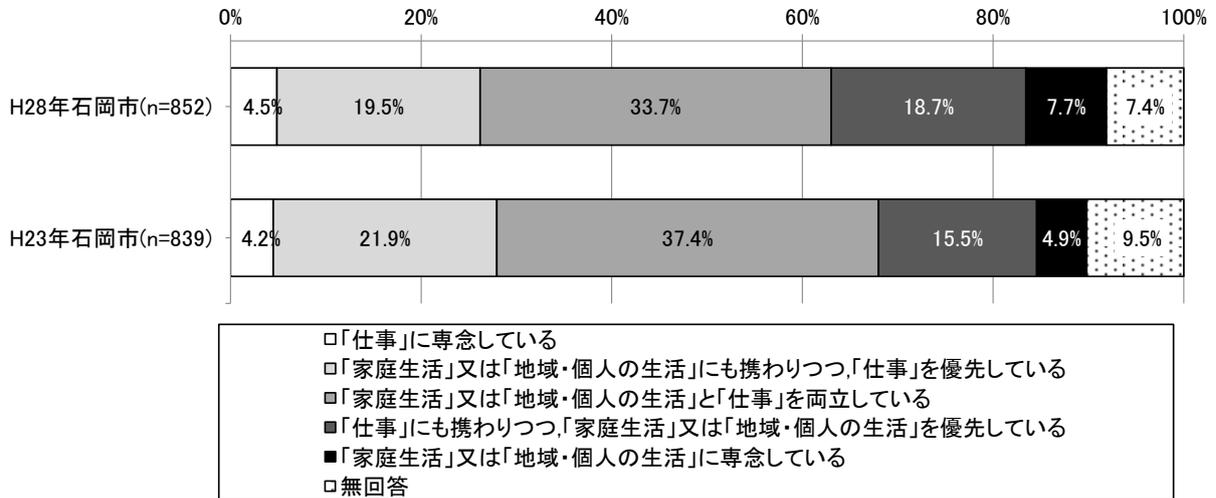
実際を性別で比較すると、男性では「仕事」に専念している」で8.8ポイント、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している」で15.4ポイント多くなっています。



- 「仕事」に専念している
- 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している
- 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している
- 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している
- 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している
- よくわからない
- 無回答

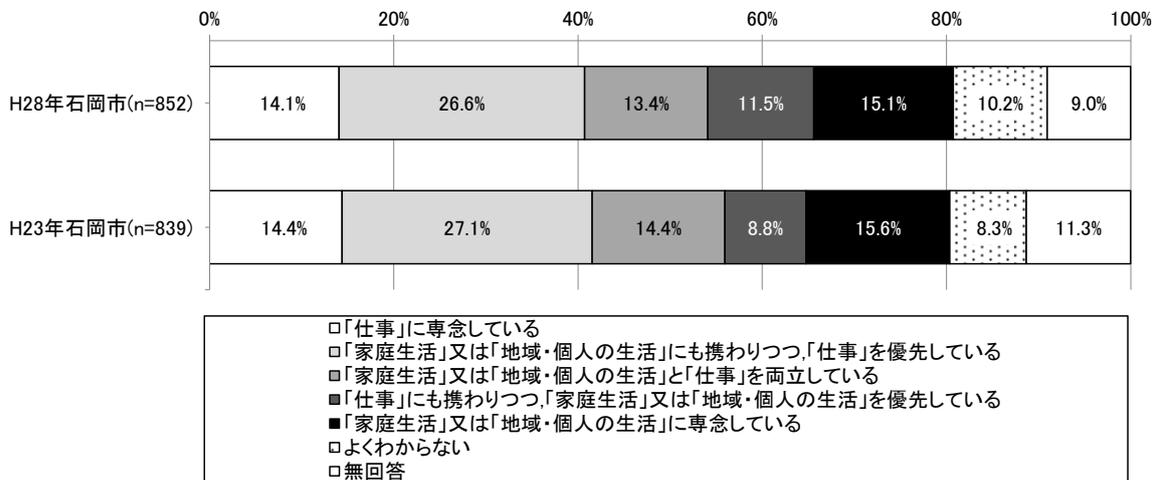
【経年（理想） クロス集計】

理想を経年で比較すると、平成23年より「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している」がやや減少し、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している」がやや増加しています。



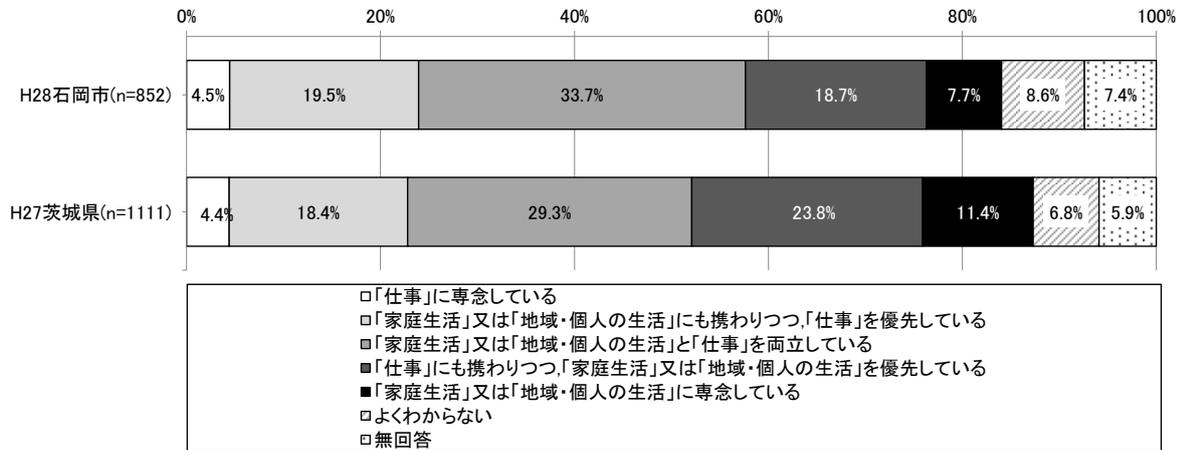
【経年（実際） クロス集計】

実際を経年で比較するとあまり変化がない結果となっています。



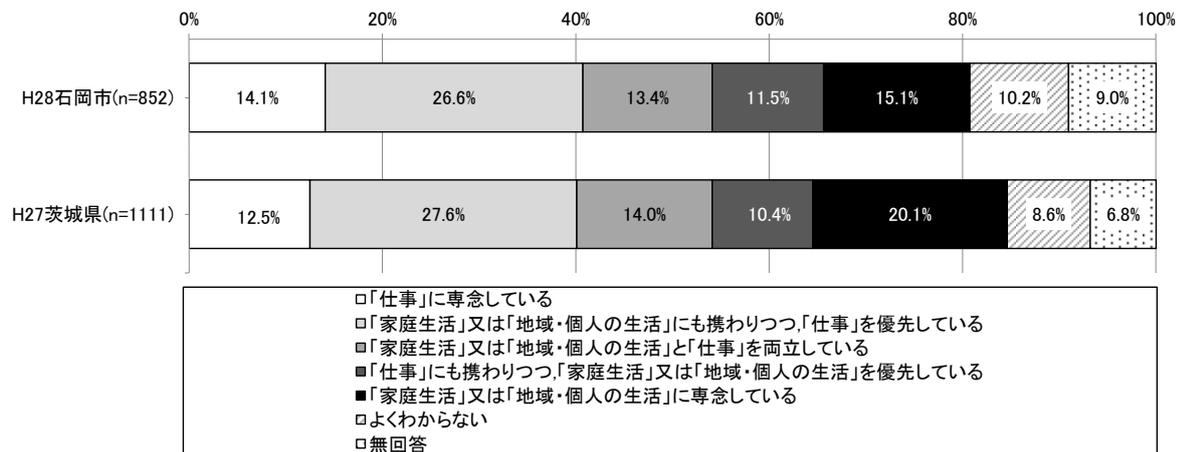
【茨城県（理想） クロス集計】

理想を茨城県と比較すると、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している」がやや石岡市が多く、「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している」が少なくなっています。



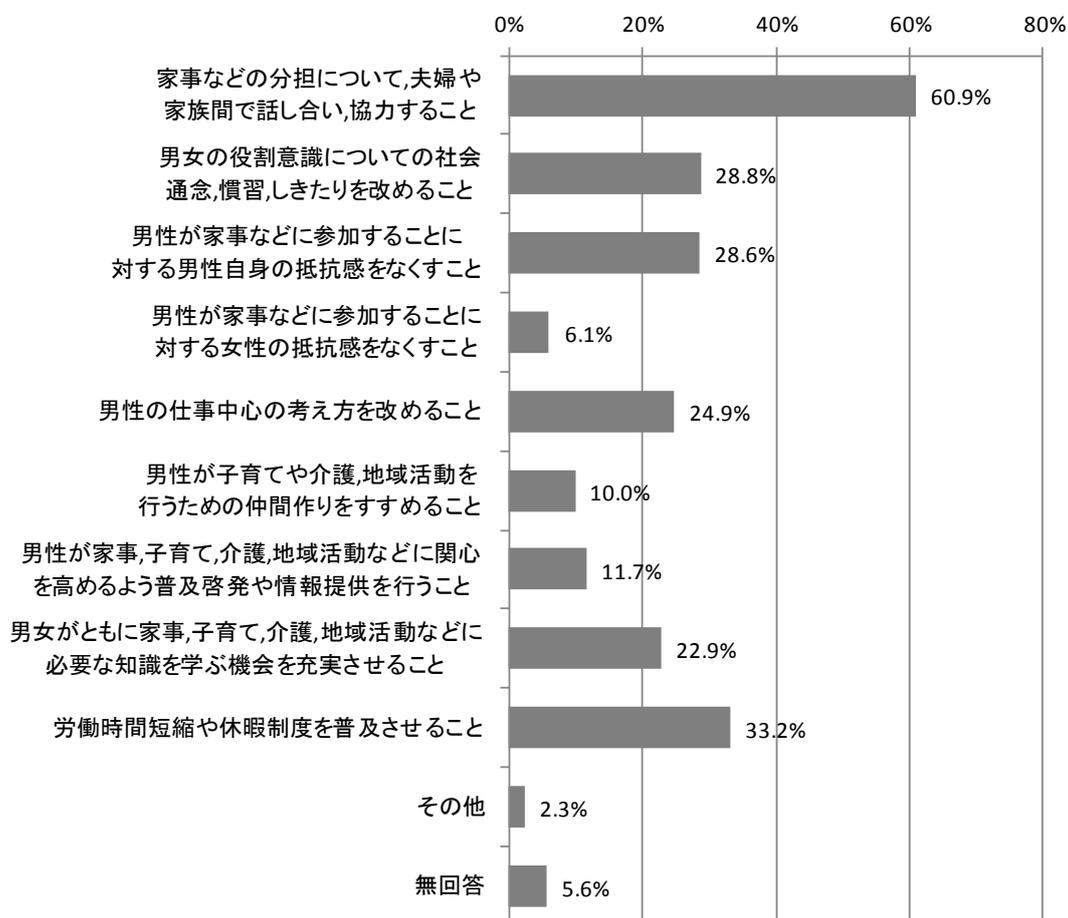
【茨城県（実際） クロス集計】

実際を茨城県と比較すると、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している」が茨城県よりも少なくなっています。



問 10 男性が女性とともに家事，子育て，介護，地域活動に積極的に参加していくためには，どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

「家事などの分担について，夫婦や家族間で話し合い，協力すること」が60.9%と最も多く，次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」33.2%，「男女の役割意識についての社会通念，慣習，しきたりを改めること」28.8%，「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」28.6%，「男性の仕事中心の考え方を改めること」24.9%となっています。



項目	回答数	構成比
家事などの分担について，夫婦や家族間で話し合い，協力すること	519	60.9%
男女の役割意識についての社会通念，慣習，しきたりを改めること	245	28.8%
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	244	28.6%
男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	52	6.1%
男性の仕事中心の考え方を改めること	212	24.9%
男性が子育てや介護，地域活動を行うための仲間作りをすすめること	85	10.0%
男性が家事，子育て，介護，地域活動などに関心を高めるよう普及啓発や情報提供を行うこと	100	11.7%
男女がともに家事，子育て，介護，地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること	195	22.9%
労働時間短縮や休暇制度を普及させること	283	33.2%
その他	20	2.3%
無回答	48	5.6%
回答者数	852	

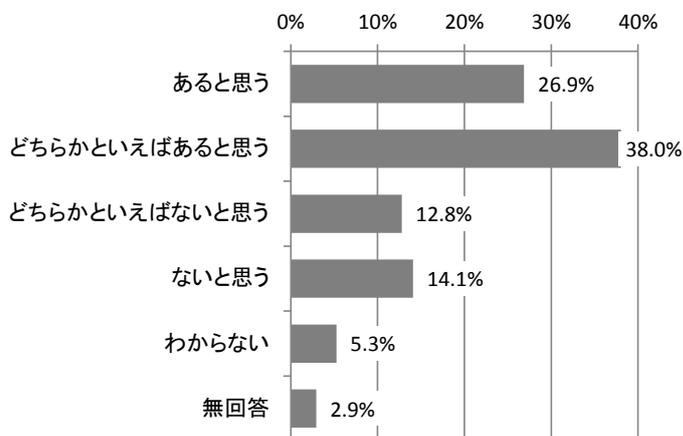
【4 就業について】

問 11 就業に関してお伺いします。

(1) 仕事をこなす能力に対する男女差はありますか。(〇は1つ)

「どちらかといえばあると思う」が 38.0%と最も多く、「あると思う」と合わせると 6割以上となっています。

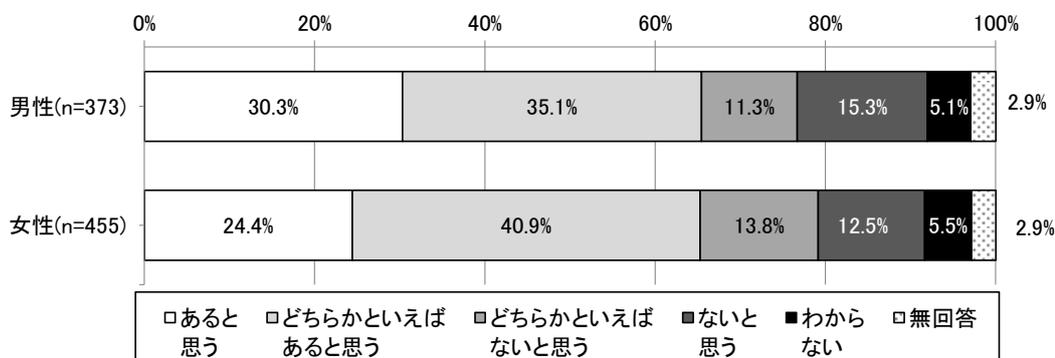
また「ないと思う」「どちらかといえばないと思う」を合わせると 26.9%となっています。



項目	回答数	構成比
あると思う	229	26.9%
どちらかといえばあると思う	324	38.0%
どちらかといえばないと思う	109	12.8%
ないと思う	120	14.1%
わからない	45	5.3%
無回答	25	2.9%
合計	852	100.0%

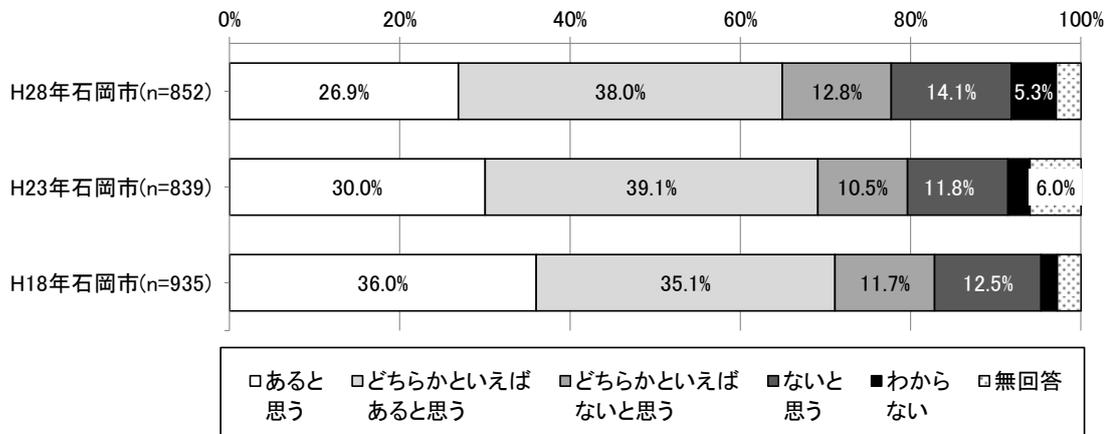
【性別 (1) 仕事をこなす能力に対する男女差 クロス集計】

性別で比較すると男性で「あると思う」が 5.9ポイント多くなっています。



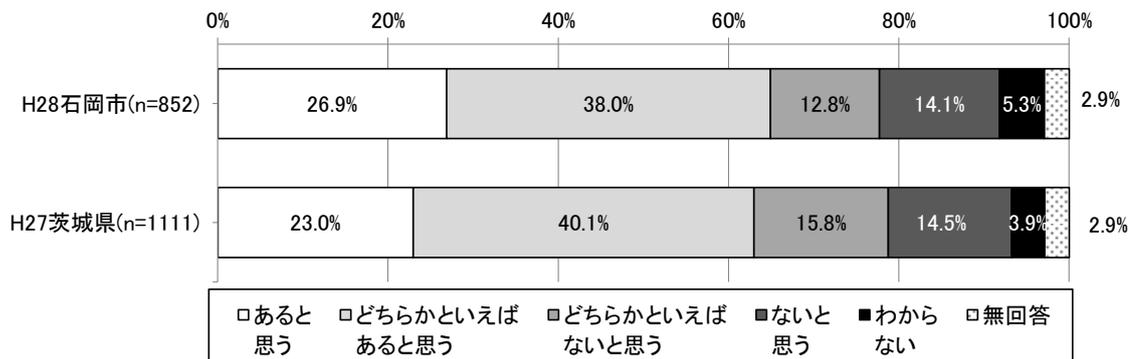
【経年（1）仕事をこなす能力に対する男女差 クロス集計】

経年で比較すると「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせると平成18年、平成23年、平成28年と徐々に減少しています。



【茨城県（1）仕事をこなす能力に対する男女差 クロス集計】

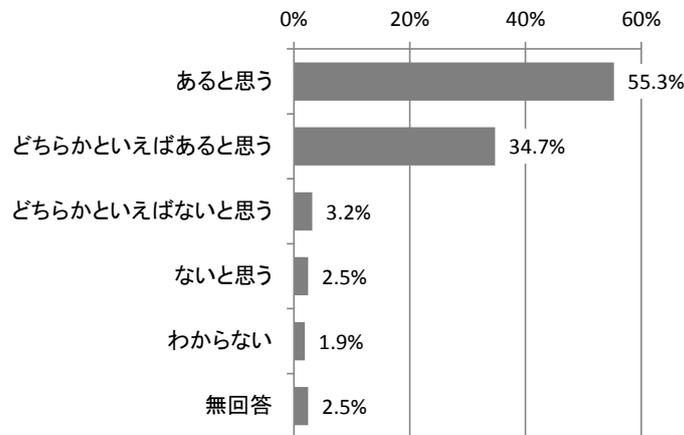
茨城県と比較すると「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせると茨城県よりも1.8ポイント多くなっています。



(2) 男性向き, 女性向きの仕事内容はあると思いますか。(〇は1つ)

「あると思う」が 55.3%と最も多く、「どちらかといえばあると思う」と合わせると9割となっています。

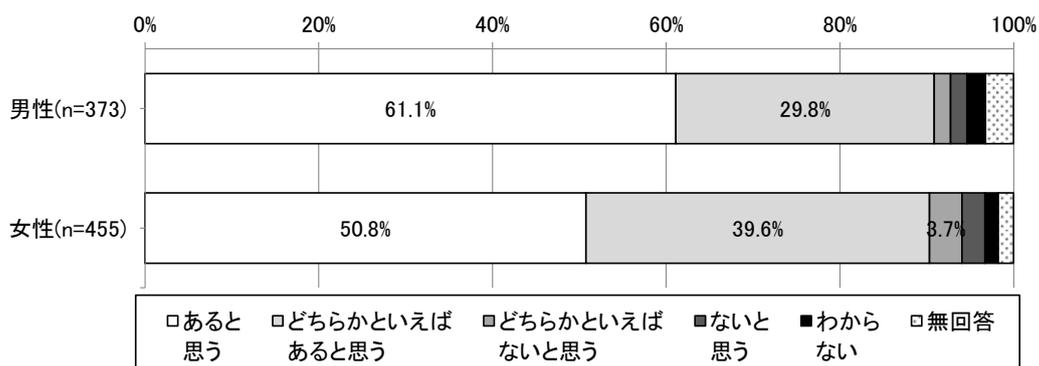
また「ないと思う」「どちらかといえばないと思う」を合わせると 5.7%となっています。



項目	回答数	構成比
あると思う	471	55.3%
どちらかといえばあると思う	296	34.7%
どちらかといえばないと思う	27	3.2%
ないと思う	21	2.5%
わからない	16	1.9%
無回答	21	2.5%
合計	852	100.0%

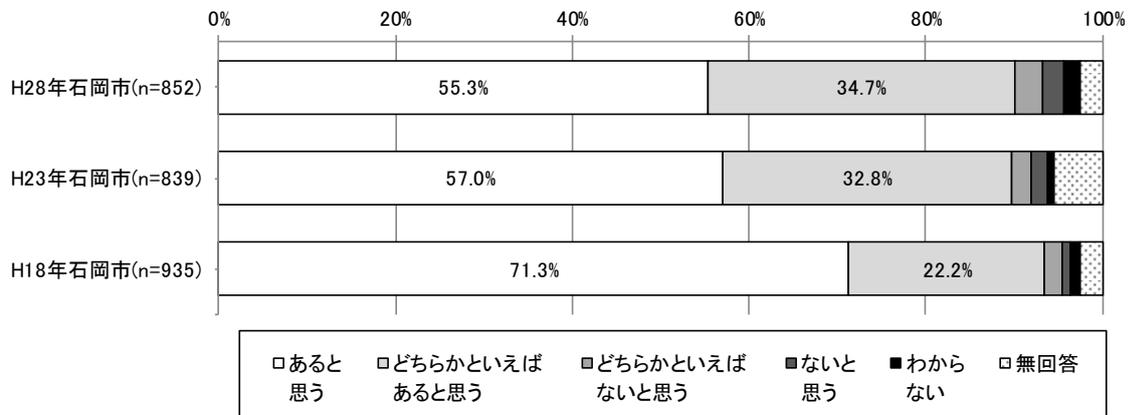
【性別 (2) 男性向き, 女性向きの仕事内容はある クロス集計】

性別で比較すると男性の「あると思う」が 10.3 ポイント多くなっています。



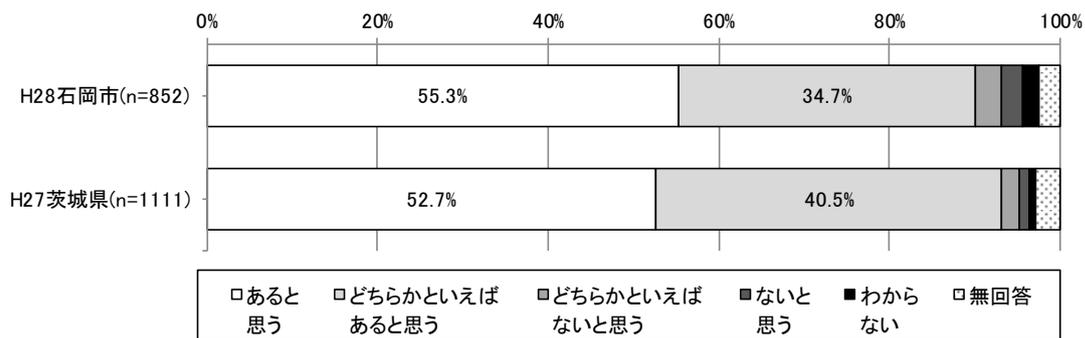
【経年（2）男性向き，女性向きの仕事内容はある クロス集計】

経年で比較すると「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせると平成 18 年から 3.5 ポイント減少しています。特に「あると思う」では，大きく減少しています。



【茨城県（2）男性向き，女性向きの仕事内容はある クロス集計】

茨城県と比較すると「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせると茨城県よりも 3.2 ポイント少なくなっています。

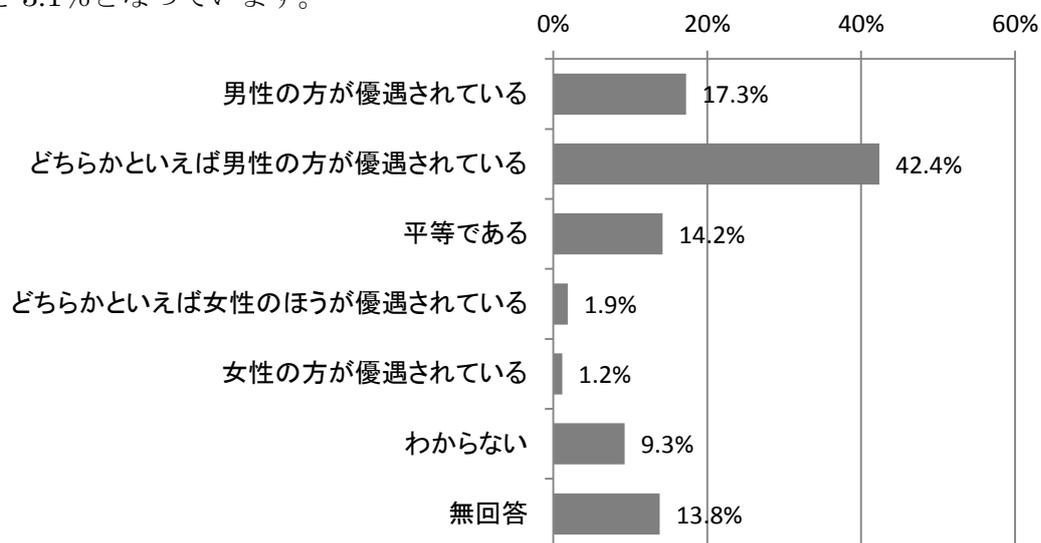


問 12-1 職場における男女の地位は平等になっていると思いますか。

(3 ページ問 1 の (2) 職場と同じ答えになります。)(○は 1 つ)

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 42.4%と最も多く、「男性の方が優遇されている」と合わせると約 6 割となっています。

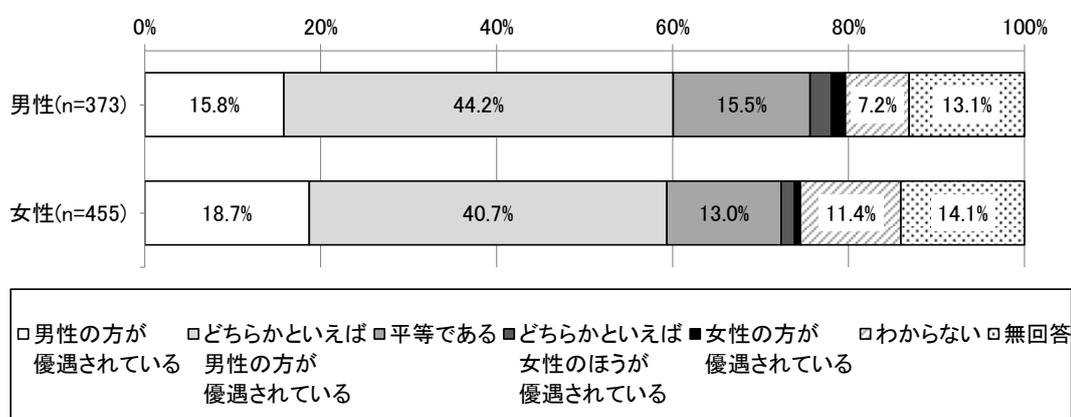
また「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」を合わせると 3.1%となっています。



項目	回答数	構成比
男性の方が優遇されている	147	17.3%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	361	42.4%
平等である	121	14.2%
どちらかといえば女性のほうが優遇されている	16	1.9%
女性の方が優遇されている	10	1.2%
わからない	79	9.3%
無回答	118	13.8%
合計	852	100.0%

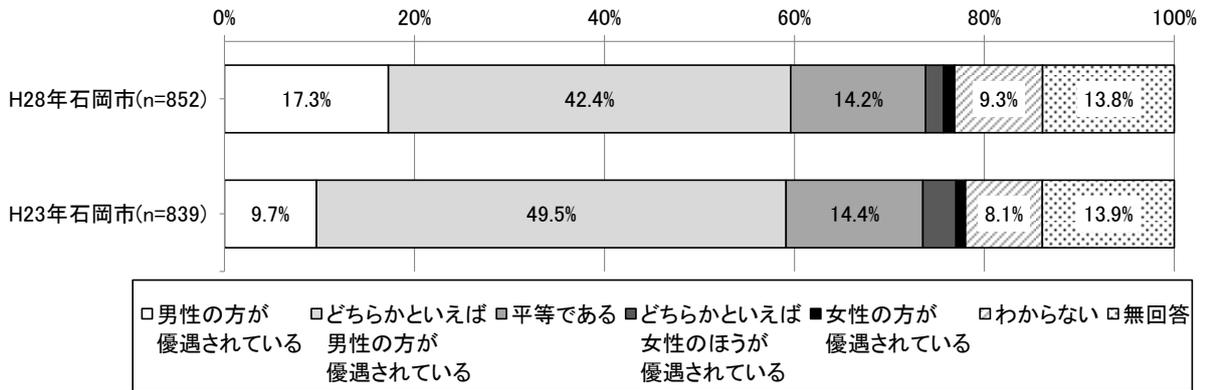
【性別 クロス集計】

性別で比較すると女性の方が「男性の方が優遇されている」が 2.9 ポイント多くなっています。



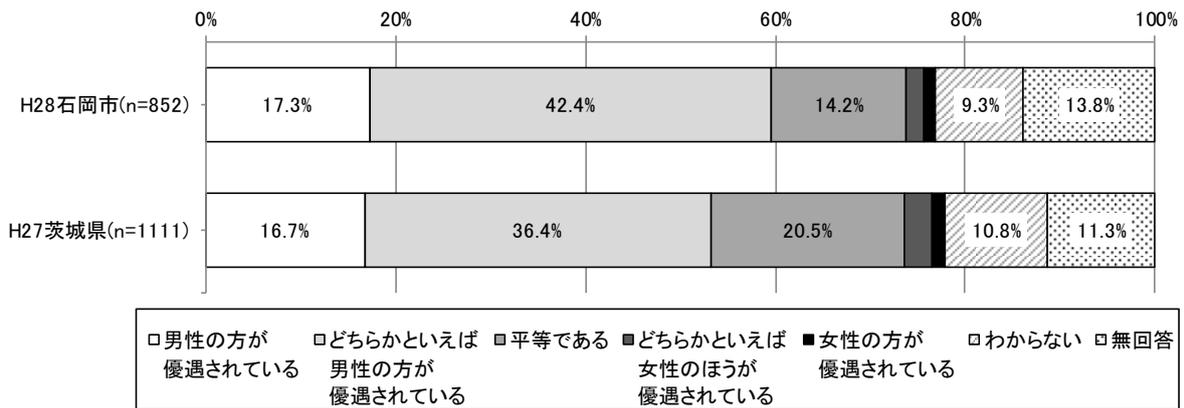
【経年 クロス集計】

経年で比較すると「男性の方が優遇されている」が平成 23 年から 7.6 ポイント増加しています。



【茨城県 クロス集計】

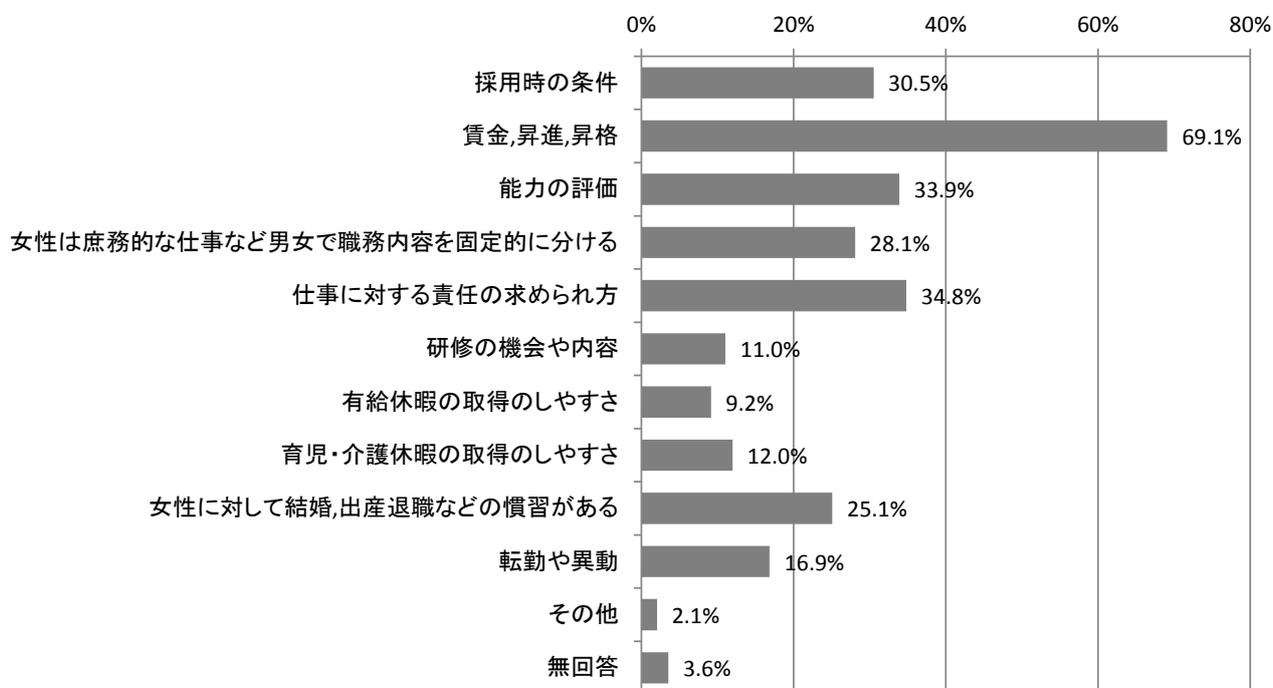
茨城県と比較すると「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせると茨城県よりも 6.6 ポイント多くなっています。



問 12-2 問 12-1 で， 1， 2， 4， 5 とお答えいただいた方にお伺いします。

その具体的な内容はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

「賃金，昇進，昇格」が 69.1% と最も多く，次いで「仕事に対する責任の求められ方」 34.8%，「能力の評価」 33.9%，「採用時の条件」 30.5%，「女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を固定的に分ける」 28.1% となっています。



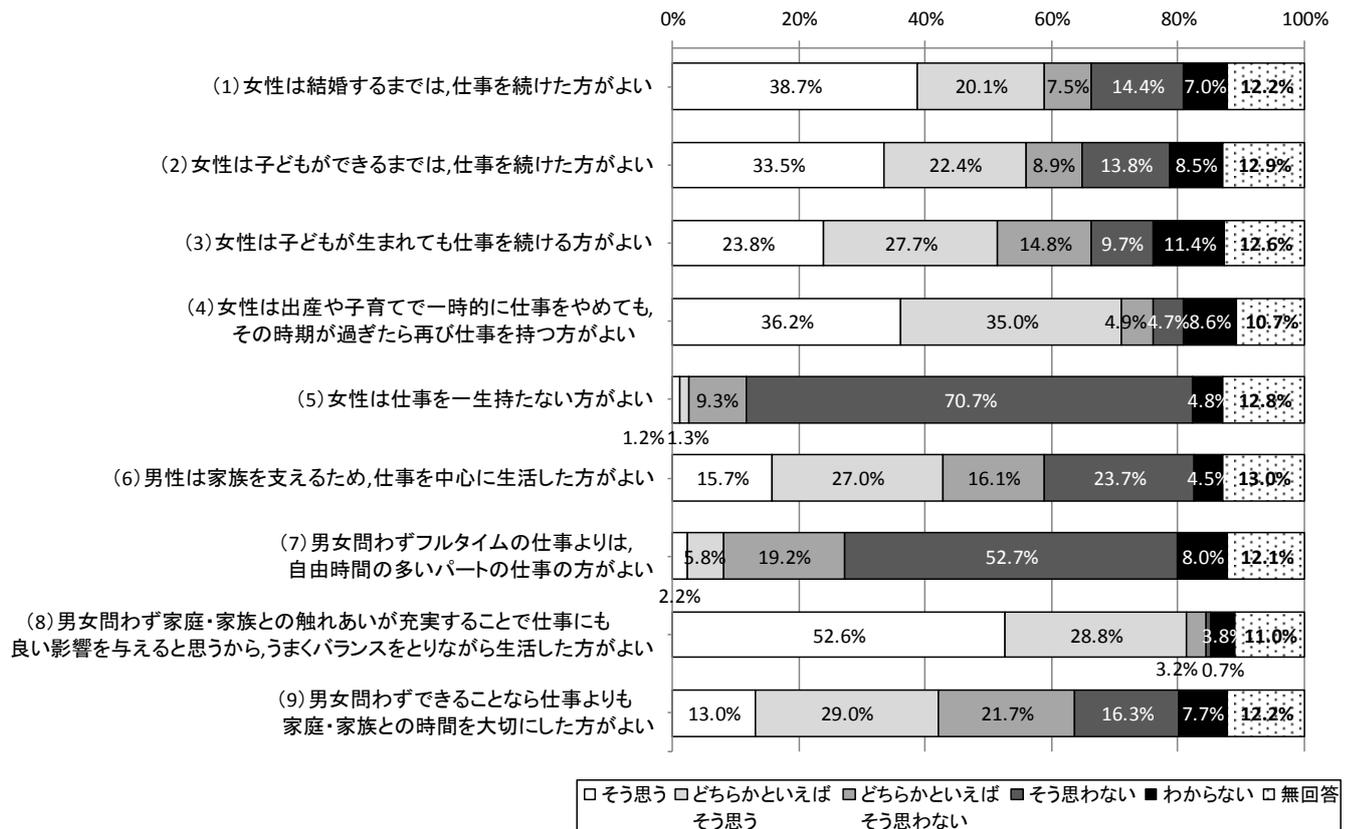
項目	回答数	構成比
採用時の条件	163	30.5%
賃金,昇進,昇格	369	69.1%
能力の評価	181	33.9%
女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を固定的に分ける	150	28.1%
仕事に対する責任の求められ方	186	34.8%
研修の機会や内容	59	11.0%
有給休暇の取得のしやすさ	49	9.2%
育児・介護休暇の取得のしやすさ	64	12.0%
女性に対して結婚,出産退職などの慣習がある	134	25.1%
転勤や異動	90	16.9%
その他	11	2.1%
無回答	19	3.6%
回答者数	534	
非該当	318	
合計	852	

問 13 次の仕事へのかかわり方について、あなたはどうお考えですか。

(それぞれについて該当する「1～5」に○を1つ)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が多い項目は、「(8) 男女問わず家庭・家族との触れあいが充実することで仕事にも良い影響を与えると思うから、うまくバランスをとりながら生活した方がよい」、「(4) 女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても、その時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい」となっています。

また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が多い項目は、「(5) 女性は仕事を一生持たない方がよい」、「(7) 男女問わずフルタイムの仕事よりは、自由時間の多いパートの仕事の方がよい」となっています。



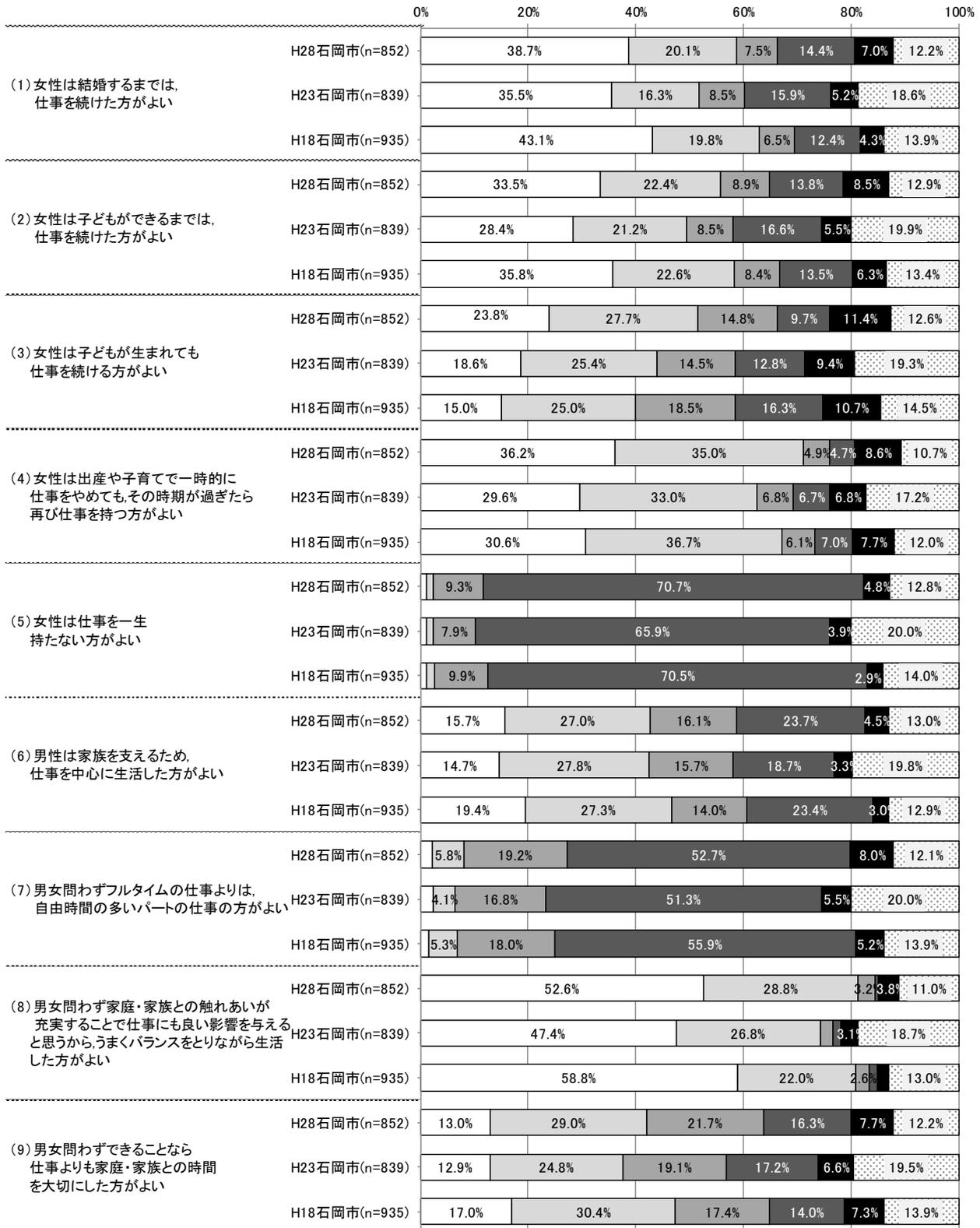
項目	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない	わからない	無回答	合計
(1) 女性は結婚するまでは、仕事を続けた方がよい	330	171	64	123	60	104	852
(2) 女性は子どもができるまでは、仕事を続けた方がよい	285	191	76	118	72	110	852
(3) 女性は子どもが生まれても仕事を続ける方がよい	203	236	126	83	97	107	852
(4) 女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても、その時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい	308	298	42	40	73	91	852
(5) 女性は仕事を一生持たない方がよい	10	11	79	602	41	109	852
(6) 男性は家族を支えるため、仕事を中心に生活した方がよい	134	230	137	202	38	111	852
(7) 男女問わずフルタイムの仕事よりは、自由時間の多いパートの仕事の方がよい	19	49	164	449	68	103	852
(8) 男女問わず家庭・家族との触れあいが充実することで仕事にも良い影響を与えると思うから、うまくバランスをとりながら生活した方がよい	448	245	27	6	32	94	852
(9) 男女問わずできることなら仕事よりも家庭・家族との時間を大切にされた方がよい	111	247	185	139	66	104	852

項目(構成比)	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない	わからない	無回答	合計
(1) 女性は結婚するまでは、仕事を続けた方がよい	38.7%	20.1%	7.5%	14.4%	7.0%	12.2%	100.0%
(2) 女性は子どもができるまでは、仕事を続けた方がよい	33.5%	22.4%	8.9%	13.8%	8.5%	12.9%	100.0%
(3) 女性は子どもが生まれても仕事を続ける方がよい	23.8%	27.7%	14.8%	9.7%	11.4%	12.6%	100.0%
(4) 女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても、その時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい	36.2%	35.0%	4.9%	4.7%	8.6%	10.7%	100.0%
(5) 女性は仕事を一生持たない方がよい	1.2%	1.3%	9.3%	70.7%	4.8%	12.8%	100.0%
(6) 男性は家族を支えるため、仕事を中心に生活した方がよい	15.7%	27.0%	16.1%	23.7%	4.5%	13.0%	100.0%
(7) 男女問わずフルタイムの仕事よりは、自由時間の多いパートの仕事の方がよい	2.2%	5.8%	19.2%	52.7%	8.0%	12.1%	100.0%
(8) 男女問わず家庭・家族との触れあいが充実することで仕事にも良い影響を与えると思うから、うまくバランスをとりながら生活した方がよい	52.6%	28.8%	3.2%	0.7%	3.8%	11.0%	100.0%
(9) 男女問わずできることなら仕事よりも家庭・家族との時間を大切にされた方がよい	13.0%	29.0%	21.7%	16.3%	7.7%	12.2%	100.0%

【経年 クロス集計】

経年で比較すると「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると「(3) 女性は子どもが生まれても仕事を続ける方がよい」で平成18年、平成23年、平成28年と徐々に増加しています。

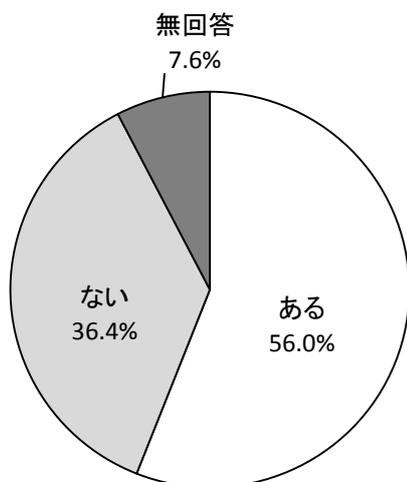
また、他の項目では全体的に「(どちらかといえば) そう思う」が、平成18年から平成23年に減少し、平成28年に増加もしくは横ばいになっています。



□そう思う □どちらかといえば □どちらかといえば ■そう思わない ■わからない □無回答
 そう思う そう思わない

問 14-1 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(〇は1つ)

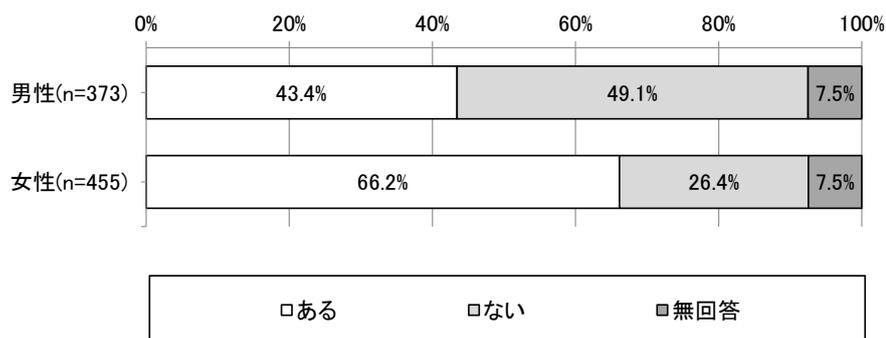
「ある」が56.0%、「ない」が36.4%となっています。



項目	回答数	構成比
ある	477	56.0%
ない	310	36.4%
無回答	65	7.6%
合計	852	100.0%

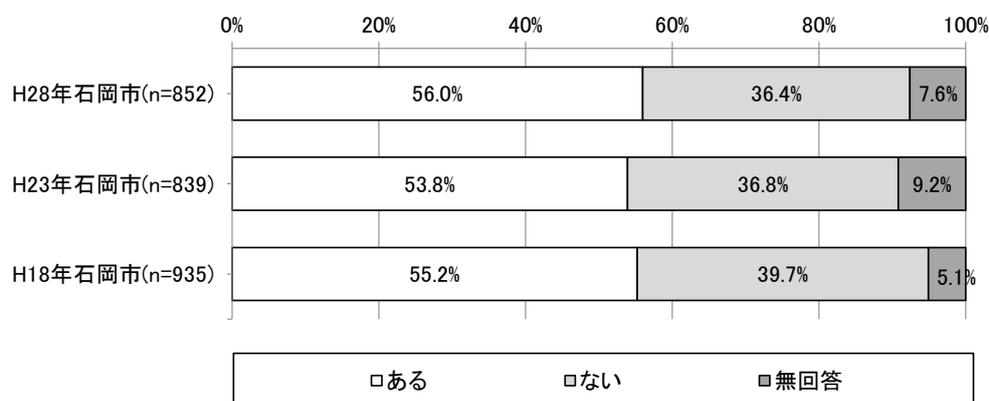
【性別 クロス集計】

性別で比較すると「女性」の「ある」が22.8ポイント多くなっています。



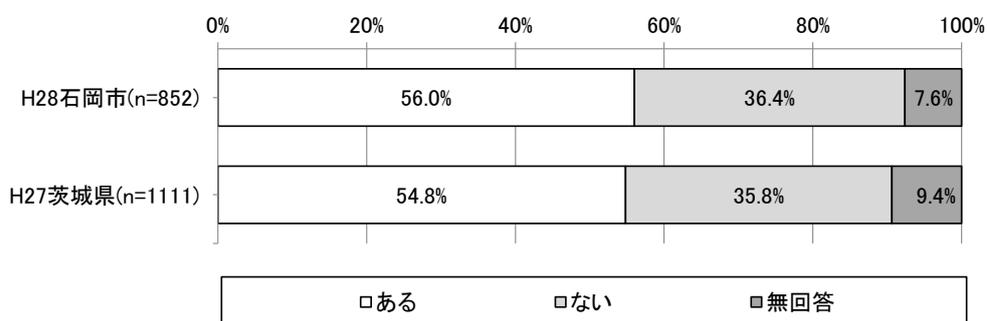
【経年 クロス集計】

経年で比較すると「ない」が平成18年より3.3ポイント減少しています。



【茨城県 クロス集計】

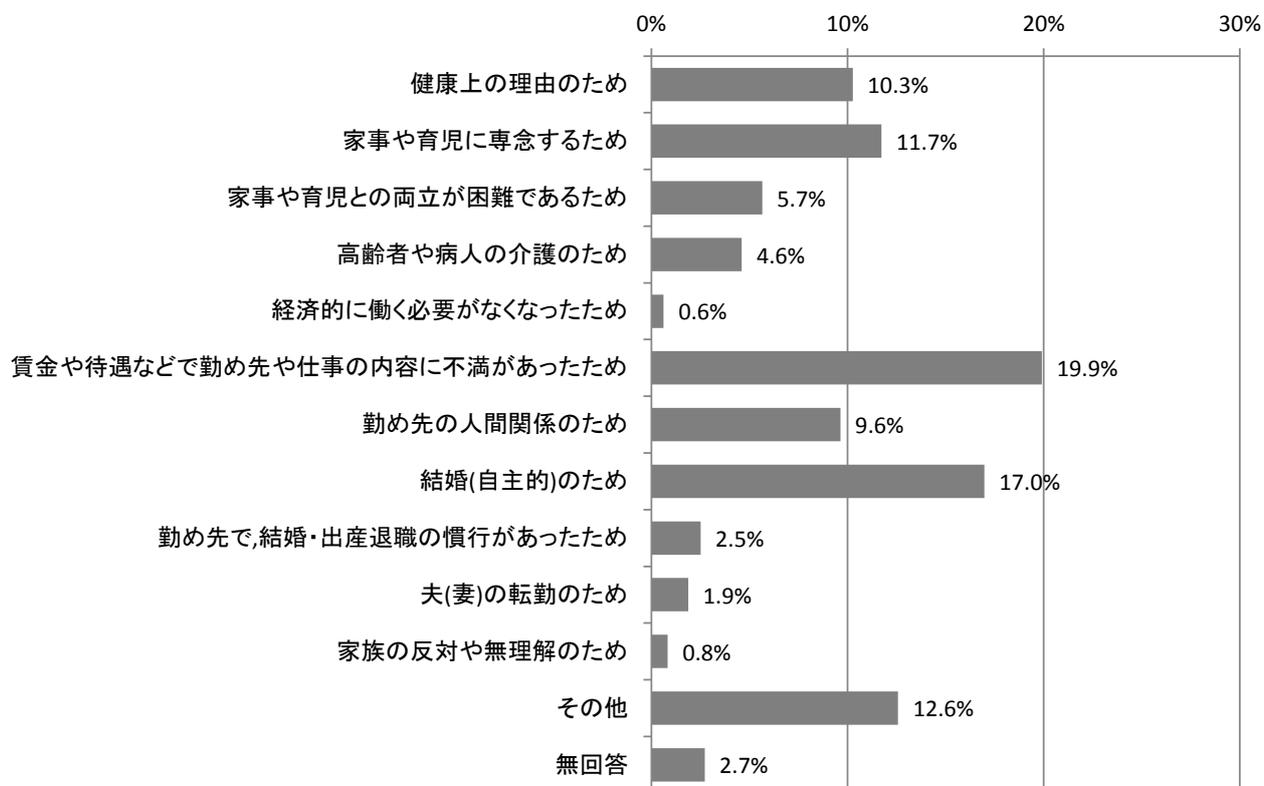
茨城県と比較するとほぼ同様の結果となっています。



問 14-2 問 14-1 で 1 の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。

仕事を辞めた主な理由は何ですか。（○は1つ）

「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が 19.9%と最も多く、次いで「結婚(自主的)のため」が 17.0%、「家事や育児に専念するため」11.7%、「健康上の理由のため」10.3%となっています。

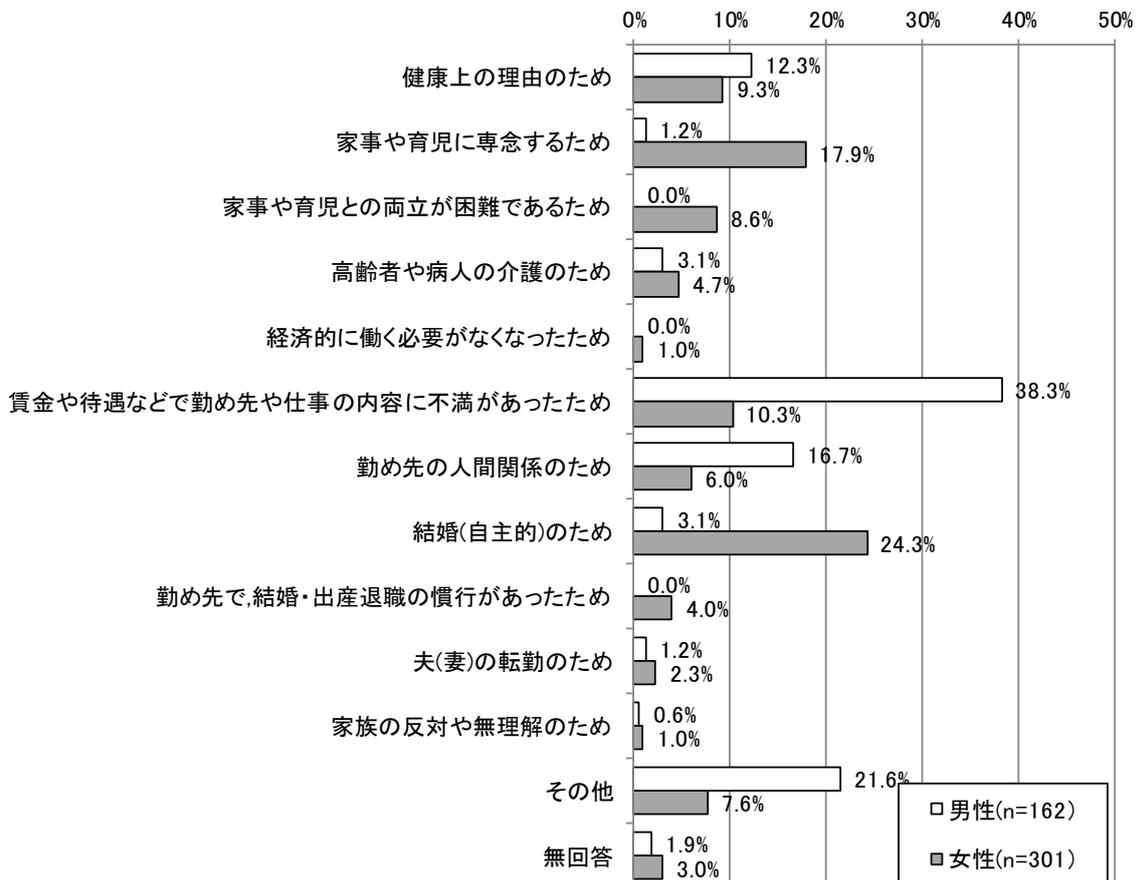


項目	回答数	構成比
健康上の理由のため	49	10.3%
家事や育児に専念するため	56	11.7%
家事や育児との両立が困難であるため	27	5.7%
高齢者や病人の介護のため	22	4.6%
経済的に働く必要がなくなったため	3	0.6%
賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため	95	19.9%
勤め先の人間関係のため	46	9.6%
結婚(自主的)のため	81	17.0%
勤め先で、結婚・出産退職の慣行があったため	12	2.5%
夫(妻)の転勤のため	9	1.9%
家族の反対や無理解のため	4	0.8%
その他	60	12.6%
無回答	13	2.7%
回答者数	477	100.0%
非該当	375	
合計	852	

【性別 クロス集計】

性別で比較すると男性で「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が 28.0 ポイント、「勤め先の人間関係のため」が 10.7 ポイント多くなっています。

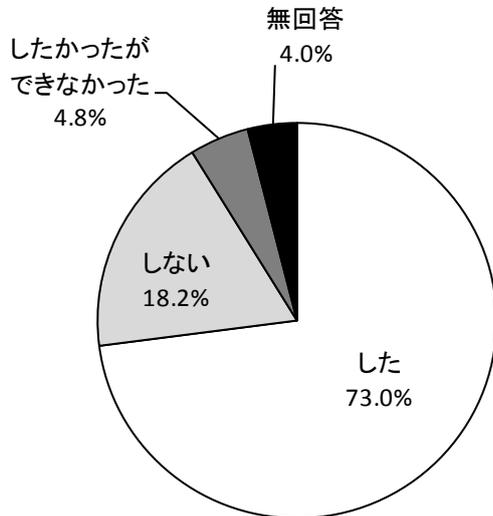
また、女性では「結婚(自主的)のため」が 21.2 ポイント、「家事や育児に専念するため」が 16.7 ポイント、「家事や育児との両立が困難であるため」が 8.6 ポイント多くなっています。



問 14-3 問 14-1 で 1 の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。

仕事を辞めたあと、再就職しましたか。(〇は1つ)

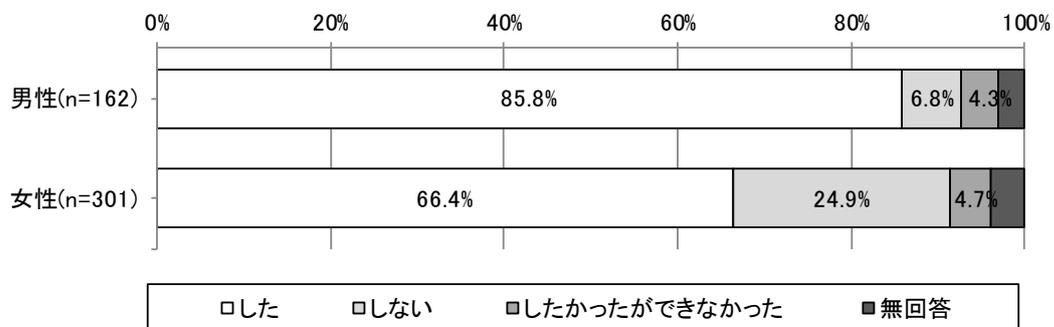
「した」が 73.0%、「しない」が 18.2%、「したかったができなかった」が 4.8%となっています。



項目	回答数	構成比
した	348	73.0%
しない	87	18.2%
したかったができなかった	23	4.8%
無回答	19	4.0%
回答者数	477	100.0%
非該当	375	
合計	852	

【性別 クロス集計】

性別で比較すると男性で「した」が 19.4 ポイント多くなっています。



**問 14-4 問 14-3で3の「したかったができなかった」とお答えいただいた方にお伺い
 します。再就職できなかった理由はなんですか。(〇は3つまで)**

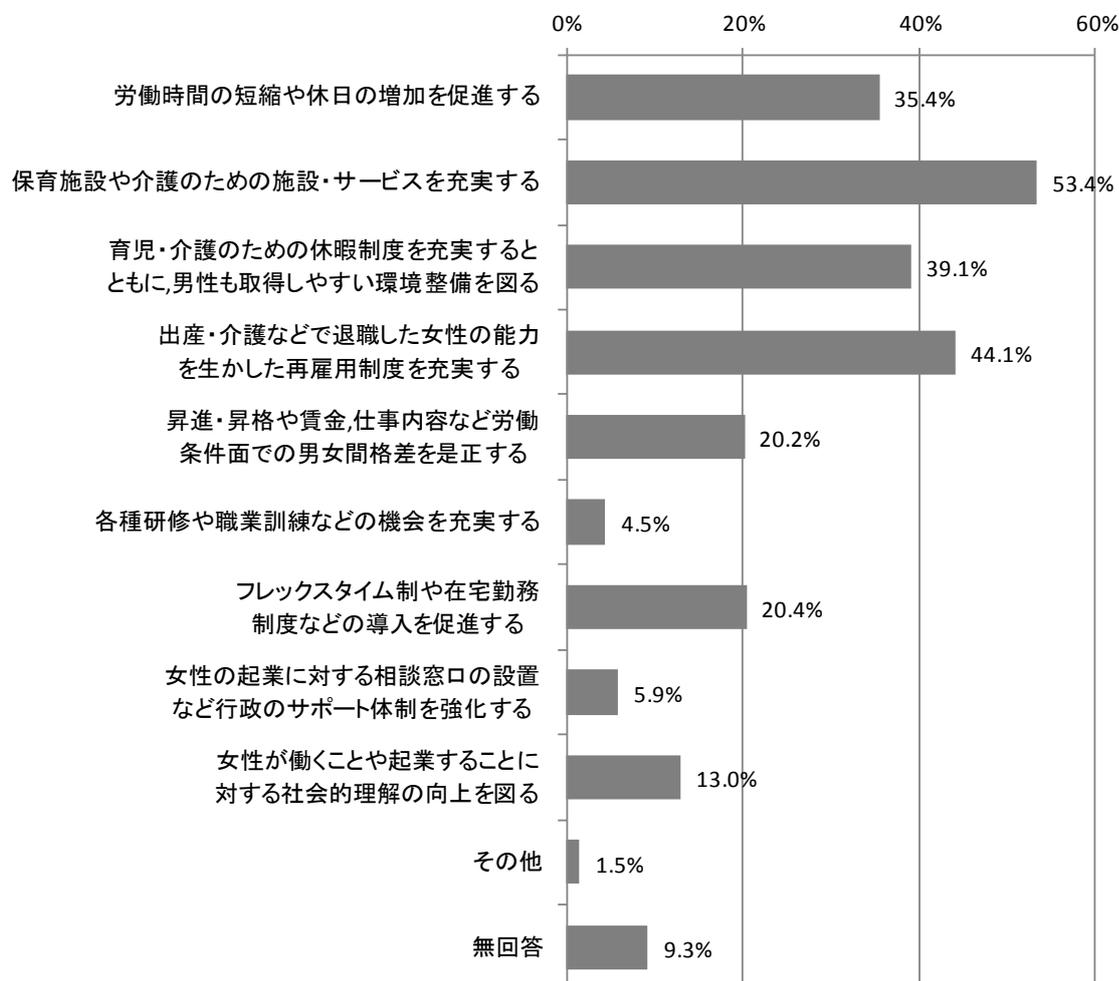
「希望する仕事(職種)が見つからなかった」が7件と多く、次いで「希望する雇用形態(待遇・時間帯)の仕事が見つからなかった」、「自宅の近く又は通勤が可能な地域で見つからなかった」が同数の6件となっています。

項目	回答数	構成比
希望する仕事(職種)が見つからなかった	7	30.4%
希望する雇用形態(待遇・時間帯)の仕事が見つからなかった	6	26.1%
家庭生活とのバランスや両立が難しかった	4	17.4%
自宅の近く又は通勤が可能な地域で見つからなかった	6	26.1%
自宅や職場近くで子どもをあずける場所が見つからなかった	1	4.3%
仕事に見合う資格がなかった	3	13.0%
パートナーの協力や理解が得られなかった	4	17.4%
自身の体力・健康上の理由	1	4.3%
家族の健康	2	8.7%
夫の税金控除や扶養手当との関係	2	8.7%
再就職することに対して不安があった	1	4.3%
その他	9	39.1%
無回答	0	0.0%
回答者数	23	
非該当	829	
合計	852	

※回答者数が少ないため表のみ記載しています。

問 15 女性が働きやすくするためにはどんなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

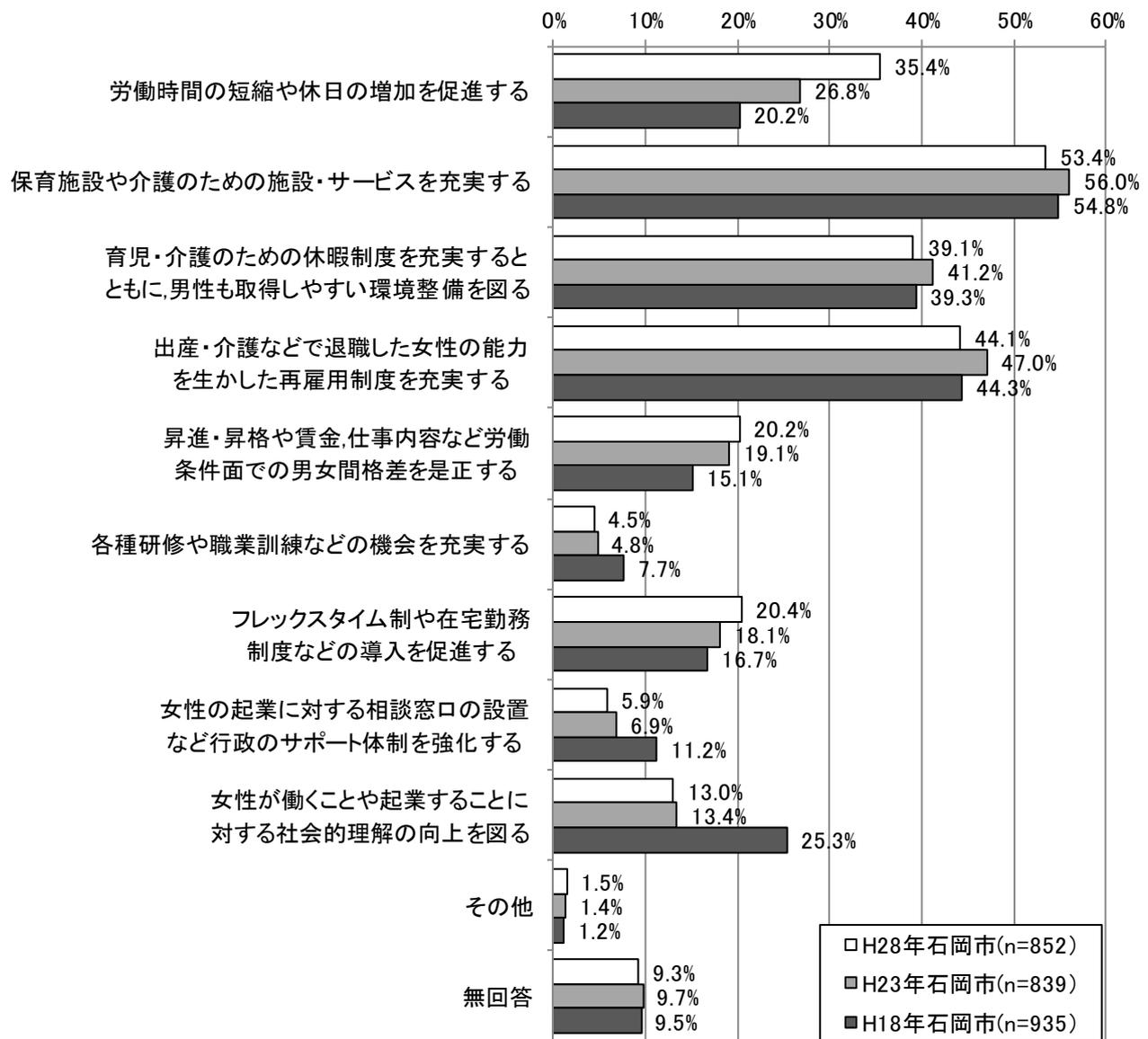
「保育施設や介護のための施設・サービスを充実する」が53.4%と最も多く、次いで「出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する」44.1%、「育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る」39.1%、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」35.4%となっています。



項目	回答数	構成比
労働時間の短縮や休日の増加を促進する	302	35.4%
保育施設や介護のための施設・サービスを充実する	455	53.4%
育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る	333	39.1%
出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する	376	44.1%
昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女間格差を是正する	172	20.2%
各種研修や職業訓練などの機会を充実する	38	4.5%
フレックスタイム制や在宅勤務制度などの導入を促進する	174	20.4%
女性の起業に対する相談窓口の設置など行政のサポート体制を強化する	50	5.9%
女性が働くことや起業することに対する社会的理解の向上を図る	111	13.0%
その他	13	1.5%
無回答	79	9.3%
回答者数	852	

【経年 クロス集計】

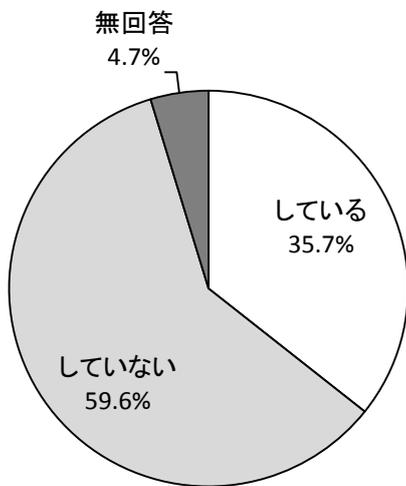
経年で比較すると「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」, 「昇進・昇格や賃金, 仕事内容など労働条件面での男女間格差を是正する」, 「フレックスタイム制や在宅勤務制度などの導入を促進する」が平成18年, 平成23年, 平成28年と徐々に増加しています。特に「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」では, 平成18年と比較すると15.2ポイント増加しています。



【5 地域活動・社会参画について】

問 16-1 あなたは現在、町内会やボランティアなどの地域活動はしていますか。

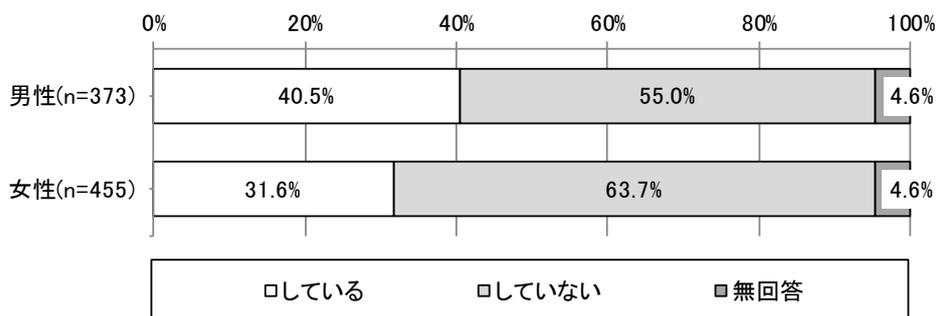
「している」が 35.7%、「していない」が 59.6%となっています。



項目	回答数	構成比
している	304	35.7%
していない	508	59.6%
無回答	40	4.7%
合計	852	100.0%

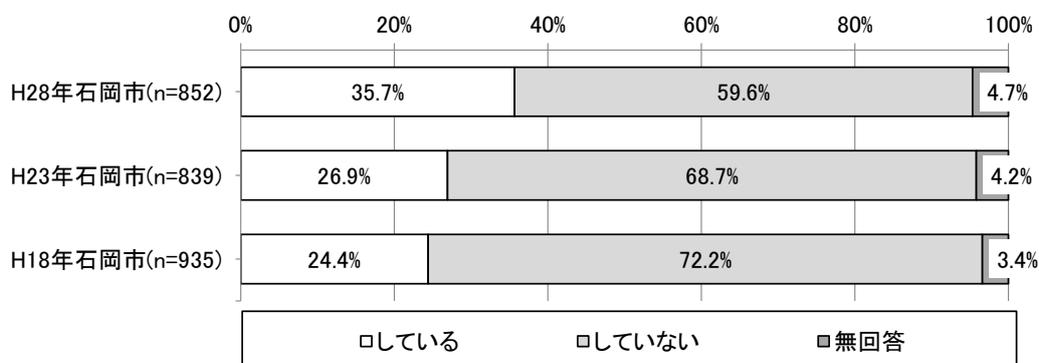
【性別 クロス集計】

性別で比較すると男性が「している」で 8.9 ポイント多くなっています。



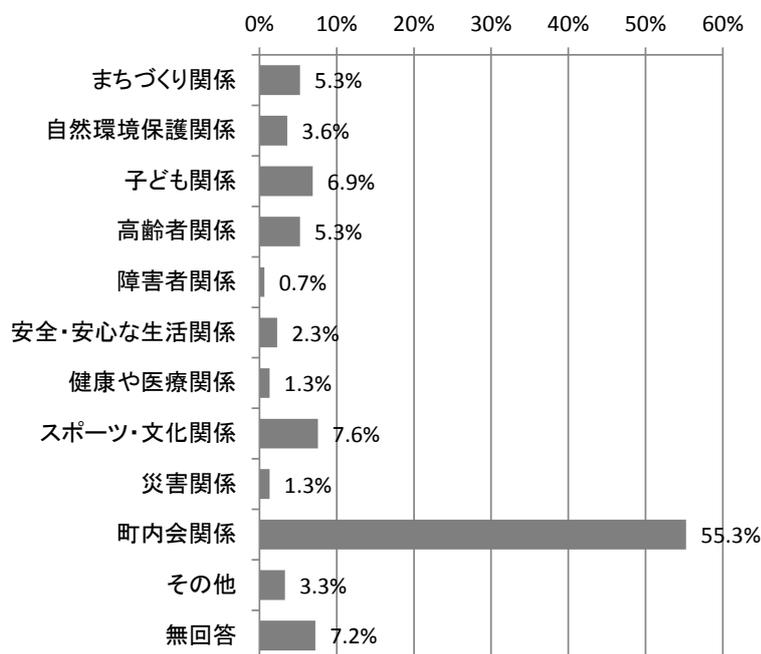
【経年 クロス集計】

経年で比較すると「している」が徐々に増加しており平成 18 年からは 11.3 ポイント増となっています。



問 16-2 問 16-1で1の「している」とお答えいただいた方にお伺いします。それはどのような活動内容(分野)ですか。(あてはまる主なものに○を1つ)

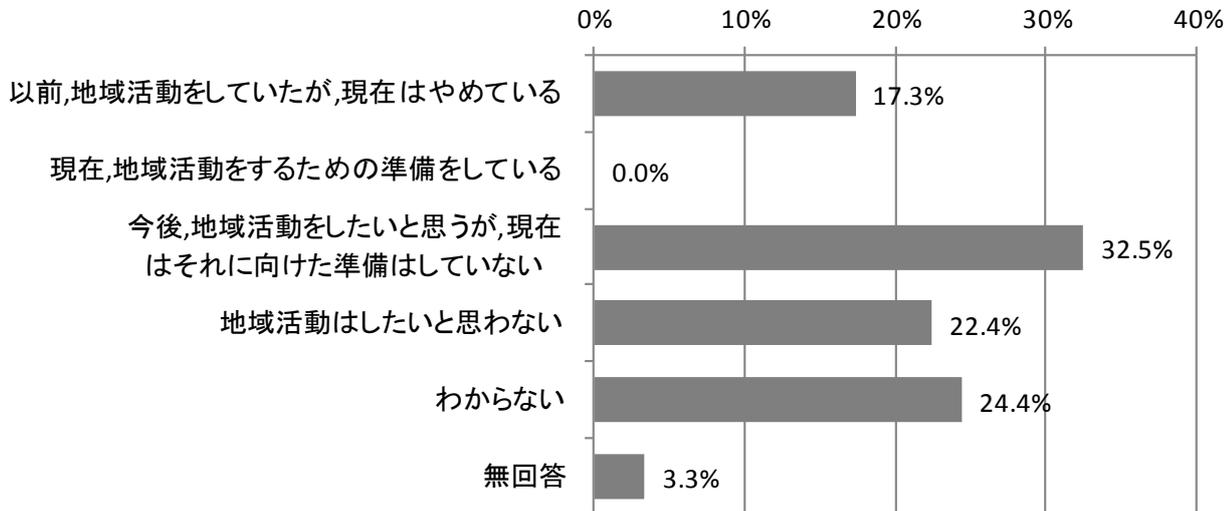
地域活動の内容は、「町内会関係」が55.3%と最も多くなっています。



項目	回答数	構成比
まちづくり関係	16	5.3%
自然環境保護関係	11	3.6%
子ども関係	21	6.9%
高齢者関係	16	5.3%
障害者関係	2	0.7%
安全・安心な生活関係	7	2.3%
健康や医療関係	4	1.3%
スポーツ・文化関係	23	7.6%
災害関係	4	1.3%
町内会関係	168	55.3%
その他	10	3.3%
無回答	22	7.2%
回答者数	304	100.0%
非該当	548	
合計	852	

問 16-3 問 16-1 で 2 の「していない」とお答えいただいた方にお伺いします。地域活動をするかどうかについてどう思いますか。(○は1つ)

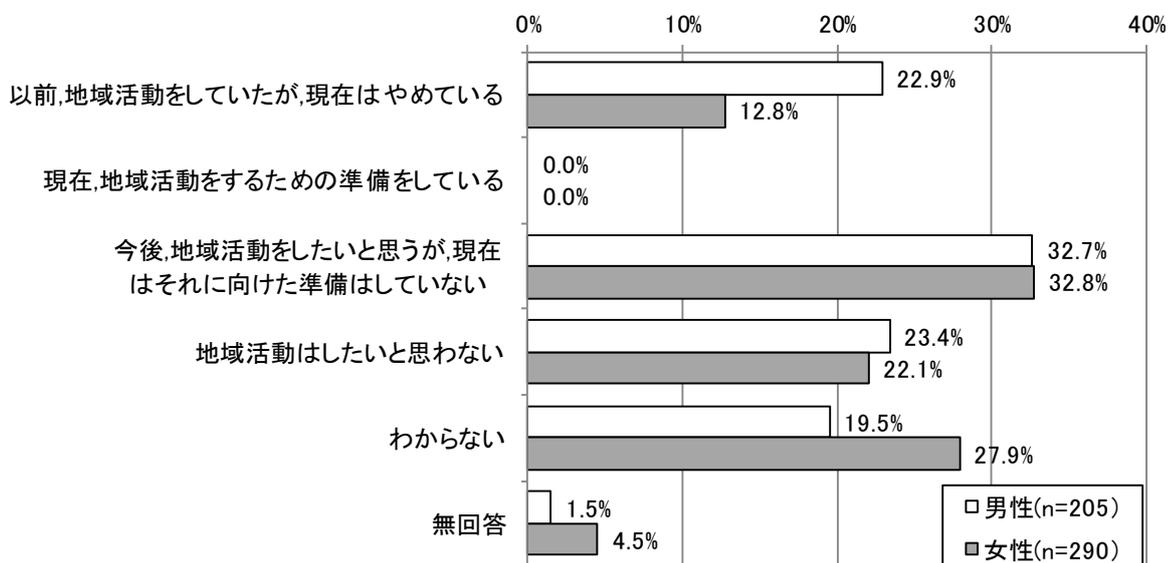
「今後、地域活動をしたと思うが、現在はそれに向けた準備はしていない」が 32.5% と最も多く、次いで、「地域活動はしたいと思わない」 22.4%、「以前、地域活動をしていたが、現在はやめている」 17.3% となっています。



項目	回答数	構成比
以前,地域活動をしていたが,現在はやめている	88	17.3%
現在,地域活動をするための準備をしている	0	0.0%
今後,地域活動をしたと思うが,現在はそれに向けた準備はしていない	165	32.5%
地域活動はしたいと思わない	114	22.4%
わからない	124	24.4%
無回答	17	3.3%
回答者数	508	100.0%
非該当	344	
合計	852	

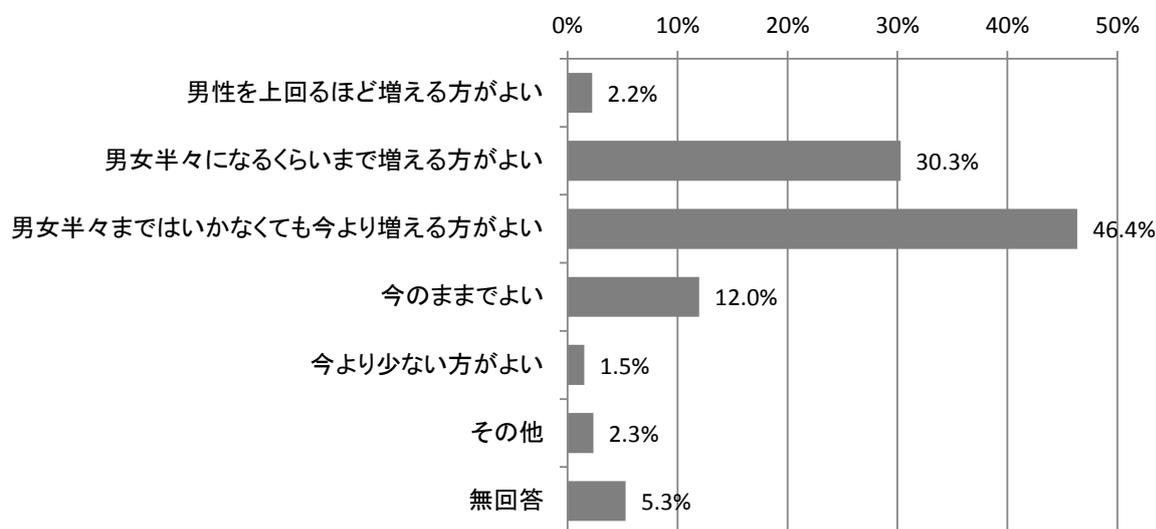
【性別 クロス集計】

性別で比較すると男性が「以前、地域活動をしていたが、現在はやめている」が 10.1 ポイント多くなっています。



問 17-1 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が参画することについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

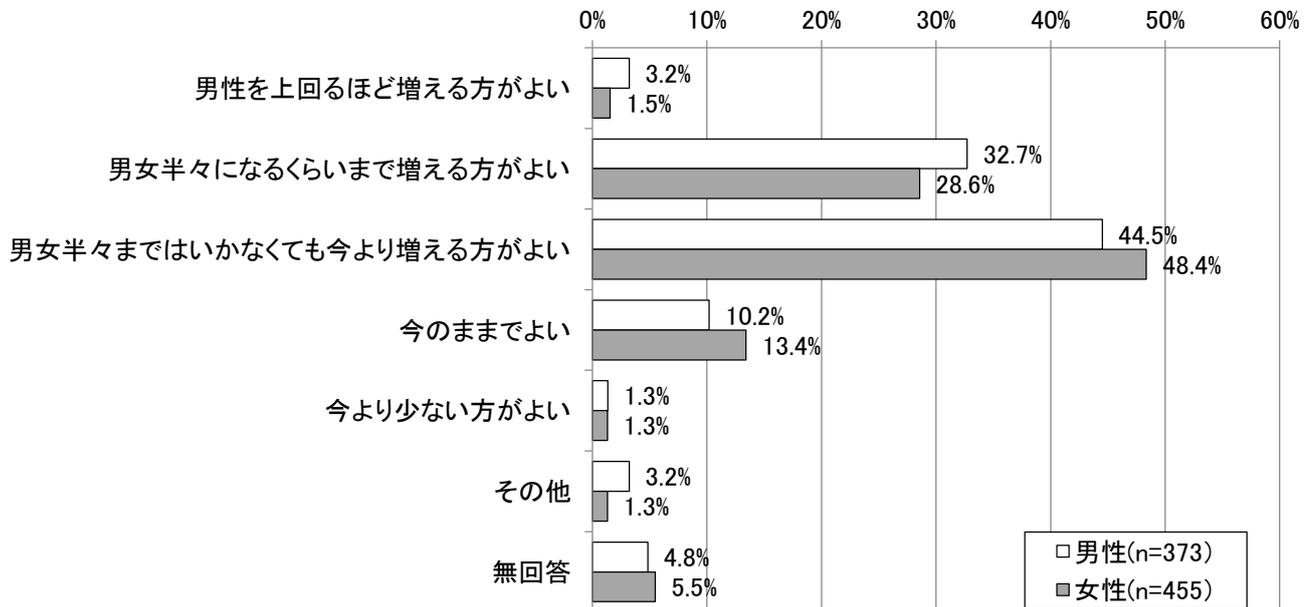
「男女半々まではいかなくても今より増える方がよい」が46.4%と最も多く、次いで「男女半々になるくらいまで増える方がよい」30.3%、「今のままでよい」12.0%となっています。



項目	回答数	構成比
男性を上回るほど増える方がよい	19	2.2%
男女半々になるくらいまで増える方がよい	258	30.3%
男女半々まではいかなくても今より増える方がよい	395	46.4%
今のままでよい	102	12.0%
今より少ない方がよい	13	1.5%
その他	20	2.3%
無回答	45	5.3%
合計	852	100.0%

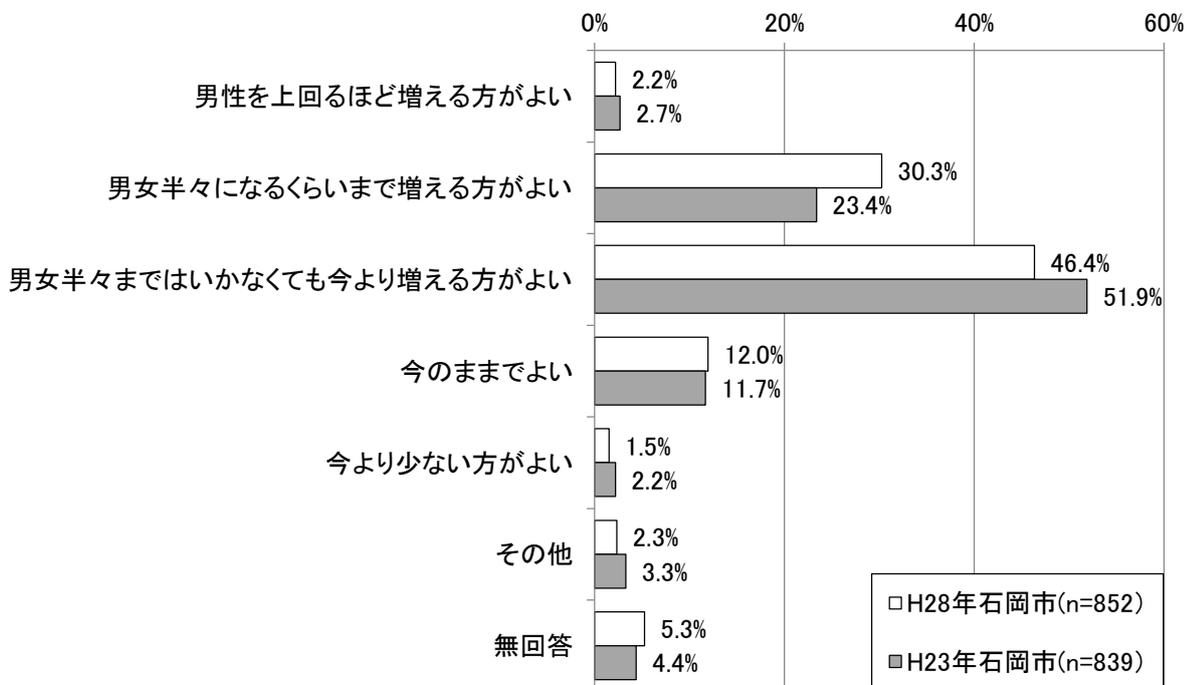
【性別 クロス集計】

性別で比較すると男性で「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が 4.1 ポイント多く、女性では、「男女半々まではいかなくても今より増える方がよい」で 3.9 ポイント、「今のままでよい」が 3.2 ポイント多くなっています。



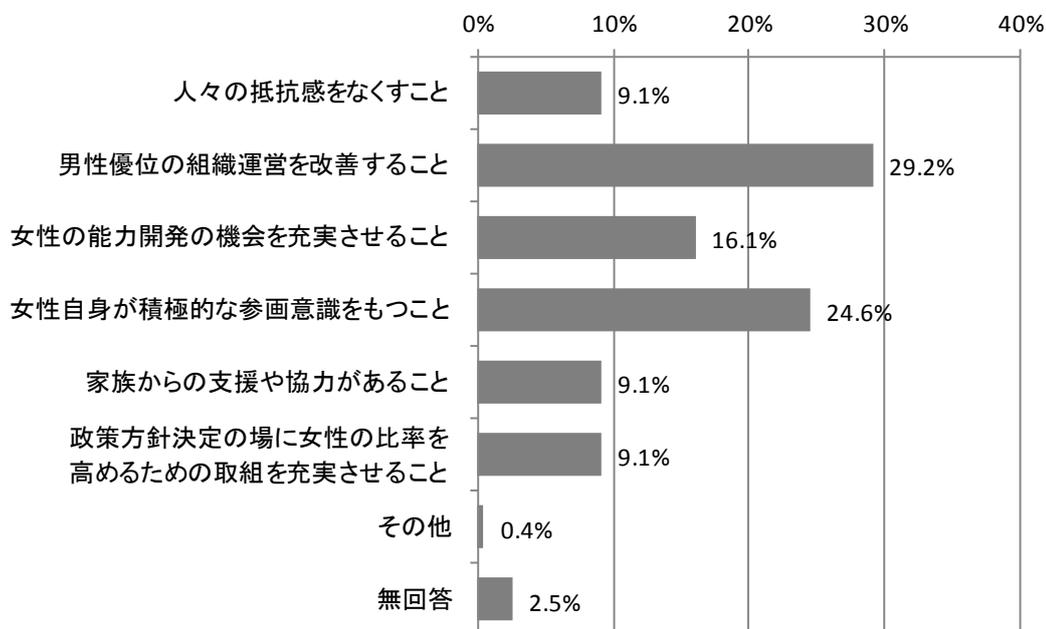
【経年 クロス集計】

経年で比較すると平成 23 年より「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が 6.9 ポイント増加し、「男女半々まではいかなくても今より増える方がよい」が 5.5 ポイント減少しています。



問 17-2 問 17-1 で 1～3 のいずれかと回答された方にお伺いします。議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたが特に重要だと思うものを選んでください。(〇は1つ)

「男性優位の組織運営を改善すること」が 29.2%と最も多く、次いで「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」24.6%、「女性の能力開発の機会を充実させること」16.1%となっています。

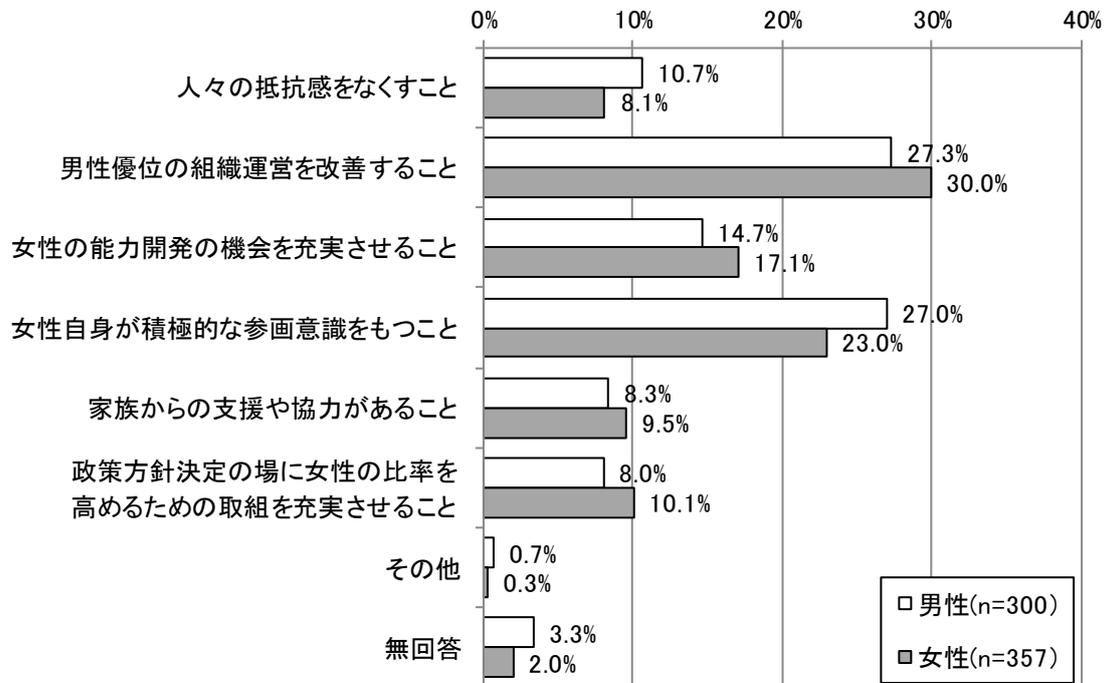


項目	回答数	構成比
人々の抵抗感をなくすこと	61	9.1%
男性優位の組織運営を改善すること	196	29.2%
女性の能力開発の機会を充実させること	108	16.1%
女性自身が積極的な参画意識をもつこと	165	24.6%
家族からの支援や協力があること	61	9.1%
政策方針決定の場に女性の比率を高めるための取組を充実させること	61	9.1%
その他	3	0.4%
無回答	17	2.5%
回答者数	672	100.0%
非該当	180	
合計	852	

【性別 クロス集計】

性別で比較すると男性が「人々の抵抗感をなくすこと」、「女性自身が積極的な参画意識をもつこと」で多くなっています。

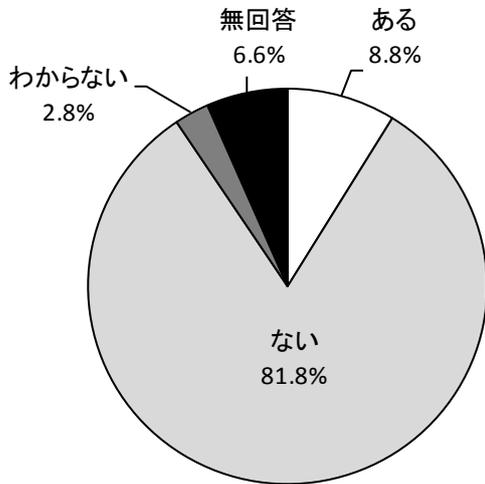
また、女性では、「男性優位の組織運営を改善すること」、「女性の能力開発の機会を充実させること」、「家族からの支援や協力があること」、「政策方針決定の場に女性の比率を高めるための取組を充実させること」が多くなっています。



【6 ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人などからの暴力）について】

問 18-1 配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力（問 18-2 のようなこと）を受けた経験はありますか。（〇はひとつ）

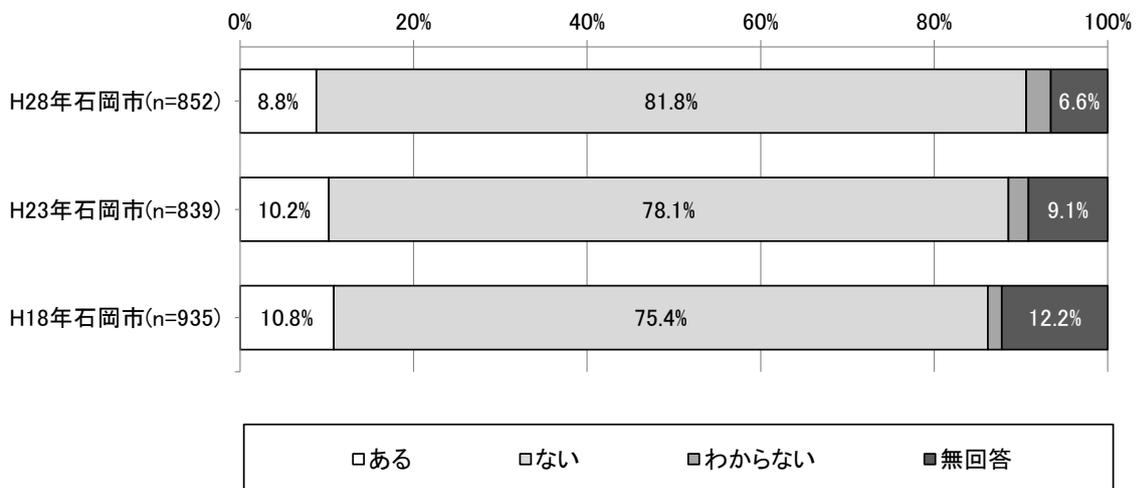
「ある」が 8.8%、「ない」が 81.8%、「わからない」が 2.8%となっています。



項目	回答数	構成比
ある	75	8.8%
ない	697	81.8%
わからない	24	2.8%
無回答	56	6.6%
合計	852	100.0%

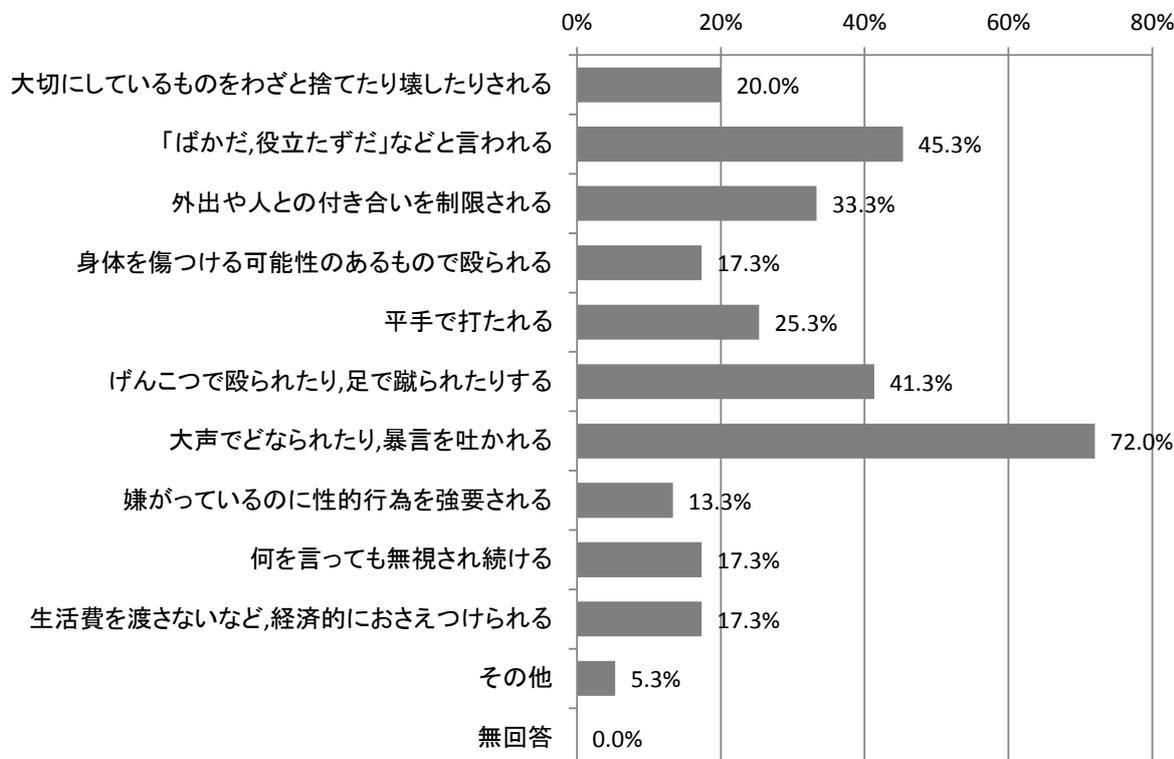
【経年 クロス集計】

経年で比較すると「ない」が徐々に増加しています。



問 18-2 問 18-1 で 1 の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

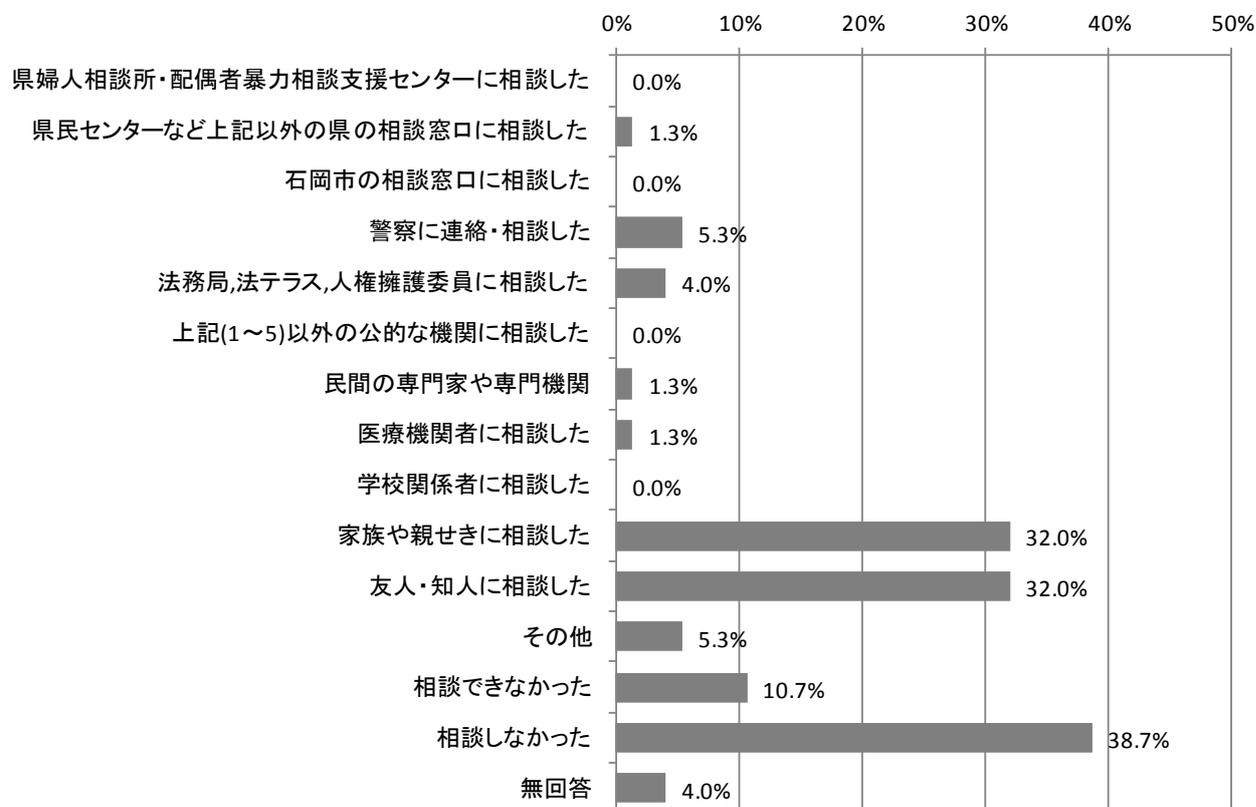
「大声でどなられたり、暴言を吐かれる」が 72.0%と最も多く、次いで「「ばかだ、役立たずだ」などと言われる」45.3%、「げんこつで殴られたり、足で蹴られたりする」41.3%、「外出や人との付き合いを制限される」33.3%となっています。



項目	回答数	構成比
大切にしているものをわざと捨てたり壊したりされる	15	20.0%
「ばかだ、役立たずだ」などと言われる	34	45.3%
外出や人との付き合いを制限される	25	33.3%
身体を傷つける可能性のあるもので殴られる	13	17.3%
平手で打たれる	19	25.3%
げんこつで殴られたり、足で蹴られたりする	31	41.3%
大声でどなられたり、暴言を吐かれる	54	72.0%
嫌がっているのに性的行為を強要される	10	13.3%
何を言っても無視され続ける	13	17.3%
生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる	13	17.3%
その他	4	5.3%
無回答	0	0.0%
回答者数	75	
非該当	777	
合計	852	

問 18-3 問 18-1 で 1 の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。あなたは、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

「家族や親せきに相談した」、「友人・知人に相談した」が同数の 32.0%と多くなっています。また、「相談しなかった」が 38.7%となっています。



項目	回答数	構成比
県婦人相談所・配偶者暴力相談支援センターに相談した	0	0.0%
県民センターなど上記以外の県の相談窓口	1	1.3%
石岡市の相談窓口	0	0.0%
警察に連絡・相談した	4	5.3%
法務局,法テラス,人権擁護委員に相談した	3	4.0%
上記(1~5)以外の公的な機関	0	0.0%
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会,カウンセラー・ カウンセリング機関,民間,シェルターなど)に相談した	1	1.3%
医療機関者(医師,看護師など)に相談した	1	1.3%
学校関係者(教員,養護教員,スクールカウンセラーなど)に相談した	0	0.0%
家族や親せきに相談した	24	32.0%
友人・知人に相談した	24	32.0%
その他	4	5.3%
相談できなかった	8	10.7%
相談しなかった	29	38.7%
無回答	3	4.0%
回答者数	75	
非該当	777	
合計	852	

問 18-4 問 18-3 で 13「相談できなかった」14「相談しなかった」とお答えいただいた方にお伺いします。どこ(だれ)にも相談できなかった、あるいは相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 12 件と最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」が同数の 9 件となっています。

また、「相談するほどのことではないと思ったから」が 14 件となっています。

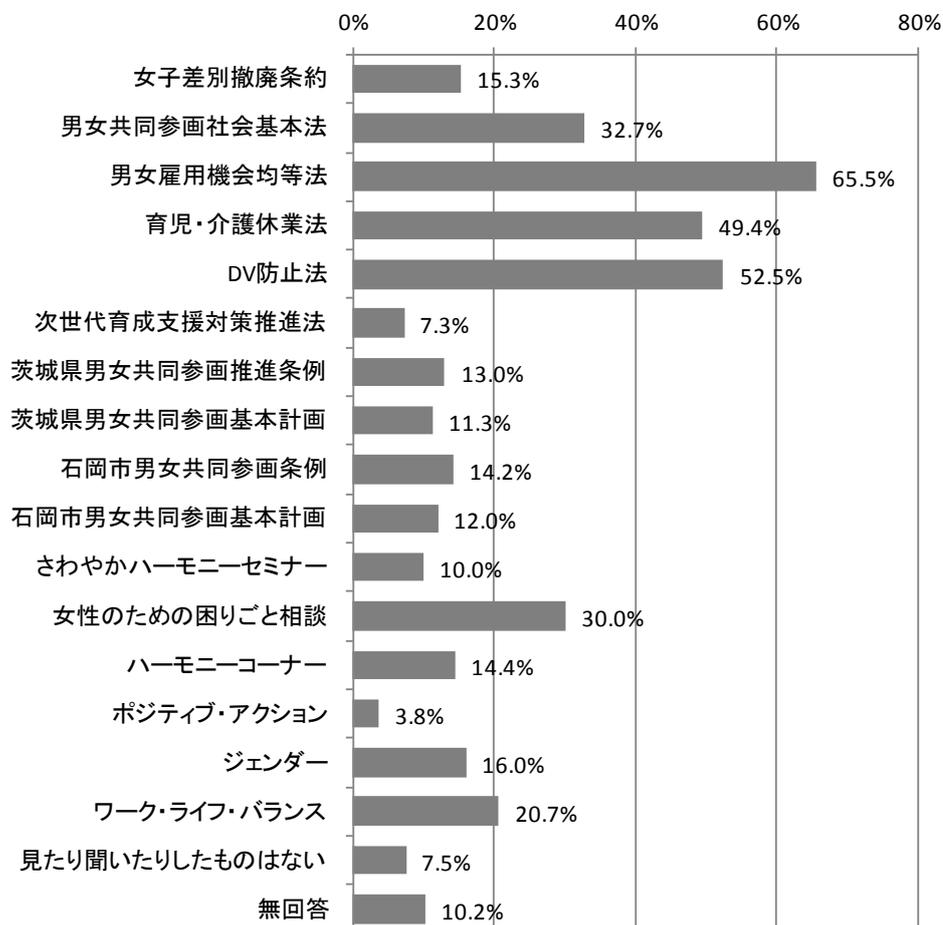
項目	回答数	構成比
どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	3	8.6%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	8	22.9%
相談しても無駄だと思ったから	9	25.7%
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	3	8.6%
加害者に「だれにも言うな」とおどされたから	0	0.0%
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	0	0.0%
自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	12	34.3%
世間体が悪いから	5	14.3%
他人を巻き込みたくなかったから	1	2.9%
他人に知られると、これまで通りの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	1	2.9%
そのことについて思い出したくなかったから	3	8.6%
自分にも悪いところがあると思ったから	9	25.7%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	4	11.4%
相談するほどのことではないと思ったから	14	40.0%
その他	3	8.6%
無回答	1	2.9%
回答者数	35	
非該当	817	
合計	852	

※回答者数が少ないため表のみ記載しています。

【7 男女共同参画社会について】

問 19 次にあげる言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたことがありますか。
(〇はいくつでも)

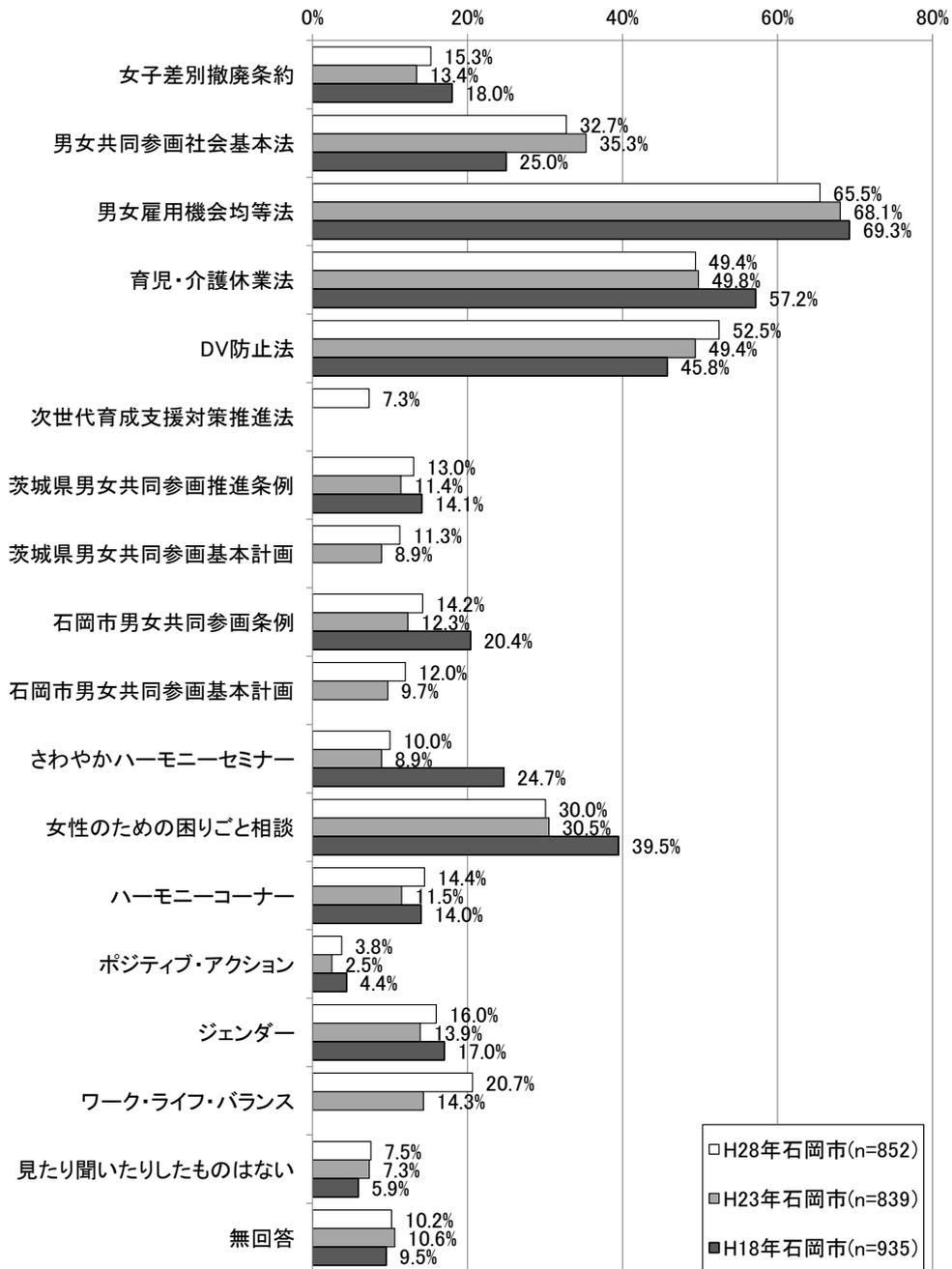
「男女雇用機会均等法」が 65.5%と最も多く、次いで「DV 防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)」52.5%、「育児・介護休業法」49.4%となっています。



項目	回答数	構成比
女子差別撤廃条約(女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約)	130	15.3%
男女共同参画社会基本法	279	32.7%
男女雇用機会均等法	558	65.5%
育児・介護休業法	421	49.4%
DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	447	52.5%
次世代育成支援対策推進法	62	7.3%
茨城県男女共同参画推進条例	111	13.0%
茨城県男女共同参画基本計画	96	11.3%
石岡市男女共同参画条例	121	14.2%
石岡市男女共同参画基本計画	102	12.0%
さわやかハーモニーセミナー(男女共同参画の意識啓発のために開催しているセミナー)	85	10.0%
女性のための困りごと相談(市役所本庁舎で毎月3回開催)	256	30.0%
ハーモニーコーナー(「広報いしおか」の男女共同参画関連記事のコーナー)	123	14.4%
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	32	3.8%
ジェンダー(文化的・社会的につくられた性差)	136	16.0%
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	176	20.7%
見たり聞いたりしたものはない	64	7.5%
無回答	87	10.2%
回答者数	852	

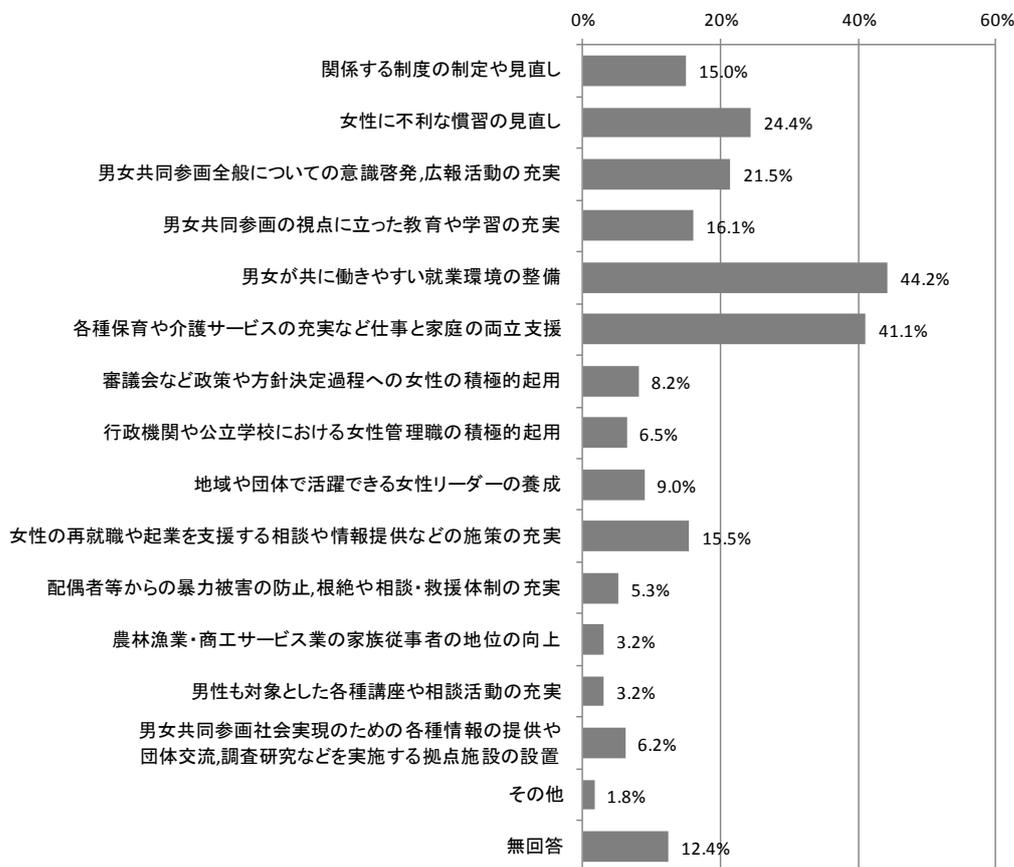
【経年 クロス集計】

経年で比較すると増加傾向にあるものは、「DV 防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)」となっており、また、減少傾向にあるものは、「育児・介護休業法」、「女性のための困りごと相談(市役所本庁舎で毎月3回開催)」、「さわやかハーモニーセミナー(男女共同参画の意識啓発のために開催しているセミナー)」となっています。



問 20 男女共同参画社会を実現するためには、市は今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。（〇は3つまで）

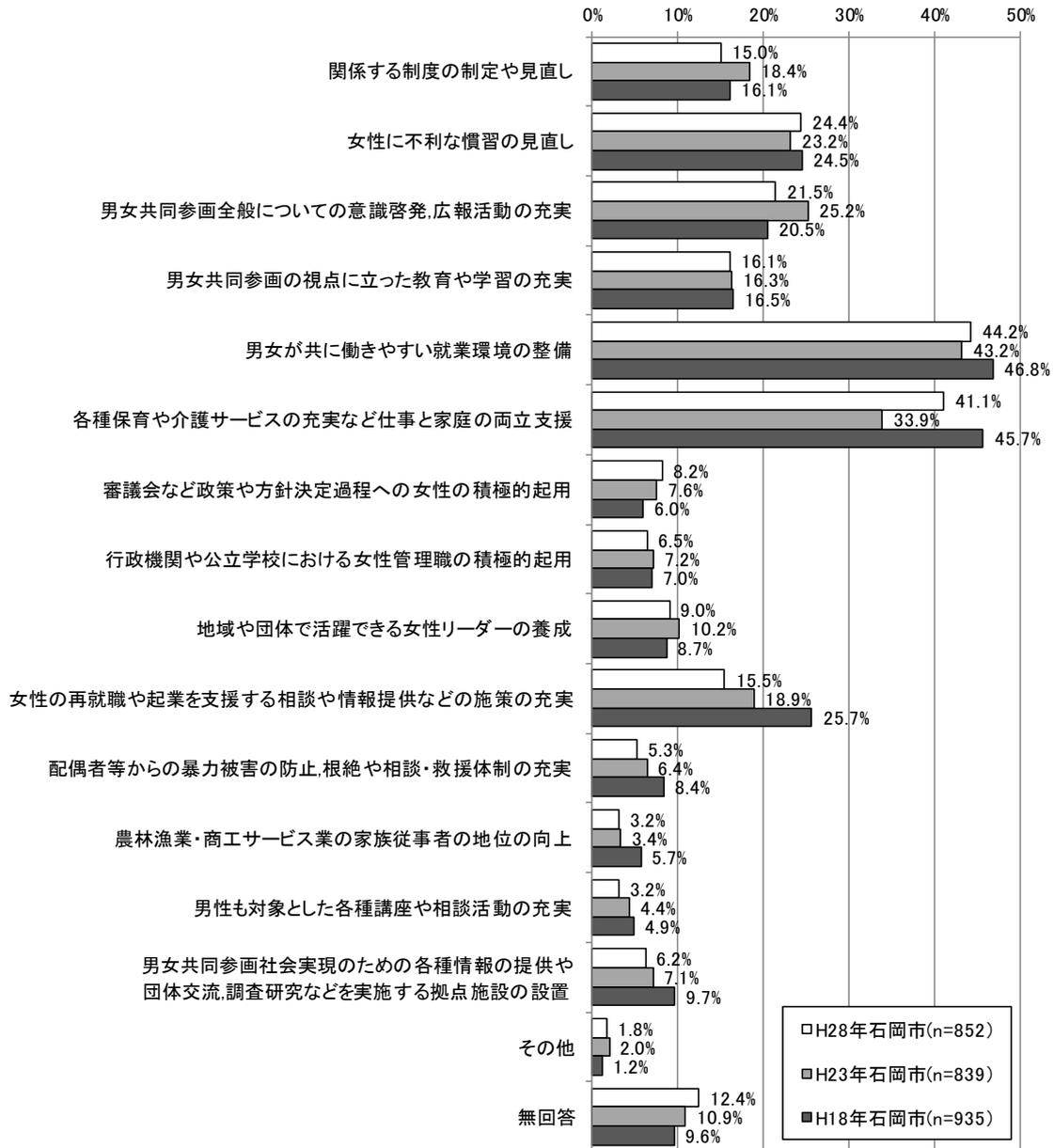
「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が44.2%と最も多く、次いで「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」41.1%、「女性に不利な慣習の見直し」24.4%、「男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実」21.5%となっています。



項目	回答数	構成比
関係する制度の制定や見直し	128	15.0%
女性に不利な慣習の見直し	208	24.4%
男女共同参画全般についての意識啓発,広報活動の充実	183	21.5%
男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実	137	16.1%
男女が共に働きやすい就業環境の整備	377	44.2%
各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援	350	41.1%
審議会など政策や方針決定過程への女性の積極的起用	70	8.2%
行政機関や公立学校における女性管理職の積極的起用	55	6.5%
地域や団体に活躍できる女性リーダーの養成	77	9.0%
女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実	132	15.5%
配偶者等からの暴力被害の防止,根絶や相談・救援体制の充実	45	5.3%
農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上	27	3.2%
男性も対象とした各種講座や相談活動の充実	27	3.2%
男女共同参画社会実現のための各種情報の提供や団体交流,調査研究などを実施する拠点施設の設置	53	6.2%
その他	15	1.8%
無回答	106	12.4%
回答者数	852	

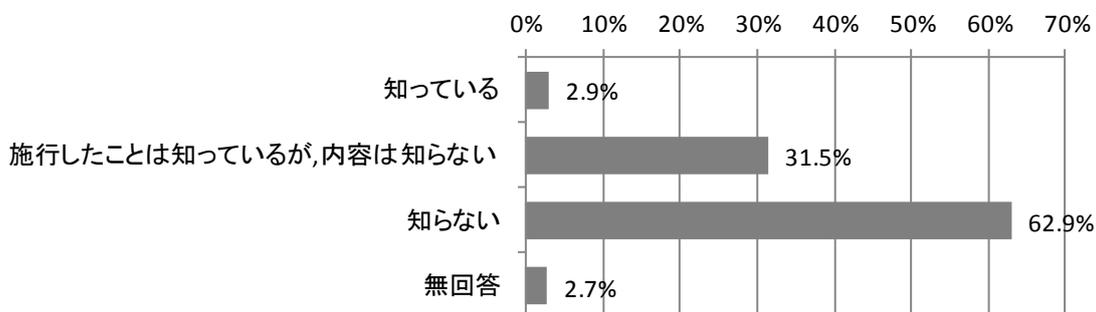
【経年 クロス集計】

経年で比較すると「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」では、平成 23 年に 11.8 ポイント減少し、平成 28 年に 7.2 ポイント増加しています。また、「女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実」では調査ごとに減少しています。



**問 21 石岡市では、平成 18 年 4 月から男女共同参画条例を施行していますが、あなたは
この条例の内容をご存知ですか。（〇は 1 つ）**

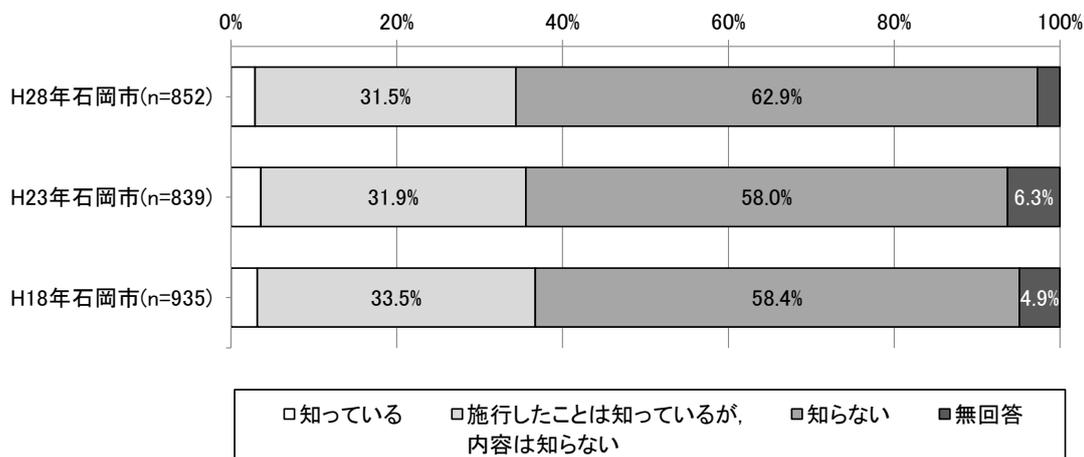
「知っている」が 2.9%、「施行したことは知っているが、内容は知らない」が 31.5%、「知らない」62.9%となっています。



項目	回答数	構成比
知っている	25	2.9%
施行したことは知っているが、内容は知らない	268	31.5%
知らない	536	62.9%
無回答	23	2.7%
合計	852	100.0%

【経年 クロス集計】

経年で比較すると「知らない」がやや増加しています。



問 22 男女平等や男女共同参画などについて普段感じていること、市へのご意見、ご要望等がございましたら、自由にご記入下さい。

※Ⅲその他記述・自由記述へ掲載

Ⅲ その他記述・自由記述

F 5-2 F 5-1で、1の「いる」にお答えいただいた方にお伺いします。一番下のお子さんは、現在次のどれに該当しますか。【6 その他】

- | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 28歳 | <input type="checkbox"/> 看護師 | <input type="checkbox"/> 職についている |
| <input type="checkbox"/> 30歳 | <input type="checkbox"/> 既婚者 | <input type="checkbox"/> 成人 |
| <input type="checkbox"/> 32歳 | <input type="checkbox"/> 教員 | <input type="checkbox"/> 成人1人 |
| <input type="checkbox"/> 40才 | <input type="checkbox"/> 勤めている | <input type="checkbox"/> 成人者 |
| <input type="checkbox"/> 40歳以上 | <input type="checkbox"/> 結婚 | <input type="checkbox"/> 専業主婦，自由業 |
| <input type="checkbox"/> 41歳 | <input type="checkbox"/> 結婚，市外 | <input type="checkbox"/> 専門職 |
| <input type="checkbox"/> 50代女性2人共主婦 | <input type="checkbox"/> 結婚2人 | <input type="checkbox"/> 孫，会社員 |
| <input type="checkbox"/> 60歳 | <input type="checkbox"/> 公務員 | <input type="checkbox"/> 他家養子 |
| <input type="checkbox"/> アルバイト | <input type="checkbox"/> 雑貨屋店員 | <input type="checkbox"/> 地方公務員 |
| <input type="checkbox"/> サービス業 | <input type="checkbox"/> 仕事をしている | <input type="checkbox"/> 働いている |
| <input type="checkbox"/> サラリーマン | <input type="checkbox"/> 自営業 | <input type="checkbox"/> 独立 |
| <input type="checkbox"/> パートタイム | <input type="checkbox"/> 自立 | <input type="checkbox"/> 妊娠中 |
| <input type="checkbox"/> フリーター | <input type="checkbox"/> 社会人 | <input type="checkbox"/> 配管工 |
| <input type="checkbox"/> 衣服販売業 | <input type="checkbox"/> 社会人，勤め | <input type="checkbox"/> 被雇用者 |
| <input type="checkbox"/> 一人子 | <input type="checkbox"/> 社会人，就職 | <input type="checkbox"/> 被雇用者(事務職) |
| <input type="checkbox"/> 一般職 | <input type="checkbox"/> 社会人2名 | <input type="checkbox"/> 保育師 |
| <input type="checkbox"/> 嫁いでいる | <input type="checkbox"/> 主婦 | <input type="checkbox"/> 無職 |
| <input type="checkbox"/> 家事手伝い | <input type="checkbox"/> 主婦/バイト | <input type="checkbox"/> 娘2人，結婚して外に{1.
東京に 2. **に |
| <input type="checkbox"/> 介護職 | <input type="checkbox"/> 就業中 | |
| <input type="checkbox"/> 会社員 | <input type="checkbox"/> 就職 | |

F 7 あなたが現在生活しているご家庭の家族構成は、次のどれに該当しますか。【5 その他の世帯】

- 親子，孫，ひ孫
- パートナー
- 子どもとは別
- 夫婦と孫1人
- 姉，妹
- 姉弟
- 叔母，子
- 内院
- 特養に入所
- 親と子と孫とひ孫
- 施設
- 孫との**
- 祖母
- 祖母と夫婦
- 子と孫からなる世帯
- 老人ホーム在中

問3 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことは何でしょうか。(〇は2つまで) 【6 その他】

- 世代間の認識の格差をしっかりとデータ化して問題点を洗い出す。
- 男だ女だと言う前に、人を何かで括るのをやめてひとりひとりと向き合う事が”先”では？
- 基本は平等になっている。男の得意な所、女の得意なことをもっとおしすすめる。
- 子育てこそ社会参加です
- 男性が家事を行うことがおかしいという偏見をなくす
- 男性は仕事を優先すべきという慣習を見直し、男性でも育児参加や子育てに積極的になれる空気をもっと広めるべき。
- 出産後、必ず元の職場に戻す法律
- 偏見を持つ人に対しての意識改革が必要
- 男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること
- 結局、子どもができると女性が会社を辞めなければならないのが主。
- 義務教育(小学校、中学校)高校の期間に男女平等について子ども達に考えてもらう時間があると良いかもしれないと思う
- 良い面、悪い面での決断は男性にはかなう事なし。男は仕事、女性は家庭それでよし。
- 女性自身の意識改革
- 男女の持っているものは違うので平等にはなれないと思います。
- 女性自身が男性と同等社会人として自覚持ち、職場で実行すること。(安易に休まないこと)
- 学力、技術、実力で平等になる機会を作ること
- 女性自身が変わり地域活動やいろいろな場に参加する。
- 小学校、中学校で男女平等を考える機会を持つ(現時点でそういう機会があるのかもしれないが、不明なので)
- 嫁の介護に対する固定観念。法律が理にかなってない。
- 男女平等にしなくていいと思います。女性の方が実際弱いから。
- 女性だから、男性だから〇〇するという風潮を無くす。
- 女性を優遇する法律や制度を新たに作る必要はないが、住民組織の代表者(区長等)や、職場の女性割合 目標値を設定する等により、女性が当然に社会参加する事があたりまえになること。
- 男性が積極的に育児休暇等を取れる環境作り。
- 女性が働きやすい環境を整えること
- 自分が男性の影となり、何ごと男性に任せてしまう傾向がある。法的には男女平等なので、女性自身が積極的になれば、女性差別はなくなる。大分女性優位になって来たと思うので、女性が力を付ける事です。
- 差別と区別を確りを理解させた方が良い。
- 職場の増加が必要
- 国や地方公共団体等は法律や制度立场上推進しやすいと思います。基本的には全体が雇用者(異論もあるでしょう)であるから民間企業は難しいでしょう
- 育児への理解や育児復帰などをしやすい環境作りや考え方を改めるなど
- 男女の平等という概念が不明。それぞれの役割を同等には担えないので重要度における優先順位をつけた役割を丁寧に社会の規範の中に根付かせていくことが大事。

問8(3) (2)の実際の方が、(1)の理想の数よりも少ない方にお伺いします。その理由は何ですか。(〇は3つまで) 【8 その他】

- 医師に止められたため
- 出産したばかりの為
- どんどん下の子が増えると上の子の負担が少なからず増えるからかわいそう。
- 病気の為
- 離別しているため
- 母親自身の病気の為
- 介護者がいて介護の仕事が入ったら

- 妊活中
- 不妊治療を7回行ったが経済的、年令的に負担が重くなった。
- 収入がそれ程無い。
- 1人目を出産したばかりだから
- 仕事の給料が低いため
- 私が欲しがらなかったから（妻は3人欲しかった）
- 病気の為
- つわりがひどかった。
- 結婚すら出来ないから
- 私は高額所得者に選ばれた事があったが、私の子どもを大学迄教育させるのがやっとだった。
- 未婚だから
- 体の都合で出来ません
- 現在乳幼児を育てている為
- 積極的ではないが子どもの順が男子1人、女子1人だったため。

問10 男性が女性とともに家事，子育て，介護，地域活動に積極的に参加していくためには，どのようなことが必要だと思いますか（○は3つまで） 【10 その他】

- 「男性が」「女性が」という根幹の偏見をなくす事
- 夫の収入で生活していけること。妻は子育て，地域活動など行えるよう共働きでは時間，体力などゆとりがなく穏やかな心で家族で過ごす時間がない。時間に追われる日々である。
- 男子女子共に役割があるはず。例，女性は力仕事に不向き。男性は細かい事に気付かず。
- 経済力
- 夫の給料を上げる
- 男女間だけでなくすべての偏見を無くす
- 家事，子育て，介護等を行うという強い意志を持つ事。
- 仕事+家事は体力的にきつそうなので，負担を平等に分ける。
- サービス残業，持ち帰りの仕事をなくす。労働調査を行うべきである。
- 相手の意見を尊重して夫婦で決めれば良い
- 婦人会や婦人部などの女性の会があることが，男女を意識的にわけていると考えます。（目的によっては，男性も参加できるように）
- 子育て，介護，地域活動で集まる場所が必要
- 行政の指導的役割が必要なのではないでしょうか？
- 保育園，幼稚園に預けられる年齢を4歳以上として，夫婦で協力して子育て，家事を分担しなければならないように条例化すること。（待機児童も減るはず）

問12-2 問12-1で，1，2，4，5とお答えいただいた方にお伺いします。その具体的な内容はどのようなことですか。（○はいくつでも） 【11 その他】

- 技術的な面や女性自身が仕事に区切りをもってる
- 仕事内容が男性向なので仕方がない
- 管理職の絶対数が男性のほうが女性より多い
- 派遣などの仕事で女性の事務で時給が高い所が多い
- 管理職になるのは，ほぼ男性
- 業務内容
- 職務内容により
- あきらかに給料がちがう。
- 出産後，元の部署への復帰はのぞめず，慣れない仕事に退職せざるをえない。
- 身だしなみ
- M字曲線

問 14-2 問 14-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。仕事を辞めた主な理由はなんですか。(○は1つ) 【12 その他】

- リストラ
- 家事に専念する為
- 次にやるべきことがあったから
- 仕事の内容合わず
- 会社適合, 希望退職, リストラ
- 会社都合のため
- 夫が亡くなり働き始めましたが, 更に資格を得るため大学院に入りました。
- 会社の都合で
- 育児休暇が短いと思ったため
- 会社の事業縮小のため
- 時短制度があるにも関わらず, 実際困難な状況であったため。辞めざるを得ず, 辞めるしかなかった。結局, 子育て中の女性に対する待遇は昔も今も変わらないのではないのでしょうか。疎まれるだけです。
- 不景気によりリストラ
- やりたい仕事へ
- 60歳になったので体を大切に
- 働いていた会社がなくなったから
- 仕事内容
- 出産のため退職をせまられた
- Uターンのため
- 高齢のため
- 発達障害があったため
- 会社の引っ越し
- 家業を継ぐため
- 自分のことがよくわからなかったと今は思います。
- 自分の人生計画に従った
- やりたい職業に就いたため
- 妊娠, 出産のため
- 引越し(転居)
- 新しい仕事に興味を持ったため
- 自立開業等による
- 家業を継ぐため
- 職種不向の為
- 希望退職が有り(夜勤がづらい)
- 仕事に情熱が感じられず, 己の能力も疑問を持ったため
- 長男のため
- 子どもを産むため
- 家業の跡継のため
- まったく違うことをしたかった。
- 妊娠したため
- 会社が倒産したため。
- 勤務先が閉鎖となったため
- 会社から遠くになったため(家から)
- 孫の世話の為
- 自営業を継ぐために
- 学業のため
- 合理化による早期退職
- パートで出産した為
- 引っ越しした為
- 会社都合の早期退職

- 疲れたため
- 起業

問 14-4 問 14-3 で、3 の「したかったができなかった」とお答えいただいた方にお伺いします。再就職できなかった理由はなんですか。(○は3 つまで)
【12 その他】

- 年齢の問題
- 両親の介護(父 98, 母 94 で他界) 10 数年の介護で自分が高齢になってしまった。
- 実家を継いだ
- 退職をせまられたから
- 発達障害のため(?)採用されなかった
- 介護しなければならぬ義母がいたので
- 2 人目ができたため
- 正社員での仕事をしたかったが家事や育児がある為出来なかった
- 老齡の為

問 15 女性が働きやすくするためにはどんなことが必要だと思いますか。(○は3 つまで) 【10 その他】

- 何度も言うが、根底の考え方を変えないと同じだと思う。少なくとも貴方たちの職場では男女差別などないはずなので一般の職場と「誰の」「何が」違うのか検証してみてもは?
- 仕事を増やす
- 採用する側がもっと理解するべき。子どもがいる家庭がどれほど工夫して生活しているかをわかっておらず、理解しようともしてくれないですね。
- 男性がそれなりの給料を働けばよい
- 男性、女性、自分の考え方を変えて男女の平等の向上を図る。
- 下らない思い込みや常識から是正しない限り無理
- 全ての人個性等を理解する
- 仕事に働きやすくとか関係ないと思う。やるかやらないか
- 農業(自営業)なので、労働は自由である。
- (母子、父子家庭も含めて)産休、育休を3年まで可能とし、金銭面でも支援していく

問 16-2 問 16-1 で、1 の「している」とお答えいただいた方にお伺いします。それはどのような活動内容(分野)ですか。(あてはまる主なものに○を1 つ)
【11 具体的】

- 地域女性の会
- 食生活改善推進委員、シルバーリハビリ体操等
- 美化運動
- 文化、高齢者、子ども関係
- お祭り関係
- おまつり
- エンゼル、防犯パトロール
- 地区民生員
- 衣、食、住、家計についての講習会を開いている

問 17-1 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が参画することについて、あなたはどのように思いますか。(○は1 つ) 【6 その他】

- 何とも思わない。質問が既に差別的に感じます。
- 男女の実力次第
- 参画したい方が参画すべき

- 能力がある人が自然となるものだと思う。男女の人数に規定はないのだから。
- 見識があれば男も女もない
- 男女の数を比べる事はいけないと思う
- 能力に応じ参画する
- 委員等になった人の能力のある人
- 比率の問題ではないと思います。
- 男女関係なくやりたい人はやれば良い
- 男女関係なく、やりたい方、能力のある方がやれば良いと思う。
- 男女の人数で定めるものではない
- 実態不明 答えられない

問 17-2 問 17-1 で、1～3のいずれかと回答された方にお伺いします。議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたが特に重要だと思うものを選んでください。(○は1つ) 【7 その他】

- クォーター制の導入等
- 参加しやすいような柔軟な日時、場所の設定
- 男性の意識改革(特に中高年)

問 18-2 問 18-1 で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。それはどのようなことですか(○はいくつでも) 【11 その他】

- 実の母に対してもいじめを行う
- カード、通帳等を持ち歩かれる。・嫌がらせをする。・子どもをハダカにして外に出す ・子どもを怒鳴りつける ・私の意見はまるで聞かない ・私が言って欲しくない事をいう ・私の両親の悪口

問 18-3 問 18-1 で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。あなたは、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも) 【12 その他】

- そのため東京から茨城に来ました
- 自分で殴られない様に考えた
- 地域の人、近所の人
- 他人に相談せず同じ様にやり返した。

問 18-4 問 18-3 で 13「相談できなかった」14「相談しなかった」とお答えいただいた方にお伺いします。どこ(だれ)にも相談できなかった、あるいは相談しなかったのは、なぜですか。(○はいくつでも) 【15 その他】

- やっている本人は自覚がなさそう、手は出さないの。
- 酒によっていて、本人がおぼえてない。

問 20 男女共同参画社会を実現するためには、市は今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(〇は3つまで) 【15 その他】

- 平等になれば女性が優遇される立場になる。
- 50歳以上の男女の雇用
- 職場を増やす
- 保育園の預け時間, 18時以降は料金発生, 学童は18時以前は料金発生, こういう小さいものですが子どもが小さいうちは何かお金がかかります。こういうものが無くなる事を願います。料金が発生すればそこを避けるために会社を遅く行ったりせねばなりません。そうすると結局働きにくくなりまた辞める事になり得ます。夫があまり協力的ではないので、私にばかり負担です。保育園, 学童制度の改善を求めます。
- 誰にでもわかりやすい簡潔な内容の様々な法に關しての冊子作り等
- 特定の女性だけでなく広い範囲の女性の社会参加
- 9に關して, 優秀な男性が, 女性管理職の割合の目標の犠牲になる心配もある
- 会議や, 集会など女性が参加しやすいようにしてほしい

問 22 男女平等や男女共同参画などについて普段感じていること, 市へのご意見, ご要望等がございましたら, 自由にご記入下さい。【年代, 性別】

- 男女共同参画といっても男の意見が地域では通用している。もっと理解を望む。【60代, 男性】
- 社会全体の流れは「女性をいかに・・・」であることは, よく理解できる。だが, 職種や就業世代によっては「男なんだから・・・」という言葉で虐げられる男性も生じはじめていてはないか。”真の男女共同参画”は「両輪」の議論を進めなければ成立していかない時代になっているのではないかと私は思う。【30代, 男性】
- ①若い人の意見が出にくい。一般公募の枠を広げてはどうか? 特定の団体の長の任命はマンネリ化している。②審議会も夜の会議があってもよい。働いている若い人が出やすいように。③定年後の年金受給は高齢社会を生きるために最も重要なことと思われる。国民年金だけでは生活出来ない。女性の就業意識(年金のしくみ)に, 老後の生活を見越した教育が必要と考える。経済的自立が出来なくては真の男女平等はあり得ないと思う。【70代, 女性】
- 男女と書いた時点で区別している。男性も家庭の素晴らしさ, あたたかさ, 子どもの大切さ, 子育ての大変さが実感できないのが, 気付きがないまま見た目で子育てや女性を評価している。もっと男女ともすべての可能性や役割を肌で感じるべきです。大変な子育てをしながら働けというのは疑問! 男性も女性も! 男女共同参画に子ども(子育て)が入っていないと感じる。【50代, 女性】
- 幼稚園, 保育園に入れづらい。友人が子どもを預けて仕事をしたいけれど仕事が決まらなないと保育園に入れないと言っていた。子どもを預けてから, 資格の勉強して就職したい場合には難しい。【30代, 女性】
- 男女平等や男女共同参画について, 意識を求められたが, 回答しづらい質問が多かった。でも, この意識調査結果を市政に反映させる事は簡素だと思いますが, 男女平等の社会を築く事は出来ないと思います。【60代, 男性】
- 運送会社なので, 女性は事務の仕事をしています。来客へのお茶出しや電話が鳴ると必ず女性の私達がやります。それは仕方ないとして, 従業員(男性)が会社の食器やコップを少しでも使ったら自分で使ったものくらい自分で洗ってほしい。女性が洗うのが当たり前のようにシンクにどんと置かれている。冬場の灯油入れやトイレそうじ床そうじ, すべて女性2人でこなしています。大きなトイレ, 事務所も広いのでモップがけなど相当な重労働。それでも男性はやりません。私はパート(フルタイム)。もう一人の年配の女性は正社員。やっていることは大して変わりませんが, 私は丸7年勤めてるが時給が1円たりとも上がりません。女性だから・・・という感覚は常に感じます。バカにされている気も時々します。男性達は皆たばこを吸います。喫煙室があるにもかかわらず私達の前で平気で吸います。何度か向こうで吸うようお願いしても聞き入れてもらえません。本当ににくたらしいです。【40代, 女性】
- 男女平等の本来の意義を誤解している面が多々あると考えます。生物学的に男(オス)女(メス)は各々生来の能力差(体力等)を存ずる。従ってその能力の発揮する場(社会, 家庭等)が平等に扱われることが共同参画の主旨を考えます。その点の誤解払拭も併せて行う必要があると考え

ます【80歳以上、男性】

- 企業内での女性差別、意見無視などが女性の共同参画、意志等を後退させている。市として条例の中身が企業内でも生かされるよう企業に対する監視要請活動を実施すると共に女性からの申告に際しては企業に対する注意等も行うべきである。【70代、男性】
- 女性の議員を増やしてほしい。(女性の立場から石岡市を考える人を増やして欲しい)【20代、女性】
- 男女平等は難しいと思います。【60代、女性】
- 女性だからと許される部分もある。平等になると社会で行う事ではない気がする。自分自身はどう思うかである。仕事をしていても、やはり男性は自分の考えがブレない。男性には仕事をやる素質そのものがある。家事の平等を女性が言うのはちょっと違う。土地がら山、田、畑を持っているので、主人は休みの日は農業として働き、頭が下がる思いでいっぱい。家事という、家の中だけでも、女性がやれば均衡がとれていると思うので、主人に手伝ってもらう事はまったくない。それぞれの家の立場で考えるべきで、お互いが尊重し合えば、無理に平等などと言う言葉を使う必要はない。男性が出来ない事を女性が行い、女性が出来ない事を男性がやる。これで充分です。と子ども達にも伝えていきます。【40代、女性】
- 条例や施策が数多くあり、平等な社会を目指す行政の姿勢には頭が下がる思いですが、残念ながらそれらの活動がこのように郵送等で送られて来ない限り知り得ない事の方が多くあります。設問6のDVに対する行為を相談する先が、こんなにある事も恥ずかしながら初めて知りました。普段の自分達の生活を改善する為に行政が広く門戸を開けている事をもっと知れる機会があればと思います。全ての声を聞き叶える事は大変であると思いますがこれからも頑張ってください。【20代、女性】
- ①男女の差別は良くない。②実力があれば女性でも色々活動すべきである。【70代、男性】
- まず市議の議員が代表として男女共同参画の手本となるような考え、行動をとることから始めてほしい。【40代、女性】
- 求人などで男女の表示がなくなり、平等になったようですが、実際会社では、男性、女性の給料の差が大きく、同じ時間働き、責任も求められているのに大変不満に思う。育児休暇についても男性も取得できるようになっているが、休みを取ったあとの会社の対応(部署内)が悪くなかったりしているので、社会全体で変わっていかないといけないと思う。【20代、女性】
- 会社や社会において、常に女性は男性の下と思われがちです。特に地方(田舎)の農、林業、漁業従事者にあるように思います。やはり、時間がかかるとは思いますが当事者の意識改革、啓蒙、推進が必要ではないかと思えます。【50代、女性】
- 働き易い環境を整えるため、介護や保育の充実をお願いしたい。【40代、男性】
- 〔男女比による差別がある〕と考えることは安易であると思う。能力があれば、自然とそのポストに就くものであるし、それを男女の差で、採用できないのならば、いくら対策しようとムダである。大事なものは、人を選ぶ自分の公正な価値観である。それを持っていない人物が上にいればどうしようとも改善はされない。自分を客観視すること、自分にとっての利益ではなく社会にとっての利益を優先すること。金銭に対して潔白であること、これらを持っていないなら、何もしない方が賢明であると思う。平等をどう扱うかで自ずと見えてくると思う。以上【20代、女性】
- 若い人がいないので、定年の人ではなく若い夫婦が住めるまちにしてみらいたい。(教育費、保育費優遇など)【40代、男性】
- 男性優位の社会を見直し女性で能力のある人が社会のリーダーとして活動できる社会を作してほしい。性別に対する固定概念を改めていくことをしていただきたいと思う。【20代、男性】
- 困りごとの相談等もちろんですが、現実的な、金銭的な補助をもう少し充実させるべきかと感じます。【30代、男性】
- 意識改革が最も重要だと考えます。【40代、男性】
- 意識啓発広報活動が少ないと思います。【70代、男性】
- 男女平等と言うが、まだまだ女性の地位向上に努めなければならないと思う。男性が引っ張って行く世の中で良いと思う。変な意味での男女平等を述べている。女性はさらに地位向上のための努力が必要である。【70代、男性】
- 子どもを望む既婚女性が不妊治療に専念できるよう、職場の意識改革がなされればよいと思う。市の事業に関しては、このまま継続してもらいたいが、40~42歳の助成回数を通算3回ま

ではなく、5回程度にまで増やして頂きたいと思う。女性の雇用が促進されれば同時に婚期も延び、結果的に子どもを持つと行動し始める時期が現在よりも更に延びると思うからである。【30代、女性】

- 家事や育児は女性の仕事。この考えは今も昔も結局変わらないですね。家事、育児は本人のやる気の問題でもあるのでしょうか・・・。私が市に求めることは、時間外保育、時間外学童料金が発生するために会社を早退、遅刻しなければならない現実です。たかだか数百円ですがそれが毎日続けば良い額になってしまいます。たださえ子どもが3人小さくてフルタイムでは働けずパートのため給料は低いです。そんな中で、生活費の他にそういった子どものお金がかかります。時間外というものがなくなれば、女性はもっと働きやすくなると思うんです。正直、子どもがいない人、結婚していない人がいくら「男女は・・・」「子育ては・・・」と言っても何の説得力もありません。経験した人にしかわからない事だと思えます。でも、子どもがいる生活は充実していますし、給付金などもあるので、何かとありがたいとは思っております。あと少し。あと少し改善してくれるともっと助かるなあと思っている次第です。【30代、女性】
- 質問に答えてみましたが、正直「男女共同参画」と言われてもピンときません。もう少しわかりやすい言葉の方が伝わることも多いのではないかと思いました【30代、女性】
- 中学生ぐらいに内容がわかりやすく広報活動してはいかがでしょう？卒業時にこれから巣立つ若者へ冊子を記念として渡す等(18歳に選挙投票が開始されたので・・・)選挙法も男女平等の理念からなる事案だと思いますので・・・。20歳の記念に市民にはまた同じ物を冊子配布するとか、現在20歳以上の方にいきわたるように！アンケートも大事ですが、まずは身をもって見て考えて実践できるようにすべきと考えます。【40代、女性】
- 行政や企業の女性限定に絞った雇用体制をとり、男女比率の平均化。【30代、男性】
- 個々の意識が一番でないですか？【50代、男性】
- いろいろな面で、行政自身がまだ意識や制度、慣行にこだわっていると思います。【60代、無記入】
- 社会参画への女性間の意識格差があり過ぎる。市の住民への情報発信が下手。市内での広報紙の活用だけでなく、市外部(マスコミ等の活用)から内部への環流も考えるべきです。【60代、男性】
- 私の世代は家事、育児、介護は女性まかせで男性は仕事だという人が多かった。しかし子どもの世代になると“イクメン”が増えて、家事、育児に関しては協力的になったと思う。これからの労働力を考えたら、女性は貴重だから、その為にも女性が働ける環境作りをお願いしたい。一世帯の年収を増やす事によって、子どもの数も増え、明るい社会へと繋がると思います。【50代、女性】
- 昭和生まれの私にしましては今の女性は本当に良い時代です。平等に近いです。【70代、女性】
- 男が働き女が家事をするというのはいいと思いますが、家事、育児の合間に働きたいと思っても時間、曜日とうまく合わずなかなか働き口がないのが現状です。子どもが小学校は行って帰ってくるまでの間の時間に働きたいという人はたくさんいると思います。それでも大丈夫という会社がたくさん増えたらいいと思います。【30代、女性】
- 古来からももとは女性も男性と同様活躍していたと思いますが、明治以降の「男は仕事、女は家庭」との価値観が未だ根強く残り、それが伝統であるかのようにさえ誤解されている節があると感じています。若い人の中ではそのような男女意識は薄れつつある中、各種制度も整いつつあり(育休、産休、アファーマティブ、アクション等)現在が女性の地位向上の過渡期であると感じています。現代にどれだけ手を打つかで次の世代以降の男女意識が決定されると思いますので、教育、保育等にぜひ力を入れていただきたいと思います。【20代、男性】
- 市のみならず日本国全体で女性自身が出産、育児の大変さを乗り越え働く意識を向上させる事が第一。流れを作り上げること！！【50代、男性】
- AI、ロボットなどテクノロジーの進歩により、家事負担等の問題はいずれ多くが解決すると思われる。同様のことから職場での働き方も変化してくると思う。【40代、男性】
- 男女平等に関して長い間働いてきて感じた事は女性で管理職になる人は能力もあるし仕事もできる。しかし部下への指導能力がない。解任されてしまう。理性より感情を優先してしまう。女性自身変わるべきだ【60代、男性】
- ・慣習のようなものはなかなか一朝一夕には変わらないとは思いますが、色々な働きかけがあれば少しずつ意識も変わるかと思いました。(何もしなくては何も変わらないと思うので)

- ・個人の育った環境など、男性だから、女性だからというくくりではなくそれぞれのパーソナリティーによるところの意識で考え方が随分違ってくるものだと思います。でも、多くの人たちが家の外での環境の中で女性の活躍の場などが増えて、目にする機会も増えてくるようになれば全体的な意識も少しずつ変化していくのではないかと思います。
- ・性差による仕事の役割、多少はあって仕方ないと思うところもありますが、女だから、男だからという決めつけでない。色々な形態があるということが認められやすくなればよいかなと思います。
- ・行政の取り組みをもっと知らないといけないと反省しました。よりよい市民生活のために頑張ってください。期待しております。【40代、女性】
- 小、中、高校生への啓発等を強化して意識づくりを徹底する。【50代、男性】
- 教育等により徐々に実行して行く【60代、男性】
- 戦後前の教育が今も根強いと思う。時間はかかると思うが、本当の男女平等になる日を心から願う。【40代、女性】
- 男女平等は無理である。【50代、男性】
- 介護、病院等で単に女性の能力(気ばり)等を大変ありがたく感じる事が多々ある。適材適所の gentle:tender な考え方が大切であると思う。【60代、男性】
- 女性は小さな子がいると職につきにくいし、ついたとしても子どもの具合の悪い時など休みも増えてしまい、結局やめなくてはならなかったり、気を使う事も多い。面接などで子どもの具合悪い時はどうする？と聞かれる事もあり、働きやすい環境が整っていない。保育園に預ける時の短時間、標準時間の設定も短時間だと9時～17時の場合が多く、大体の会社は9時～仕事なので結局延長料金を払う事になり、標準時間よりかなり高くなる。短時間、標準時間の設定は必要だったのかな？と思う。【30代、女性】
- 現役世代より定年後の世代の方たちは女性の方が生き生きしているように思う。男女共同参画は、生涯学習においても継続してもらいたい。【50代、男性】
- 男女共同参画とは、言葉はよく耳にしますが、具体的にその実態を公的機関や企業でみたことはない。市役所にいく。テレビ等での女性の働く場所も多くなり、また重要なポストにも適用されているんだなあという感じは受けるし(大変うれしいこと)また女性だからという訳でなく女性ならではの柔らかなトークの仕方に理解できるし気楽に話かけられますね。特に管理職となると難しそうな理屈ならべてトークする男性職員よりも女性(例外もいますが、一般的に)の方がきめ細かなトークの方がはなしやすいという利点もある。【60代、女性】
- 男女平等とは、性差に関係なく男女の特性、能力、特手、不得手等の全般を考慮した上で公平な判断視点に立って同等な機会、処遇、扱い、評価等をすべきものと考えている。大事なことは、男性間でも女性間でも各々に格差があるように、当然男女間にも格差が生じるのは仕方がないと思うので、伝統や慣習あるいは感情論や思い込みを排して今の世に適した総合的な立場。観点から男女共同参画を推進してもらいたい。【60代、男性】
- 男女の分を知り行動するようにする。【70代、男性】
- 現在男女平等に随分なっていると思う。今更女性の地位向上とか言わなくても職場など女性が多い。ほとんどの所もある。(保育士など男性もいる)自分の意志で職業を選択できるしそんなに問題はなくなってきたと思う。若い共働きの夫婦は、家事なども手分けしてやっている。時代がずいぶん変化してきて家計を助けるために女性も働く事は当然なのかなと思う。育児や介護をサポートする施設は益々必要になってくる気がします。子どもはたくさん産んでもらえるような助成や施設は日本の経済を支える大事な基盤になっていくと思います。【60代、女性】
- 石岡市では平成18年4月から男女共同参画条例を施行しているとの事ですが全く知らなかった。今後は種々と勉強して参りたいと思っています。男性でも女性でも努力した者が報われる社会が望ましく思っています。【80歳以上、男性】
- 良い意味で男女平等にはしない方がいいと思います。女性の方は身体だって男性にはかないません。女性を守る法律は多くした方がいいが平等にする意味はない。【30代、無記入】
- 条例、基本計画等を作成しても、実践が伴わないと思う。行政が行動力を持ち、企業、団体、地域に働きかけて、官民一体となって、活動することが大事ではないか。一時的ではなく、継続的に啓発、事業を推進することが、埋もれた女性の掘り起こしになり、趣旨の発展に寄与するものと考えます。【70代、女性】
- 「男女共同参画」とはどのようなことなのかということを具体的に周知する。【60代、男性】

- 石岡市では平成18年4月から男女共同参画条例を施行しておりますが、私をはじめ多くの市民は条例の内容等に関しては知らない人が沢山いるのではないのでしょうか。出来ればこの機会に多くの市民の皆さんに知って頂く為にも何らかの方法で知って貰える様お願いします。【70代、男性】
- 女性を社会に押し出してあげる為には、保育所の数が足りなくては預けて仕事に出られません。また、児童が帰宅してから親が帰るまでの間、留守しなければならないので、児童を見てくれる制度(勉強なども)が充実すると良い。出産後、1年経ってから、仕事に戻るためには保育所に預けなければならないのに、保育所がどこも一杯で大変困りました、という声をととてもよく耳にします。どうぞ、保育所を作って下さい。でなければ、男女平等なんて言えないと思います。【50代、女性】
- 自分は昭和23年生まれなので昔はそのような考え方はなかったと思いますが、学校等での教育で大人になるまでにそのような考え方を身につける方が良いと思う。【60代、男性】
- 男女共同参画条例を市民にもう少しよくわかるようにしてほしい。【40代、女性】
- 男女平等は理想だが、女性しか出産ができないので、完全に平等を推し進めるのは誤りである。出産・育児後の女性が子育てをしながら働ける環境を作ってほしい。現在は介護はしていないので分からないが、介護される人はこれからも増えていくので、介護施設を増やすこと、職員を増やすことをしてほしい。学校のように行政が運営する介護施設があると良いのでは。ひとり親家庭の対応もよくしてほしい。【30代、女性】
- 個人レベルでの意識改革がまず必要と感じている。男性優位の意識がなくなれば、能力のある女性が社会貢献できないと思いながら生きてきました。行政等で啓発活動を続けていくことも重要です。市の条例も整っているなかで不平等感が払拭できないのは、私だけの問題なのではないでしょうか。【60代、女性】
- 古い習慣を見直すことが、男女平等への第1歩です。「女だからと言う」言葉を使っているうちは無理でしょう！！【50代、女性】
- 男性、女性の特性を生かし、尊重し合うことが大切かと思います。【60代、男性】
- 子育て中の親が住みやすい市に。私達、年寄りも同じです。【60代、女性】
- 夫婦ならお互いの意見が大事で協力し合えば良い事である。【60代、男性】
- 条例の内容がわかりませんので、配布などを検討してみたいはいかがでしょうか？【40代、男性】
- 国・県・市ともに人口減少が心配。1. 結婚活動への啓蒙・施策の充実 2. 少子化対策 3. 保育制度の充実 4. 教育費の予算増 等が確立された土台の上で「男女共同参画」活動が成立すると思う。【80歳以上、男性】
- まず、男女共同参画という言葉を知らない。何の事？という感じです。【40代、女性】
- 石岡市がこのような参画条例があるとは思わなかったの、そういう条例自体があるっていう事を、石岡市民にもっとPRすべきだと思う。ポスター、ちらし、活動などで、もっとみんなに知ってもらってからの話だと思う。【30代、男性】
- 教育で特に家庭教育が大切だと思います。核家族化が進んでいるので、新しい家族のあり方は、浸透しやすいのでは？(3世代では、今までの習慣が受け継がれていくので、)時代が変わってきていることを、子育てをすでに終えた世代も理解し、新しい家族の形をサポートできる体制やアイデアを皆で考えられる機会があるといいですね。女性はとても優秀な人が多いです。子育て中の人、子育てが終わった人も、地域の力として働ける場所をもっと作ってほしいと思います。【20代、男性】
- 男女平等と言っても、まだまだ女性自身、男性自身の考えが男は強い、女性は弱いと思っている。頭ではわかっているけど、男女平等など考えられない。(身体の違いもあり、職場の中でも男性の仕事、女性の仕事で分ける)男女共同参画について小学校からの教育で教えるようにしないと無理があると思います。【60代、女性】
- 各の条例や法律を施行しても、内容迄知っている人は少ないと思われます。早期実現を目指すのであれば市として教育・研修の実施が必要だと思います。男女平等と言っても比較出来ない面が沢山あるので、私は一定の基準を設けて理解する事が必要と考えます。【60代、男性】
- 市役所での女性の活役をまず始めよ。【20代、女性】
- 1. 市役所窓口受付等大分女性職員が多くなりよい事と思っている。 2. 今後は結婚して子どもができて保育等充分に対処できる様、当局で充分対処できる様お願いしたいと思います。【80歳以上、男性】

- 本当の男女平等は、押し付けるのでは無く、自然に平等になっていく事だと思います。それは、長い歴史の中で女性が下積みになっていた事実があるからです。したがって、まず女性が率先して社会に進出し、自ら参加する事です。しかし、現在は女性が、法的にも優遇され、保護されて、男性が委縮してしまっている状態ではないでしょうか。過去に比べれば、女性上位になっている傾向にあると思います。むしろ男性の積極性を指導してもらいたいくらいです。男性が嫁をもらえないのもその一例ではないでしょうか。【70代、女性】
- 結婚して、子どもが産まれても、学齢に達し、小学生に進んでいって、結局近くに祖父母がいなければ仕事を続けていけない環境にあることが多いと思います。緊急時、親や子の病気の時、介護が必要になった人がいる家庭とかにも手を差しのべられる場があれば男女共働けると思います。理想をいえば、どんな形であれ、働いて社会参画をしていきたい人々がいれば、その希望に対応できる職種や職場を作ることが目指す姿だと思います。【60代、女性】
- 市で行われている様々な活動を一人の市民としてもっと知るべきだと自分自身感じた。広報などの工夫により、一部の人だけでなく、広く市民に伝えることができるのではないかなと思う。【20代、女性】
- 男女共同参画について具体的に意味する事を知りたい。広報等で教えて下さい。【80歳以上、男性】
- 何にでも言えることですが、過度に行政が関与するとファシズム的な風潮がでてきます。必要性は理解できますが、ほどほどでよいのではないのでしょうか。現に職場では、育休取得者の我がまとも思えるふるまいに、上司も委縮し、ものを言いつらい雰囲気が出てきています。(その職場によって事情は大きく異なるでしょうけど)【30代、男性】
- 地域の集会在、男性と女性の会(婦人部)をわけており、そうじ当番などもわけてくまれています。昔ながらの慣習が変化することに強い抵抗感があるようです。女性と男性が共同参画するためには、お互いの立場を尊重し協力し合うことが大切で、環境を整えることが必要と考えます。今の時代、あえて婦人会や婦人部と女性の会をおく必要があるのでしょうか。内容を吟味し、見直して男女共同参画の形態に改善してはいかがでしょうか。【50代、女性】
- もっと、女性が働きやすいようにしてほしい。【60代、女性】
- 何をもって平等なのか視点によって見方が分かれると思います。双方で努力しているから社会が成り立っているのではないかな。【40代、男性】
- 男性社会と思いつつも、意見を言う環境でなかったこと、又、そのままの方が自分も楽に生活出来たこと、今反省しています。女性自身が問題意識を常に発していくことだと思います。【70代、女性】
- 法律はかなり女性に有利になりつつありますが、逆に男性に不利な面もあるように思います。安心して相談ができる施設の情報がほしいです。【60代、女性】
- 生活に余裕を持ってこそその平等と思っています。今の若い人達は本当に余裕を持っているのか疑問に思うことが多々有り「男女平等」が空しい掛け声に終わってしまいそうな不安があります。【60代、女性】
- 日本は先進国の中で、男女差別のある国だと新聞記事を読んだ事がある。これからの社会は女性も男性もお互いの違いをよく理解し、助け合い家庭、職場、社会そして国を作っていくってほしい。それには子どもの頃から教育現場で教えてほしいと思う。未来の日本を築く子どもたちに期待します。全国の自治会長及び町内会長の女性率は4.9%との記事を見た。石岡市内はもっと少ないと思う。男女共同参画とは、ほど遠い現実ではないだろうか。まず身近な地域活動の場から、もっと女性も進んで会長ができるよう、市の方も積極的に進めてほしい。【60代、女性】
- 「フェミニズム」男女平等。性別役割分担などの意識を変えて男性、女性も「自分らしく」生きられる社会30代以下の女性は働かなければ生活が成り立たない面もある。労働時間の問題(育児、子育て高齢者介護などの公的機関の支援の充実)。男性も女性もより働きやすくなるような職場環境の整備が重要。【70代、女性】
- 女性の参画は賛成する。障害は無くする必要はあるが女性自身の参画意識が大事である。【50代、男性】
- 女性だから男性だからという偏見を持たないようにしながらも、内容によっては男性しかできないこと、女性しかできないことがあるので、それをカバーしながら生活や仕事をする必要があると思う。【50代、男性】

- ①女性は正直で積極的であり行動力, 決断力が有る。おおいに登用すべき能力を所持している。
- ②管理職には向いていると思う。頭脳判断業務。【70代, 男性】
- 首長や家長, 社長などは男女どちらでも成り得ますが, 社会的な地位や権利と義務は条例や法律で管理, 運営できる為であって, 一方家庭という最小の社会の単位の中で父親や母親の役割, 権利, 義務を一元的に進化させることは難しいので, 共通部分を見据えながらもそれぞれ別のものとして取り組むべき。男女共同の社会と男女の平等, 義務の伴う権利とは区別して調査し研究すべき。【60代, 男性】

石岡市男女共同参画に関する市民意識調査

日頃から市政に対しご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。さて、市では、平成20年3月に「石岡市男女共同参画基本計画」を作成し、男女がとちにいきいきと個性や能力を発揮することができるまちづくりに向けた取り組みを進めてきました。

この度、第2次石岡市男女共同参画基本計画を策定するにあたり、男女共同参画に関する市民意識調査を実施し、新たな計画策定の基礎資料とさせていただきます。皆様のご意見や考えを広く市政に反映したいと考えています。

ご多用のところ大変恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

平成28年7月

石岡市長 今泉 文彦

【ご記入にあたってのお願い】

1 回答していただくかは…

この調査は、封筒のあて名のご本人がお答えください。事情によりご本人が回答できない場合は、ご家族の方がお答えいただいても構いません。

2 回答の方法は…

原則として回答記入欄の中であてはまる番号を○で囲んで下さい。お答えは設問ごと(○は1つ)(○は2つまで)などと指定されていますので、設問をよくお読みになってご記入ください。また、「その他」を選択された場合は、具体的内容を()内にご記入ください。

3 ご記入が終わったら…

無記名のまま、同封の返信用封筒に入れて、7月31日(日)までにポストへ投入してください。(切手は不要です)。

4 個人情報の取り扱い

調査は無記名でお答えいただき、回答結果については集計・分析にのみ使用しますので、目的以外に使用いたしません。

5 この調査に関するお問い合わせは…

石岡市役所 市長公室 政策企画課 男女共同参画担当：長谷川、植田、横瀬
〒315-8640 石岡市石岡一丁目1番地1
電話 0299-23-1111 (内線 224・226)
電子メール kikaku@city.ishioke.lg.jp

それでは、ご回答をお願いします。

あなたご自身について

F1 性別はどちらですか。(○は1つ)

1	男性	2	女性
---	----	---	----

F2 あなたの年齢(平成28年7月1日現在)は次のどれに該当しますか。

1	20歳未満	2	20～24歳	3	25～29歳
4	30～34歳	5	35～39歳	6	40～44歳
7	45～49歳	8	50～54歳	9	55～59歳
10	60～64歳	11	65～69歳	12	70～74歳
13	75～79歳	14	80歳以上		

F3-1 あなたの職業はどのような内容ですか。

(2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ)

1	農林業(自営業主)	2	農林業(家族従事者)
3	商工・サービス業(自営業主)	4	商工・サービス業(家族従事者)
5	自由業(自営業主)	6	自由業(家族従事者)
7	被雇用者(専門・技術職)	8	被雇用者(事務職)
9	被雇用者(労務職)	10	専業主婦・主夫
11	学生	12	無職

F3-2 上記F3-1で、7、8、9とお答えいただいた方にお伺いします。

(1) そのお仕事は常勤ですか。パートタイムですか。(○は1つ)

1	常勤(フルタイム)	2	パートタイム(パート、アルバイト、嘱託等)
---	-----------	---	-----------------------

(2) あなたの職名は何ですか。(○は1つ)

1	役職、管理職	2	非管理職、一般職
---	--------	---	----------

F4-1 あなたは結婚されていますか。

1	結婚している	2	結婚していないがパートと暮らしている
3	離別	4	死別
		5	未婚

F4-2 上記F4-1で、1と2にお答えいただいた方にお伺いします。あなたの

配偶者又はパートナーの方の職業はどのような内容ですか。(○は1つ)

(2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ)

1	農林業(自営業主)	2	農林業(家族従事者)
3	商工・サービス業(自営業主)	4	商工・サービス業(家族従事者)
5	自由業(自営業主)	6	自由業(家族従事者)
7	被雇用者(専門・技術職)	8	被雇用者(事務職)
9	被雇用者(労務職)	10	専業主婦・主夫
11	学生	12	無職

F5-1 あなたにはお子さんがいますか。

1	いる	2	いない
---	----	---	-----

F5-2 F5-1で、1の「いる」にお答えいただいた方にお伺いします。
一番下のお子さんは、現在次のどれに該当しますか。(○は1つ)

1	小学校入学以前	2	小学生	3	中学生	4	高校生
5	専門学校、短大、大学、大学院生	6	その他	()			

F6 あなたのお宅には、現在介護を必要とする高齢者の方はいますか。

1	いる	2	いない
---	----	---	-----

F7 あなたが現在生活しているご家庭の家族構成は、次のどれに該当しますか。

1	1人世帯	2	夫婦のみの世帯	3	親と子からなる世帯
4	親と子と孫からなる世帯	5	その他の世帯	()	

F8 あなたが現在お住まいの地区はどの中学校区になりますか。

1	石岡中地区	2	府中中地区	3	城南中地区	4	国府中地区
5	旧柿岡中地区	6	旧八郷南中地区	7	旧有明中地区	8	園部中地区

1 男女の地位の平等に関する意識について

問1 あなたは、次にあげる8つの分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれについて該当する「1～6」に○を1つ)

	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
(1) 家庭生活(家事・育児など)	1	2	3	4	5	6	
(2) 職場	1	2	3	4	5	6	
(3) 学校教育の場	1	2	3	4	5	6	
(4) 政治の場	1	2	3	4	5	6	
(5) 町内会、自治会などの住民組織	1	2	3	4	5	6	
(6) 地域活動	1	2	3	4	5	6	
(7) 社会通念、慣習、しきたりなど	1	2	3	4	5	6	
(8) 法律や制度	1	2	3	4	5	6	

問2 あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○は1つ)

1	男性の方が優遇されている
2	どちらかといえば男性の方が優遇されている
3	平等である
4	どちらかといえば女性の方が優遇されている
5	女性の方が優遇されている
6	わからない

問3 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことは何でしょうか。(○は2つまで)

1	法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2	女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3	女性自身が経済力をつけたり知識・技術を習得するなど積極的に力の向上を図ること
4	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5	国や地方公共団体や企業などの重要な役割に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6	その他(具体的に：)
7	わからない

3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の状況において、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際はどうですか。（現在、仕事を行っていない方は今後のお考えをお答えください。○はそれぞれ1つ）

- ・「仕事」・・・自営業主（農林漁業を含む）、家族従業、雇用者として週1時間以上働いていること。常勤、パート、アルバイトなどを問いません。
- ・「家庭生活」・・・家族と過ごすこと、家事、育児、介護、看護など。
- ・「地域・個人の生活」・・・地域活動（ボランティア活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味、娯楽、スポーツなど。

用語の意味

(3) (2)の実際の数が、(1)の理想の数よりも少ない方にお伺いします。その理由は何ですか。（○は3つまで）

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 出産・子育ての身体的・心理的負担が大きいため |
| 2 | 子どもの教育等経済的負担が増えるから |
| 3 | 年齢的な理由から |
| 4 | 仕事と子育ての両立が困難だから |
| 5 | 子育てに対して配偶者の理解、協力がいないから |
| 6 | 子育てより自分の時間を大切にしたいから |
| 7 | 欲しいけれどもできないから |
| 8 | その他（具体的に： _____） |

【理想】

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 「仕事」に専念している |
| 2 | 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している |
| 3 | 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している |
| 4 | 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している |
| 5 | 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している |
| 6 | よくわからない |

【実際】

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 「仕事」に専念している |
| 2 | 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している |
| 3 | 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している |
| 4 | 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している |
| 5 | 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している |
| 6 | よくわからない |

問10 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか（○は3つまで）

- | | |
|----|--|
| 1 | 家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること |
| 2 | 男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること |
| 3 | 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること |
| 4 | 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすること |
| 5 | 男性の仕事中心の考え方を改めること |
| 6 | 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間作りをすすめること |
| 7 | 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関心を高めるよう普及啓発や情報提供を行うこと |
| 8 | 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること |
| 9 | 労働時間短縮や休暇制度を普及させること |
| 10 | その他（具体的に： _____） |

4 就業について

問11 就業に関してお伺いします。

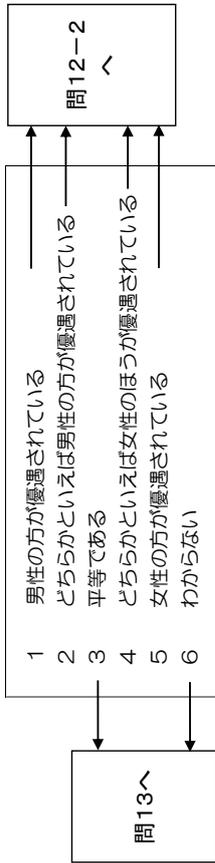
(1)仕事をこなす能力に対する男女差はあると思いますか。(○は一つ)

1	あると思う	2	どちらかといえばあると思う	4	ないと思う	5	わからない
3	どちらかといえばないと思う	4	ないと思う	5	わからない		

(2)男性向き、女性向きの仕事内容はあると思いますか。(○は一つ)

1	あると思う	2	どちらかといえばあると思う	4	ないと思う	5	わからない
3	どちらかといえばないと思う	4	ないと思う	5	わからない		

問12-1 職場における男女の地位は平等になっていると思いますか(3ページ)問1の(2) 職場と同じ答えになります。(○は一つ)



問12-2 問12-1で、1, 2, 4, 5とお答えいただいた方にお伺いします。その具体的な内容はどのようなことでか。(○はいくつでも)

1	採用時の条件
2	賃金、昇進、昇格
3	能力の評価
4	女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を固定的に分ける
5	仕事に対する責任の求められ方
6	研修の機会や内容
7	有給休暇の取得のしやすさ
8	育児・介護休暇の取得のしやすさ
9	女性に対して結婚、出産退職などの慣習がある
10	転勤や異動
11	その他(具体的に:)

問13 次の仕事へのかわり方について、あなたはどのようにお考えですか。

(それぞれについて該当する「1~5」に○を1つ)

	その 思う	どちらか 思う	どちらか 思わない	わからない
(1)女性は結婚するまでは、仕事を続けた方がよい	1	2	3	4 5
(2)女性は子どもができるまでは、仕事を続けた方がよい	1	2	3	4 5
(3)女性は子どもが生まれても仕事を続ける方がよい	1	2	3	4 5
(4)女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても、その時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい	1	2	3	4 5
(5)女性は仕事を一生持たない方がよい	1	2	3	4 5
(6)男性は家族を支えるため、仕事を中心に生活した方がよい	1	2	3	4 5
(7)男女問わずフルタイムの仕事よりは、自由時間の多いパートの仕事の方がよい	1	2	3	4 5
(8)男女問わず家庭・家族との触れあいが充実することで仕事にも良い影響を与えようと思うから、うまくバランスをとりながら生活した方がよい	1	2	3	4 5
(9)男女問わずできることなら仕事よりも家庭・家族との時間を大切にしたい方がよい	1	2	3	4 5

問14-1 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(○は1つ)

1	ある	問14-2へ	2	ない	問15へ
---	----	--------	---	----	------

問14-2 問14-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。仕事を辞めた主な理由はなんですか。(○は1つ)

1	健康上の理由のため
2	家事や育児に専念するため
3	家事や育児との両立が困難であるため
4	高齢者や病人の介護のため
5	経済的に働く必要がなくなったため
6	賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため
7	勤め先の人間関係のため
8	結婚(自主的)のため
9	勤め先で、結婚・出産退職の慣習があったため
10	夫(妻)の転勤のため
11	家族の反対や無理解のため
12	その他(具体的に:)

5 地域活動・社会参画について

問14-3 問14-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。
仕事を辞めたあと、再就職しましたか。(○は1つ)

1	した	2	しない	3	したかったができなかった	→	問14-4へ
---	----	---	-----	---	--------------	---	--------

問14-4 問14-3で、3の「したかったができなかった」とお答えいただいた方にお伺いします。再就職できなかった理由はなんですか。(○は3つまで)

1	希望する仕事(職種)が見つからなかった
2	希望する雇用形態(待遇・時間帯)の仕事が見つからなかった
3	家庭生活とのバランスや面立が難しかった
4	自宅の近く又は通勤が可能な地域で見つからなかった
5	自宅や職場近くで子どもをあずける場所が見つからなかった
6	仕事に見合う資格がなかった
7	パートナーの協力や理解が得られなかった
8	自身の体力・健康上の理由
9	家族の健康
10	夫の税金控除や扶養手当との関係
11	再就職することに対して不安があった (具体的に:)
12	その他 ()

問15 女性が働きやすくするためににはどんなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

1	労働時間の短縮や休日の増加を促進する
2	保育施設や介護のための施設・サービスを充実する
3	育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る
4	出産・介護などで退職した女性の能力を生かした再雇用制度を充実する
5	昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女間格差を是正する
6	各種研修や職業訓練などの機会を充実する
7	フレックスタイム制や在宅勤務制度などの導入を促進する
8	女性の起業に対する相談窓口の設置など行政のサポート体制を強化する
9	女性が働くことや起業することに対する社会的理解の向上を図る
10	その他(具体的に:)

問16-1 あなたは現在、町内会やボランティアなどの地域活動はしていますか。

1	している	→	問16-2へ	2	していない	→	問16-3へ
---	------	---	--------	---	-------	---	--------

問16-2 問16-1で、1の「している」とお答えいただいた方にお伺いします。
それはどのような活動内容(分野)ですか。(あてはまる主なものに○を1つ)

1	まちづくり関係	2	自然環境保護関係	3	子ども関係
4	高齢者関係	5	障害者関係	6	安全・安心な生活関係
7	健康や医療関係	8	スポーツ・文化関係	9	災害関係
10	町内会関係	11	その他(具体的に)		

問16-3 問16-1で、2の「していない」とお答えいただいた方にお伺いします。

地域活動をするかどうか(○は1つ)

1	以前、地域活動をしていたが、現在はやめている
2	現在、地域活動をするための準備をしている
3	今後、地域活動をしたいと思うが、現在はそれに向けた準備はしていない
4	地域活動はしたいと思わない
5	わからない

問17-1 議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が参画することについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1	男性を上回るほど増える方がよい
2	男女半々になるくらいまで増える方がよい
3	男女半々まではいなくても、今より増える方がよい
4	今のままでよい
5	今より少ない方がよい
6	その他(具体的に)

問17-2 問17-1で、1~3のいずれかと回答された方にお伺いします。

議員や審議会委員など、政策方針決定の場に女性が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたが特に重要だと思われるものを選んでください。(○は1つ)

1	人々の抵抗感をなくすこと
2	男性優位の組織運営を改善すること
3	女性の能力開発の機会を充実させること
4	女性自身が積極的な参画意識をもつこと
5	家族からの支援や協力があること
6	政策方針決定の場に女性の比率を高めるための取組を充実させること
7	その他(具体的に)

6 ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人等からの暴力)について

問18-1 配偶者(元配偶者も含む。)や恋人から暴力(問18-2のようなこと)を受けた経験はありますか。(○はひとつ)

1 ある	→	問18-2へ
2 ない	→	問19へ
3 わからない	→	

問18-2 問18-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。それはどのようなことですか(○はいくつでも)

1 大切にしているものをわざと捨てたり壊したりされる	
2 「ばかだ、役立たずだ」などと言われる	
3 外出や人との付き合いを制限される	
4 身体を傷つける可能性のあるもので殴られる	
5 平手で打たれる	
6 げんこつで殴られたり、足で蹴られたりする	
7 大声でどなられたり、暴言を吐かれる	
8 嫌がっているのに性的行為を強要される	
9 何を言っても無視され続ける	
10 生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる	
11 その他(具体的に:)	

問18-3 問18-1で、1の「ある」とお答えいただいた方にお伺いします。あなたは、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

1 県婦人相談所・配偶者暴力相談支援センターに相談した	
2 県民センターなど上記以外の県の相談窓口で相談した	
3 石岡市の相談窓口で相談した	
4 警察に連絡・相談した	
5 法務局、法テラス、人権擁護委員に相談した	
6 上記(1~5)以外の公的な機関に相談した	
7 民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど)に相談した	
8 医療機関者(医師、看護師など)に相談した	
9 学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)に相談した	
10 家族や親せきに相談した	
11 友人・知人に相談した	
12 その他(具体的に:)	
13 相談できなかった	
14 相談しなかった	

問18-4 問18-3で13「相談できなかった」14「相談しなかった」とお答えいただいた方にお伺いします。どこ(だれ)にも相談できなかった、あるいは相談しなかったのは、なぜですか。(○はいくつでも)

1 どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	
2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから	
3 相談しても無駄だと思ったから	
4 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	
5 加害者に「だれにも言うな」とおどされたから	
6 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	
7 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	
8 世間体が悪いから	
9 他人を巻き込みたくなかったから	
10 他人に知られると、これまで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	
11 そのことについて思い出しなくなかったから	
12 自分にも悪いところがあると思ったから	
13 相手の行為は愛情の表現だと思ったから	
14 相談するほどのことではないと思ったから	
15 その他(具体的に:)	

7 男女共同参画社会について

問19 次にあげる言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたことがありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----|--|
| 1 | 女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約） |
| 2 | 男女共同参画社会基本法 |
| 3 | 男女雇用機会均等法 |
| 4 | 育児・介護休業法 |
| 5 | DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律） |
| 6 | 次世代育成支援対策推進法 |
| 7 | 茨城県男女共同参画推進条例 |
| 8 | 茨城県男女共同参画基本計画 |
| 9 | 石岡市男女共同参画条例 |
| 10 | 石岡市男女共同参画基本計画 |
| 11 | さわやかハーモニーセミナー（男女共同参画の意識啓発のために開催しているセミナー） |
| 12 | 女性のための困りごと相談（市役所本庁舎で毎月3回開催） |
| 13 | ハーモニコーナー（「広報いしおか」の男女共同参画関連記事のコーナー） |
| 14 | ポジティブ・アクション（積極的改善措置） |
| 15 | ジェンダー（文化的・社会的・社会的につくられた性差） |
| 16 | ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） |
| 17 | 見たり聞いたりしたものはなし |

問20 男女共同参画社会を実現するためには、市は今後どのようなことに力をいれたいくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

- | | |
|----|---|
| 1 | 関係する制度の制定や見直し |
| 2 | 女性に不利な慣習の見直し |
| 3 | 男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実 |
| 4 | 男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実 |
| 5 | 男女が共に働きやすい就業環境の整備 |
| 6 | 各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援 |
| 7 | 審議会など政策や方針決定過程への女性の積極的起用 |
| 8 | 行政機関や公立学校における女性管理職の積極的起用 |
| 9 | 地域や団体で活躍できる女性リーダーの養成 |
| 10 | 女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実 |
| 11 | 配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実 |
| 12 | 農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上 |
| 13 | 男性も対象とした各種講座や相談活動の充実 |
| 14 | 男女共同参画社会実現のための各種情報の提供や団体交流、調査研究などを実施する拠点施設の設定 |
| 15 | その他（具体的に：） |

問21 石岡市では、平成18年4月から男女共同参画条例を施行していますが、あなたはこの条例の内容をご存知ですか。(〇は1つ)

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 知っている |
| 2 | 施行したことは知っているが、内容は知らない |
| 3 | 全く知らない |

問22 男女平等や男女共同参画などについて普段感じていること、市へのご意見、ご要望等がございましたら、自由にご記入下さい。

これですべての調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

石岡市男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

平成 29 年 1 月

石岡市役所 市長公室 政策企画課 男女共同参画担当

〒315-8640 茨城県石岡市石岡一丁目 1 番地 1

電話番号 0299-23-1111

URL; <https://www.city.ishioka.lg.jp>
